

TABIS IM MORAL

R 旅先インモラル

ぞんぷりん & アライブ

旅先インモラル

IM MORAL

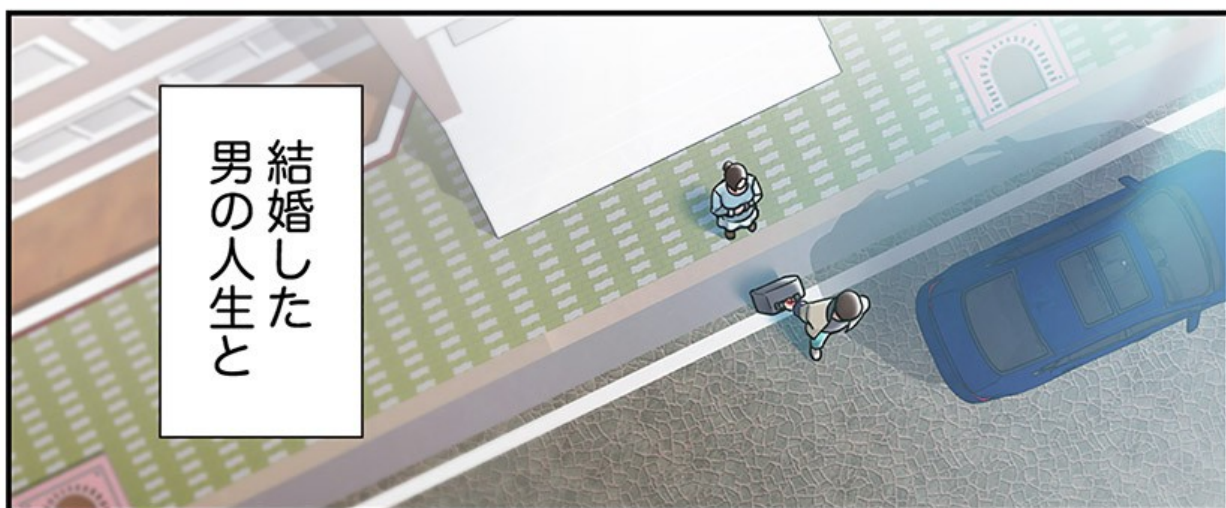
作画…ぞんぷりん

原作…アライブ



合本版 1

男の人生は
2種類に分類される









そして俺は今日
妻を置いて
4泊5日の
旅に出る

フオオオ...

結婚しなかった男は
これがどんなに素晴らしい事か
死んでも分からないだろう

束の間の自由！

ハッ！



もちろん
一人旅ではない



一番親しい友人と
結婚以来いつも
夢見てた旅行だ



あ穂乃香さん！
お元気でしたか？



ゆうた
雄太さん！



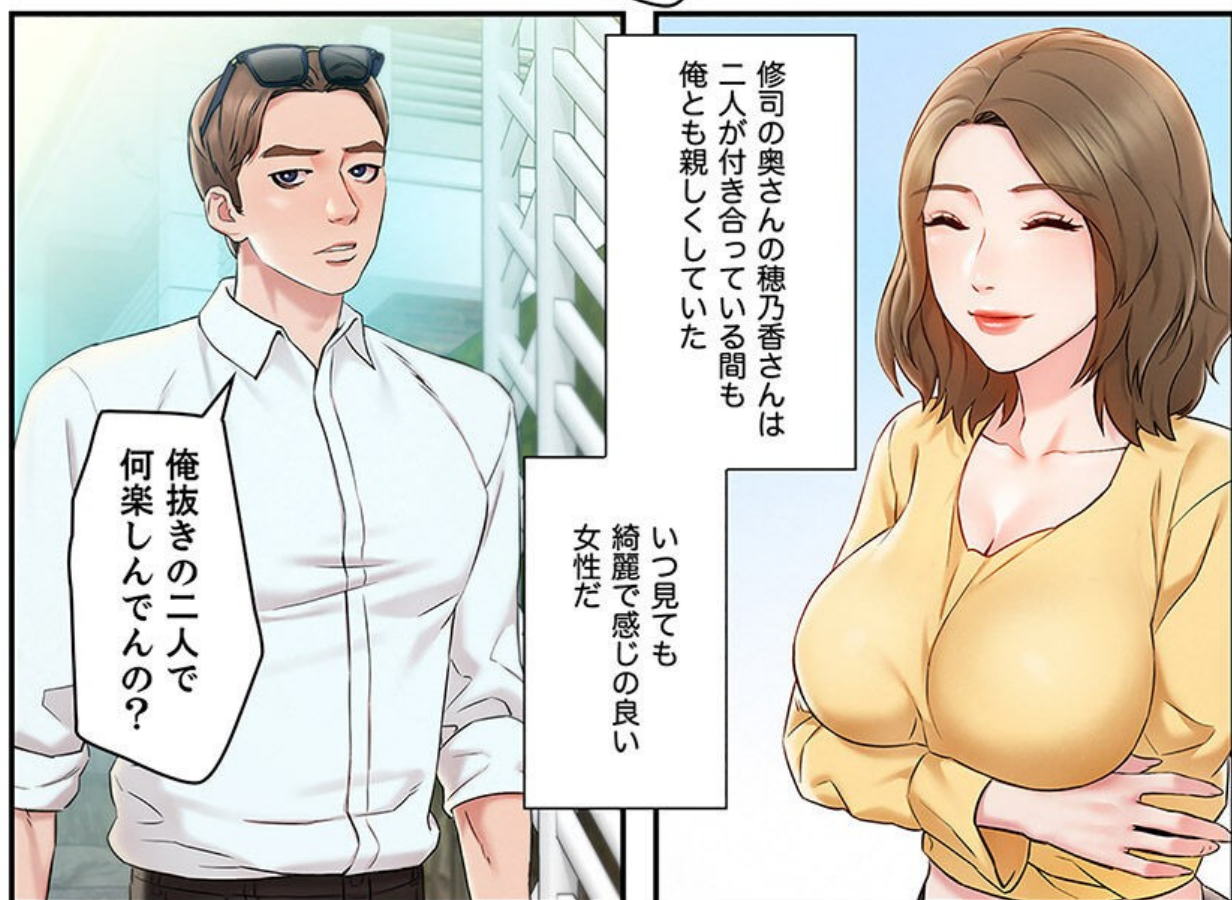
修司^{しゅうじ}さんも
すぐ来ると思います

待っている間
話し相手になろうと
思いました



じゃあいつその事
修司さんが来る前に二人で
出掛けちゃいますか？

修司の奴
お願いだから
ちよつとゆっくり
出てくれば良いのに…



俺抜きで二人で
何楽しんでんの？

修司の奥さんの穂乃香さんは
二人が付き合っている間も
俺とも親しくしていた

いつ見ても
綺麗で感じの良い
女性だ



うるせー
早く荷物を
俺の車に運べって

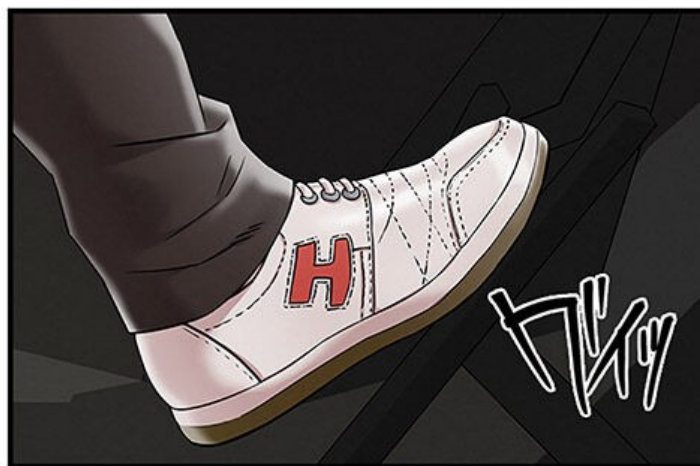
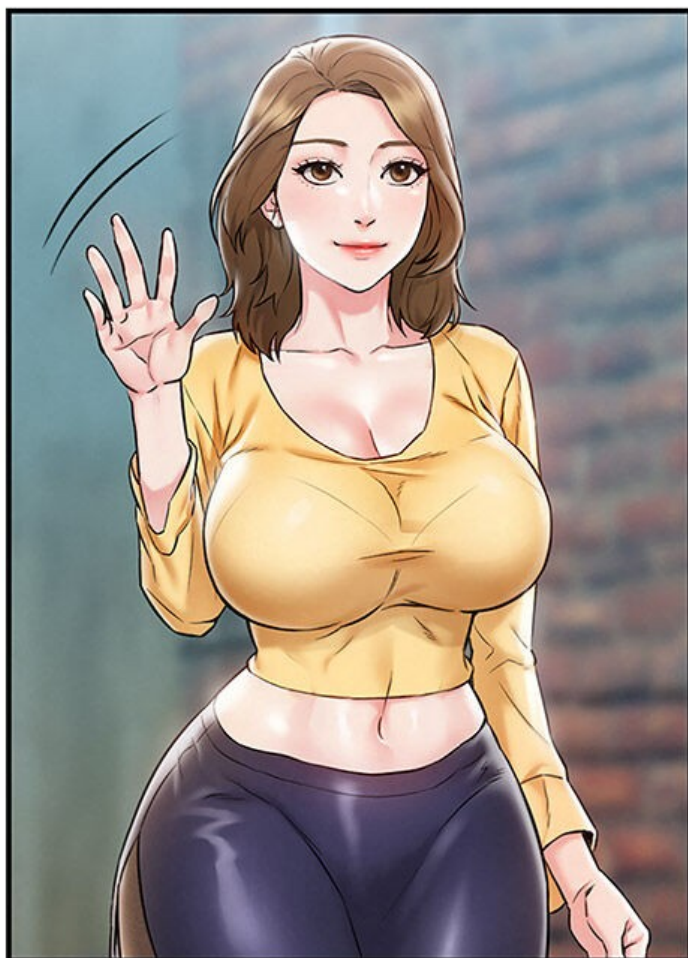


おいお前は空気
読んでもう少し
遅く出てこいよ





雄太さんと一緒じゃ
なかったらこの旅行
許可してませんからね



世間知らずだった俺は
その友情が永遠に
続くと思ったけど

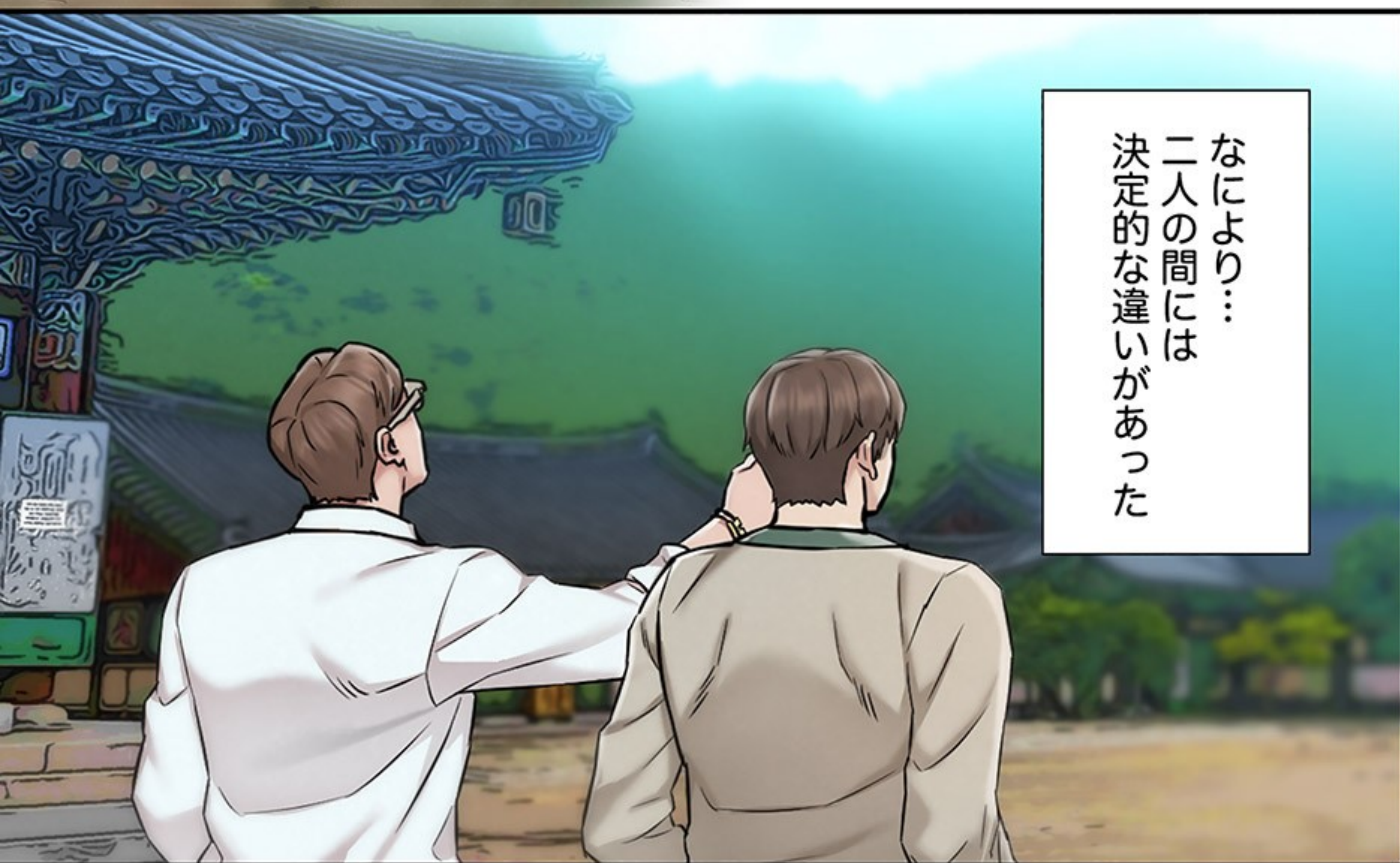
お互い結婚してからは
その予想が外れ少しずつ
疎遠になっていった



修司と俺は
高校の頃から
親友だった



なにより：
二人の間には
決定的な違いがあった



修司は地主の親の力を借り
大学を卒業してからすぐ
事業を始め…



それが軌道に乗り
良い家や良い奥さんを得て
誰もが羨む人生を送っていた

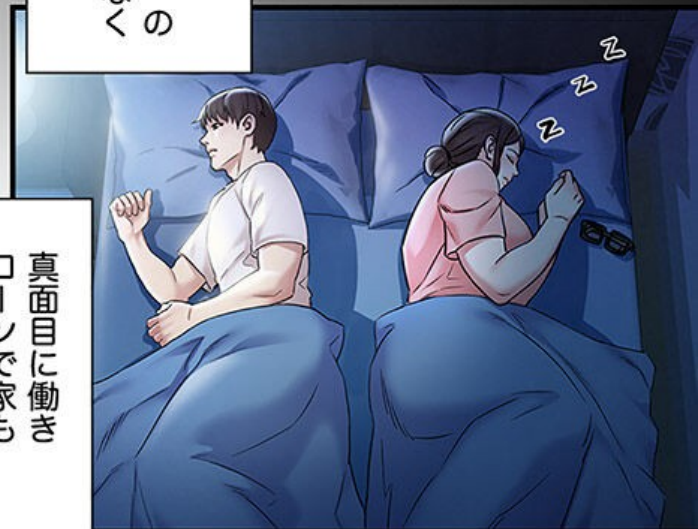


一方俺の方は大学を卒業し
やっとの事で就職した会社で
苦勞を重ねながら生活し

大学の頃から
付き合っていた唯一の
女性と選択の余地なく
結婚をした



真面目に働き
ローンで家も
手に入れ給料も
少しは上がったけど





修司の事を考えると
俺自身の人生が
みすぼらしく思える

肉は別腹だから
大丈夫だって



おい 後で焼肉食うから
食べるの少しだけにしとけよ



友情が永遠ではない事には
きちんと理由があるのだと
あの頃の俺は何で
分からなかったんだろうか

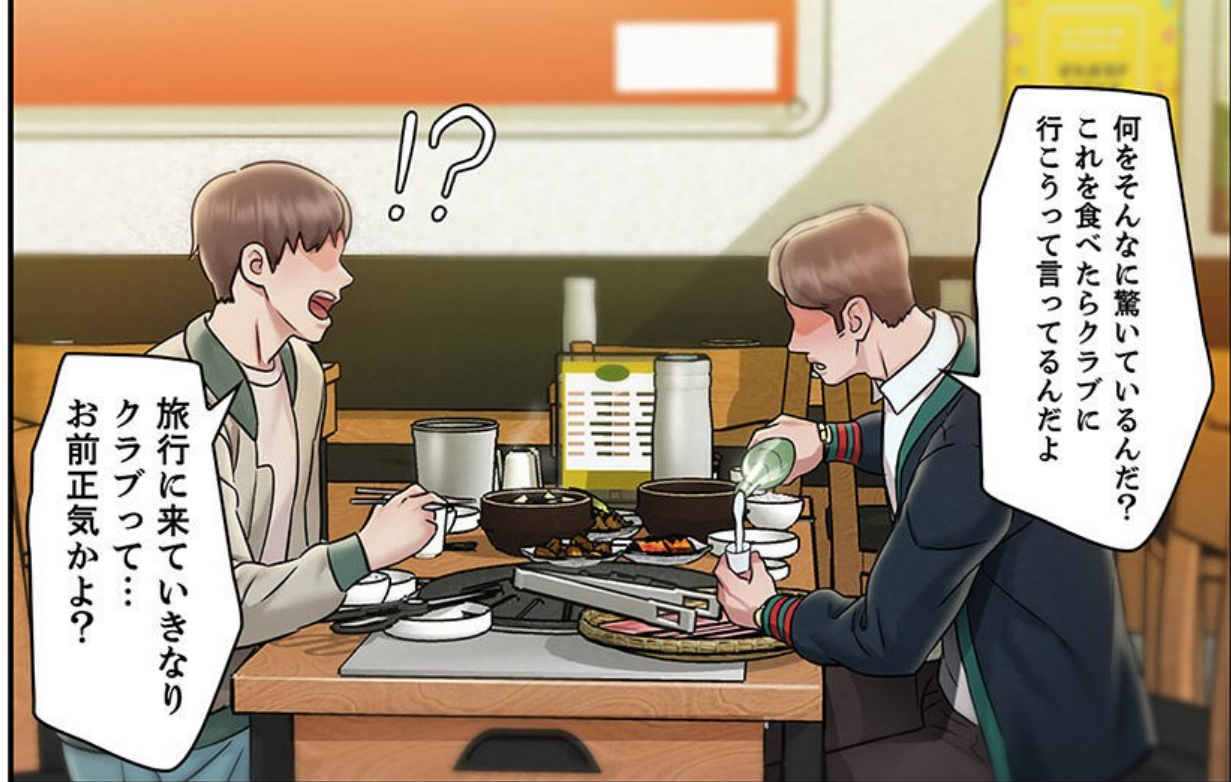
まあ何にせよ
結婚して以来
初めて二人だけの
旅行だった

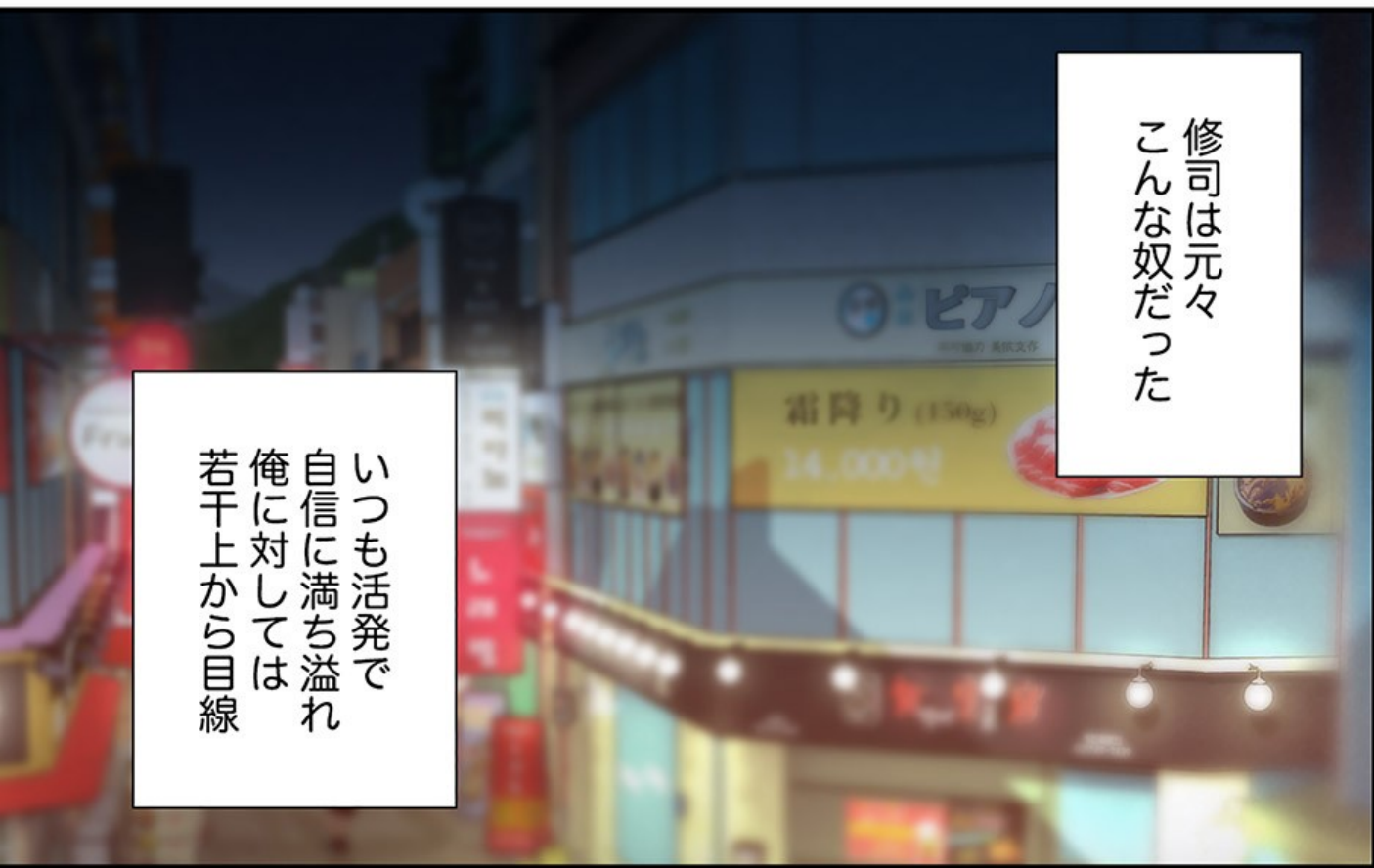


はあ？



あわよくばこの旅行が
俺達の仲を繋ぎ止めて
くれるかもと期待していた





修司は元々
こんな奴だった

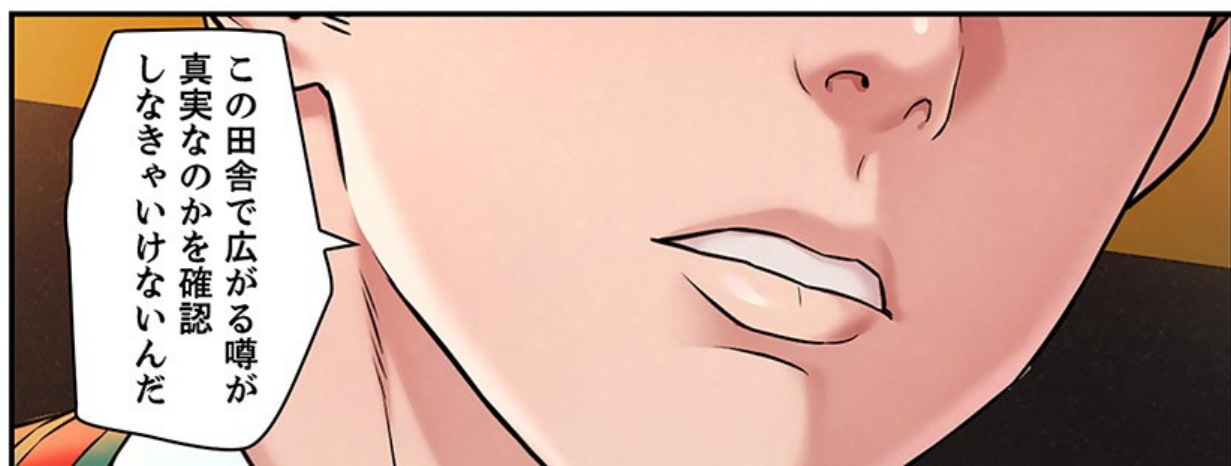
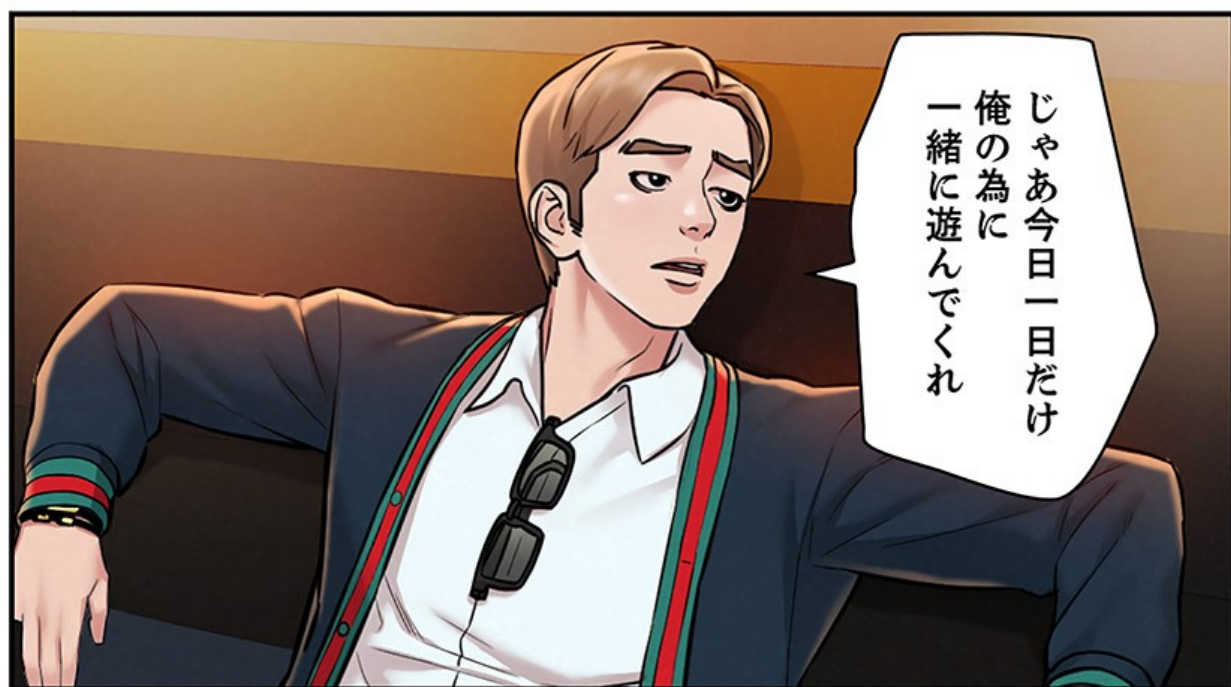
いつも活発で
自信に満ち溢れ
俺に対しては
若干上から目線



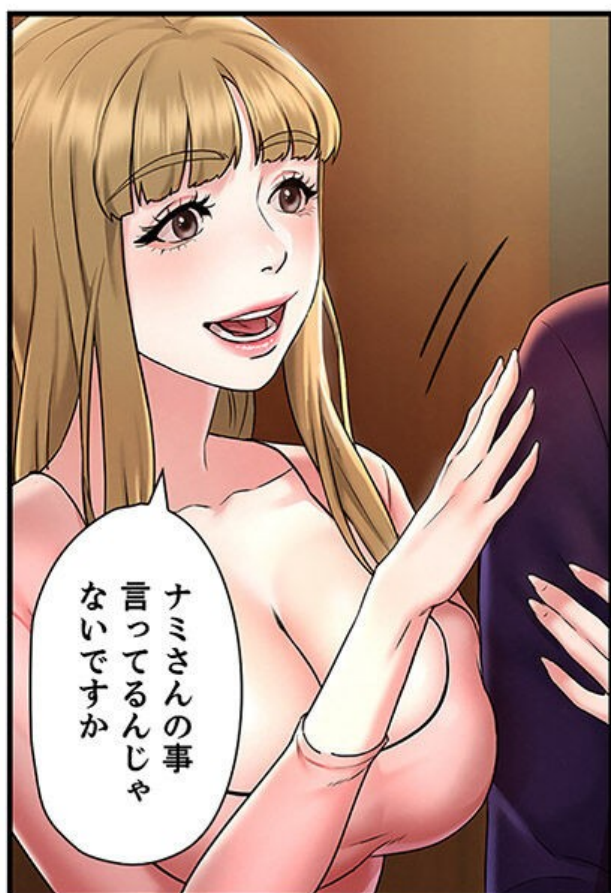
それに金を持ってるから
こういう遊びが好きなのも
知っていた



俺こういう所行かないって
知ってるじゃん
マジで嫌なんだけど…









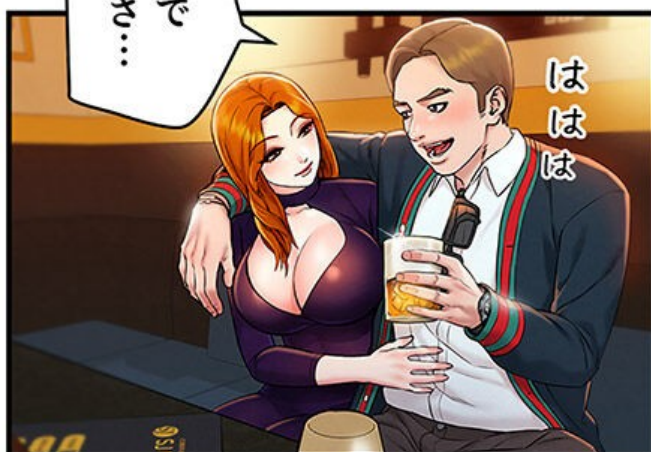
それで
俺がさ...



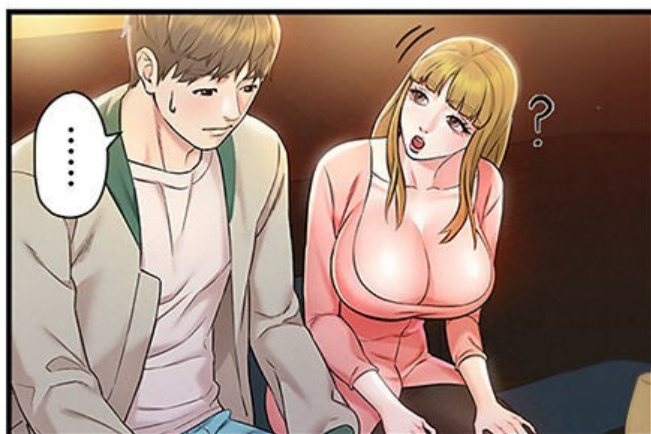
お兄さんかなり
寡黙なのね?

私そういう男性
好きよ

ギョウッ



ははは



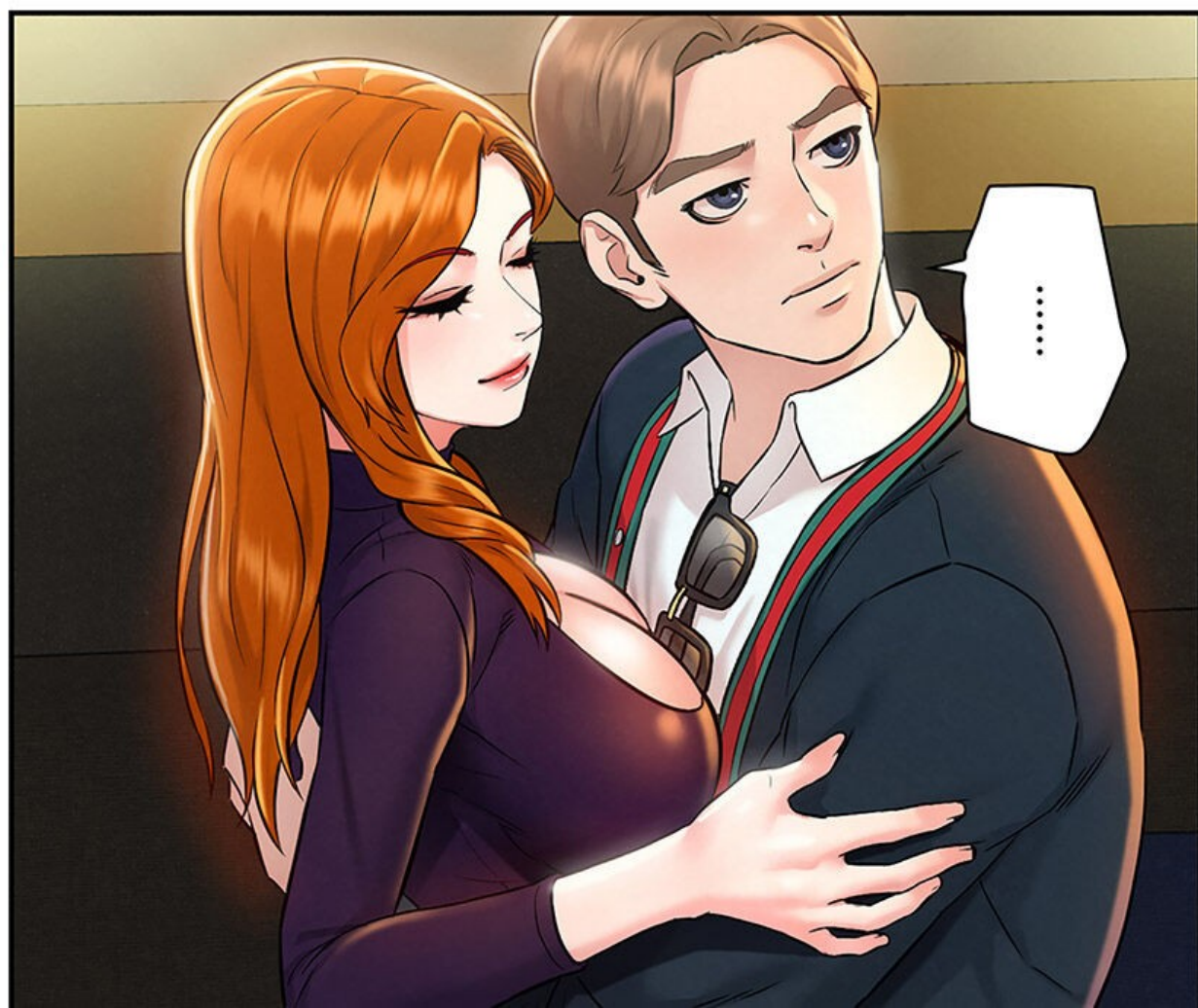
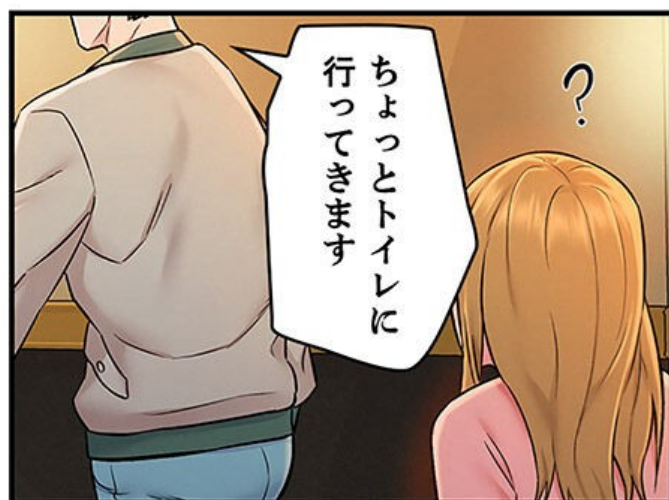
...

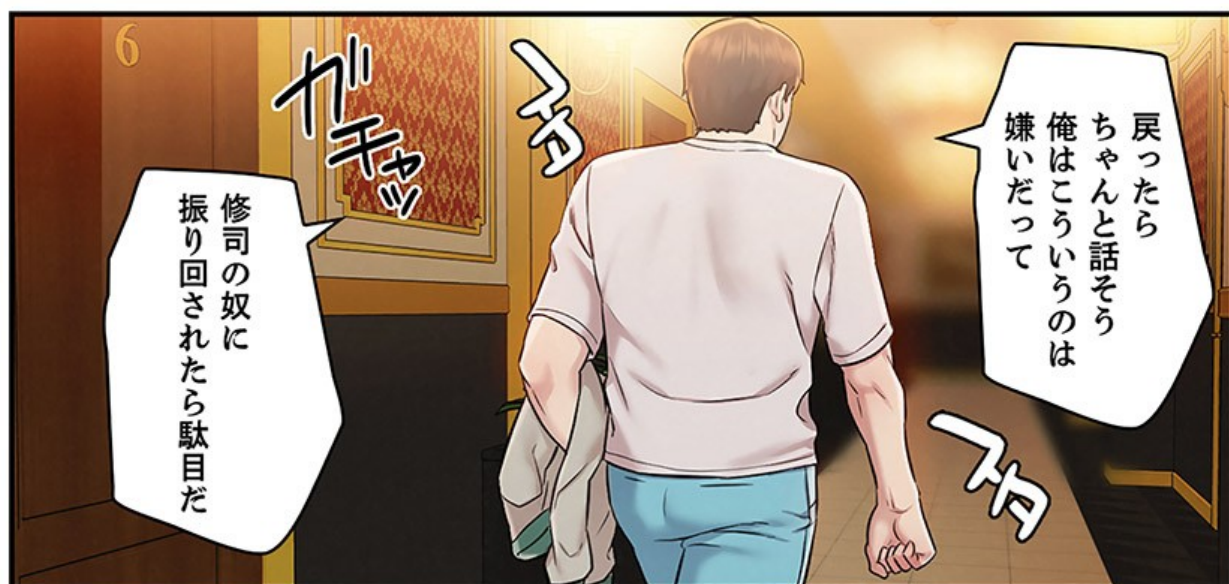
?

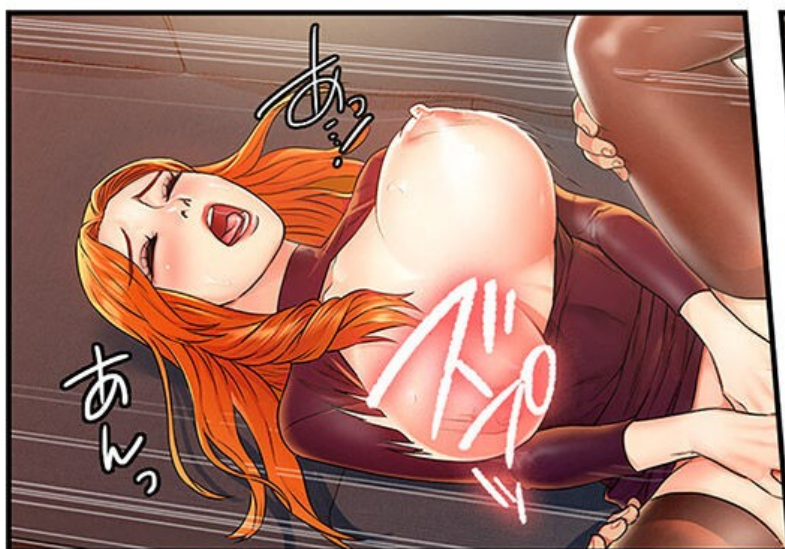
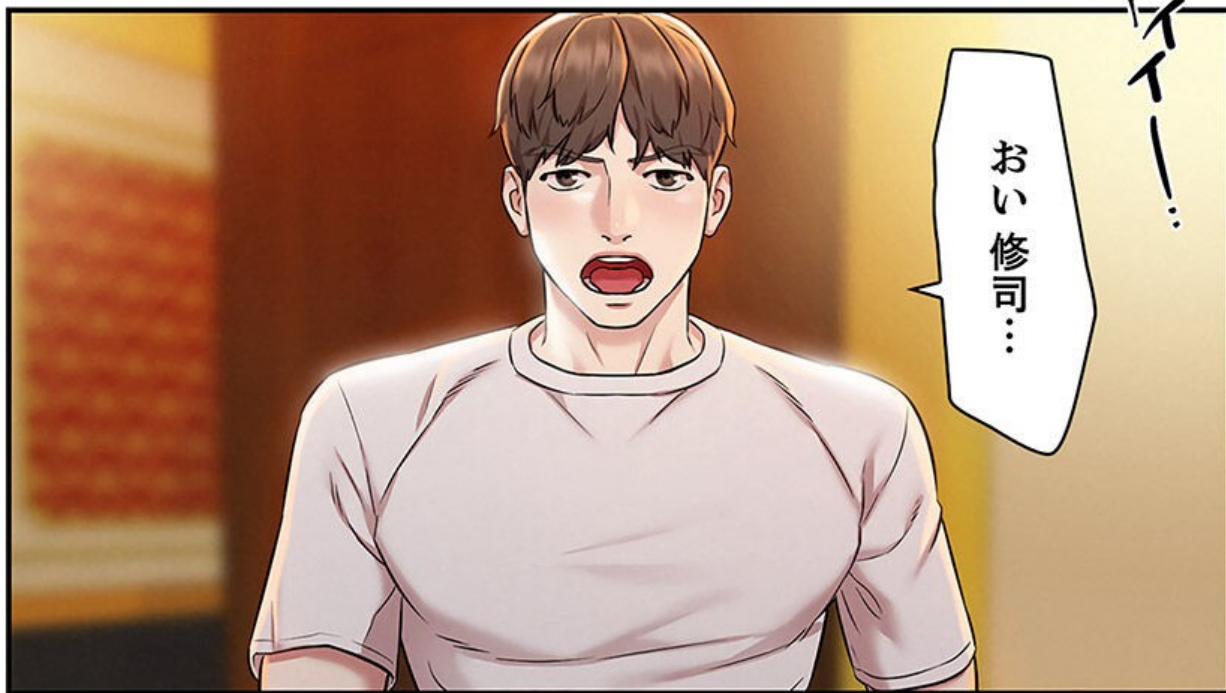


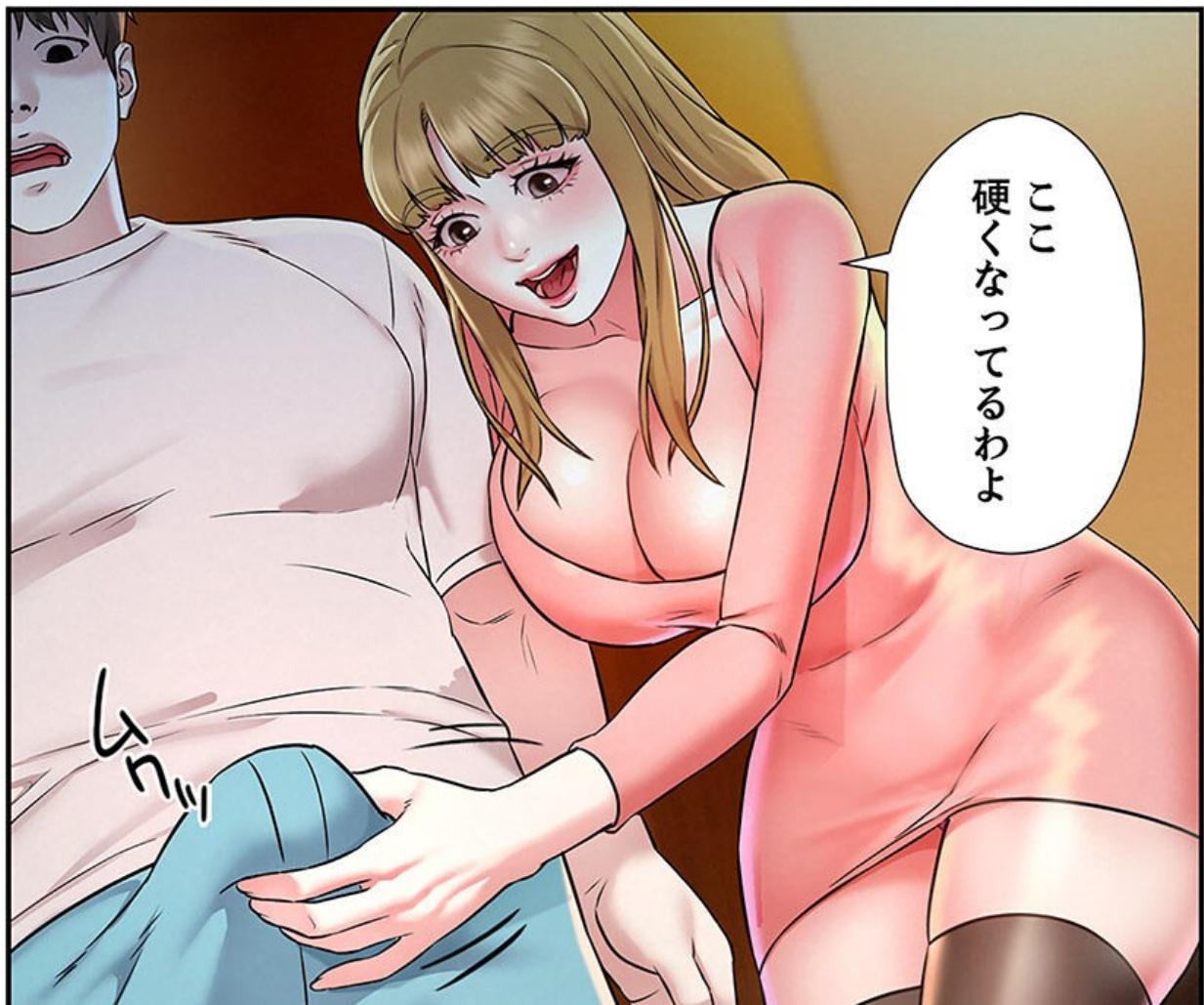
ひとまず
乾杯しましょ?

アッ...







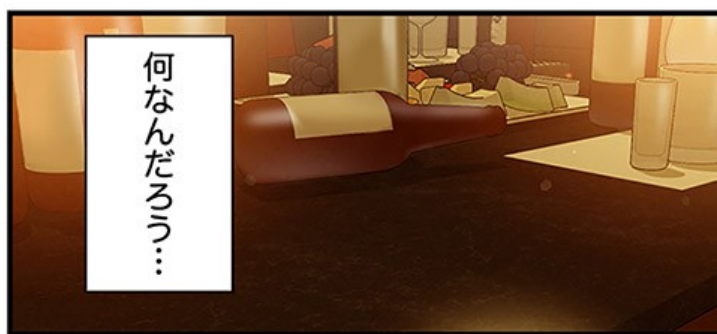








急に胸が
締め付けられる
ようだ

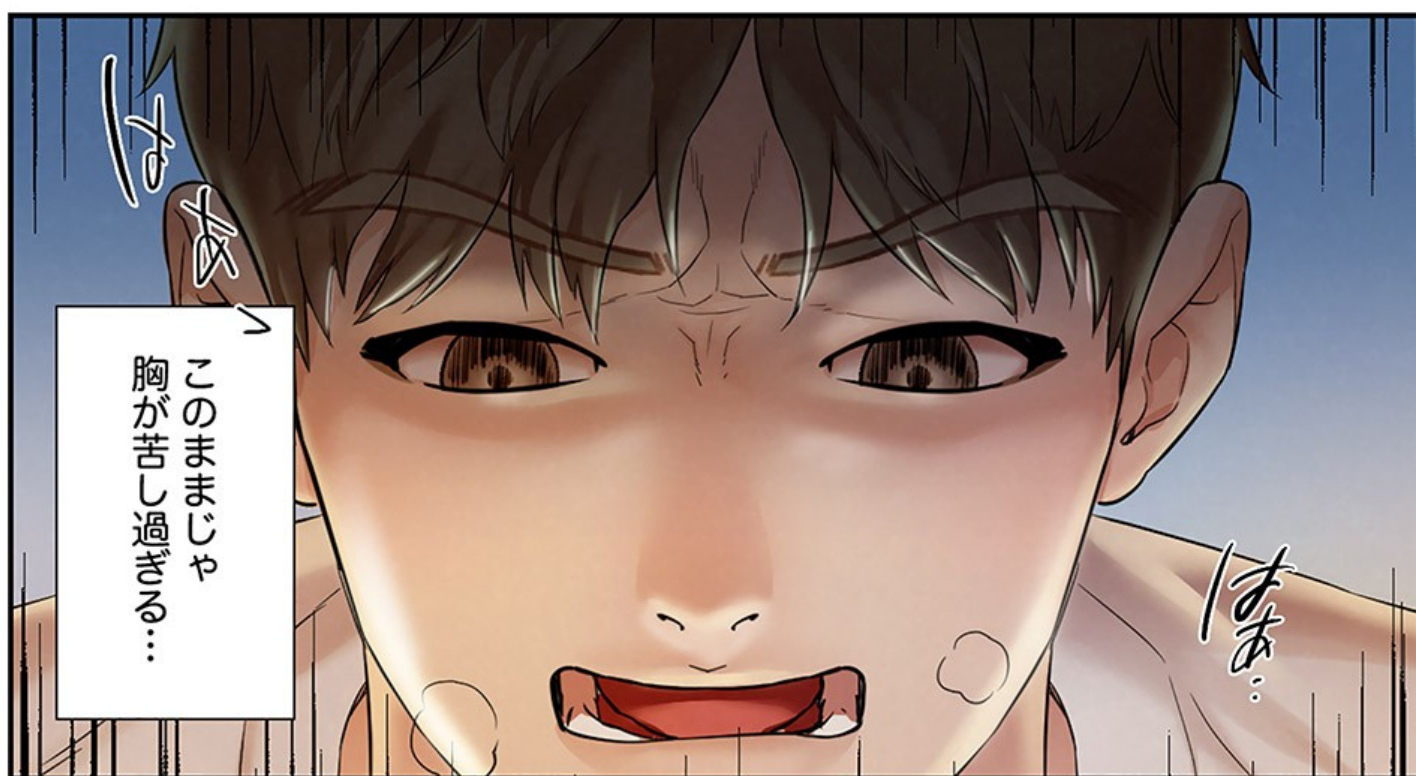


何なんだろう…

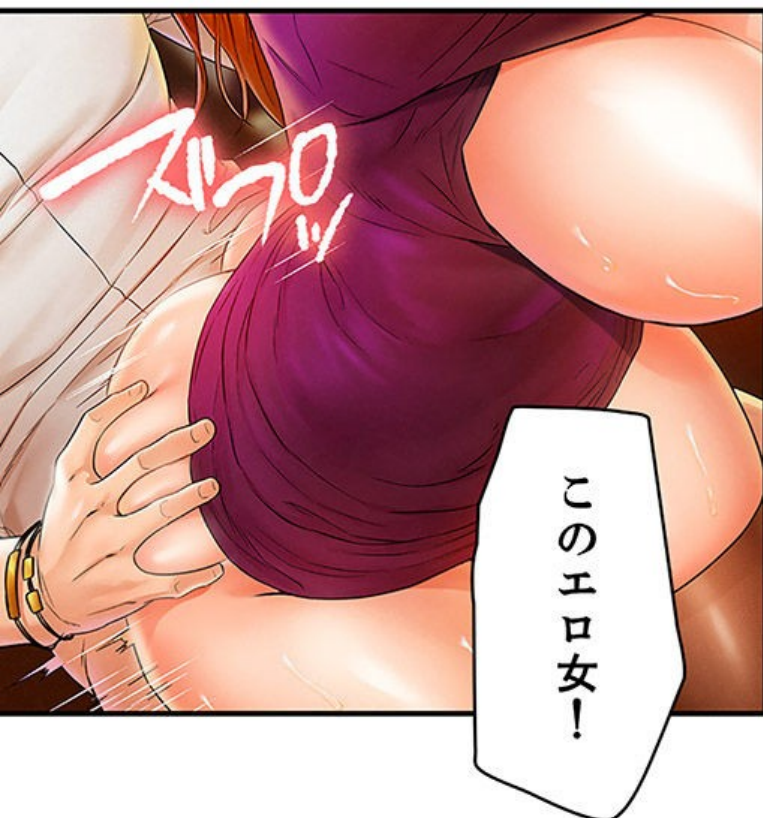


あぁん…
良い…！

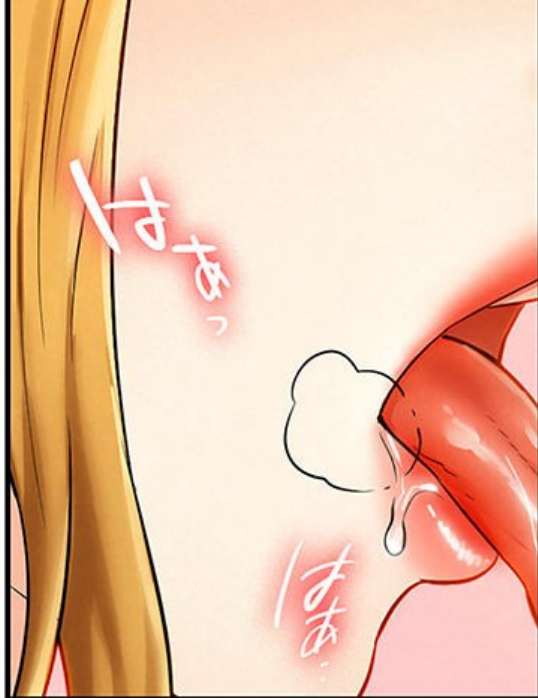
この胸の
高鳴りは…



このままじゃ
胸が苦し過ぎる…











目の前に
あるのに…

グググ



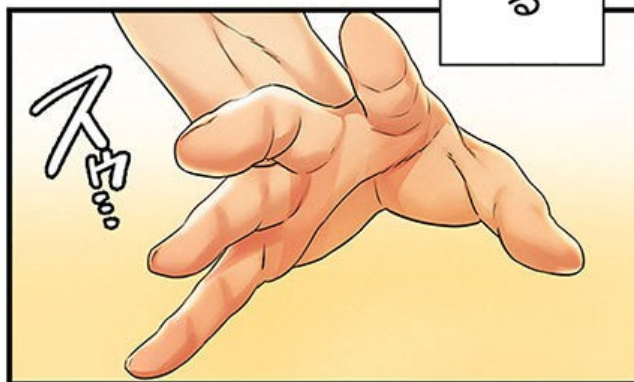
あぁ…
俺もシたい…

ドキ

ドン

ドク…

こんなに
そそられる
おしりが



スグ



スグ

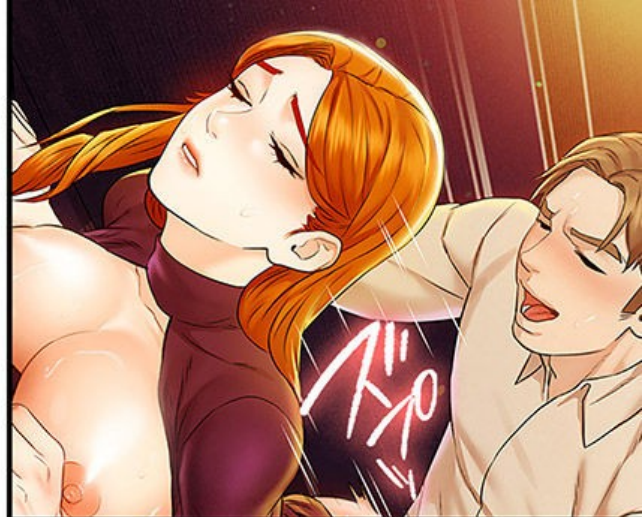
一回だけでも
いいから
突きたい…！

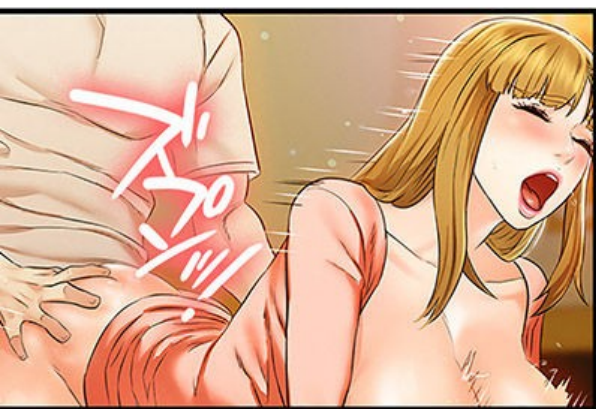
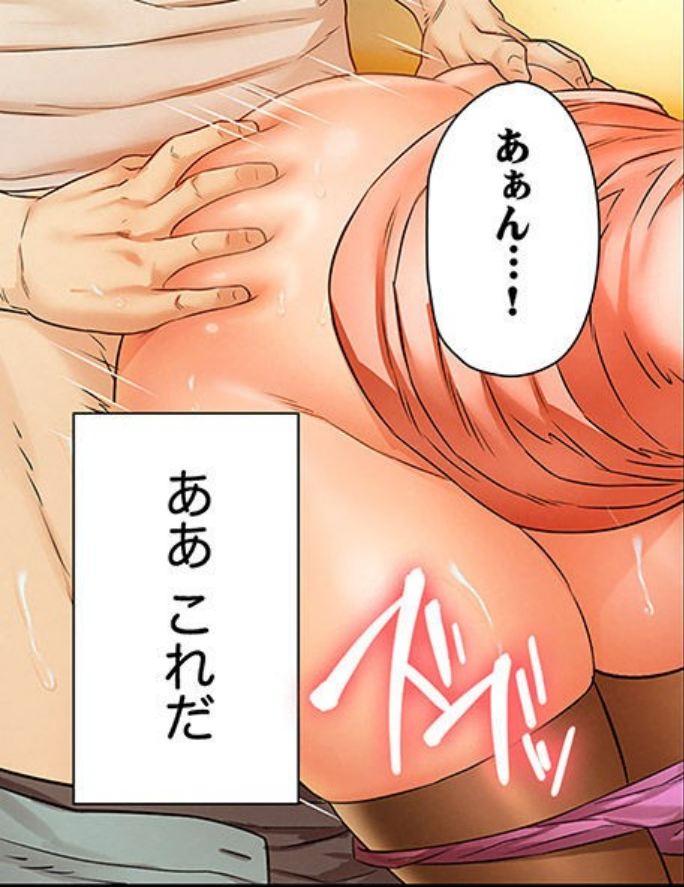


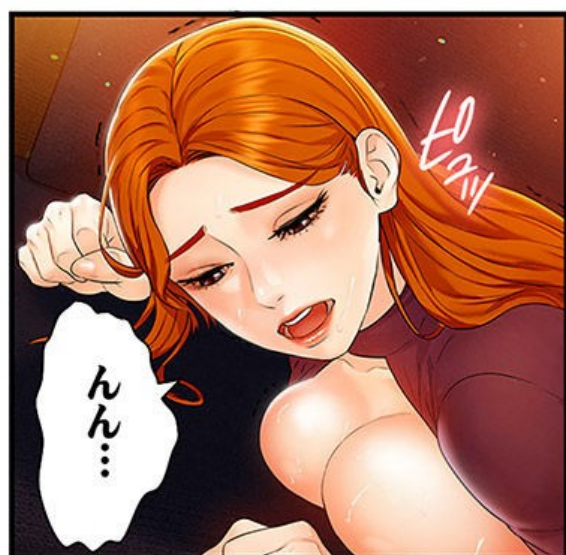
オッ
ーゅっ…

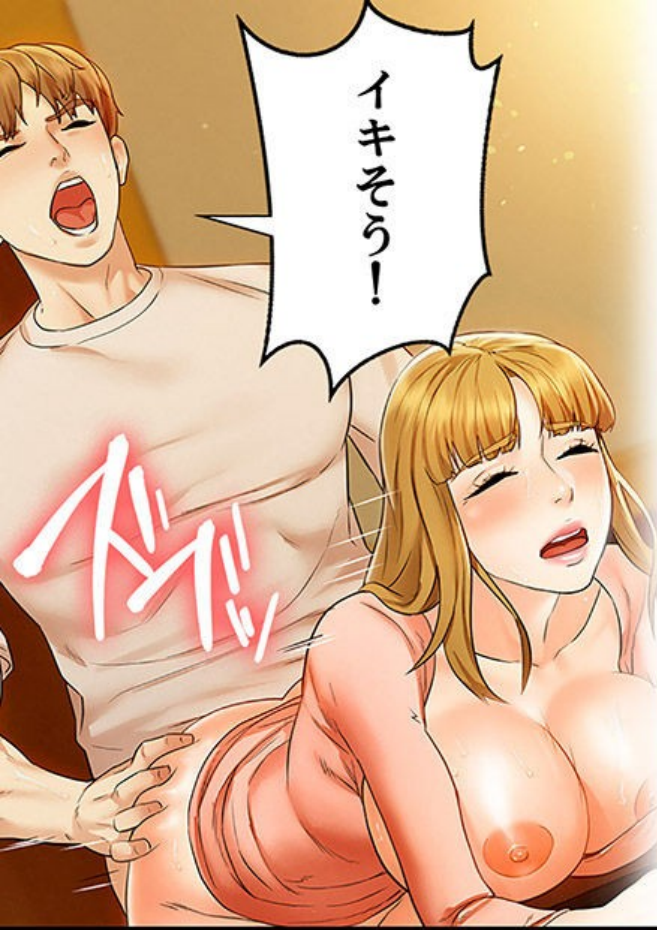
あの穴に
突っ込んで
スッキリと…

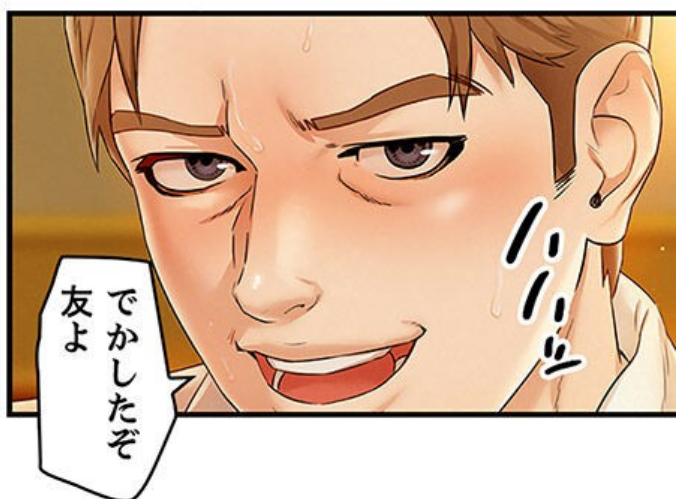




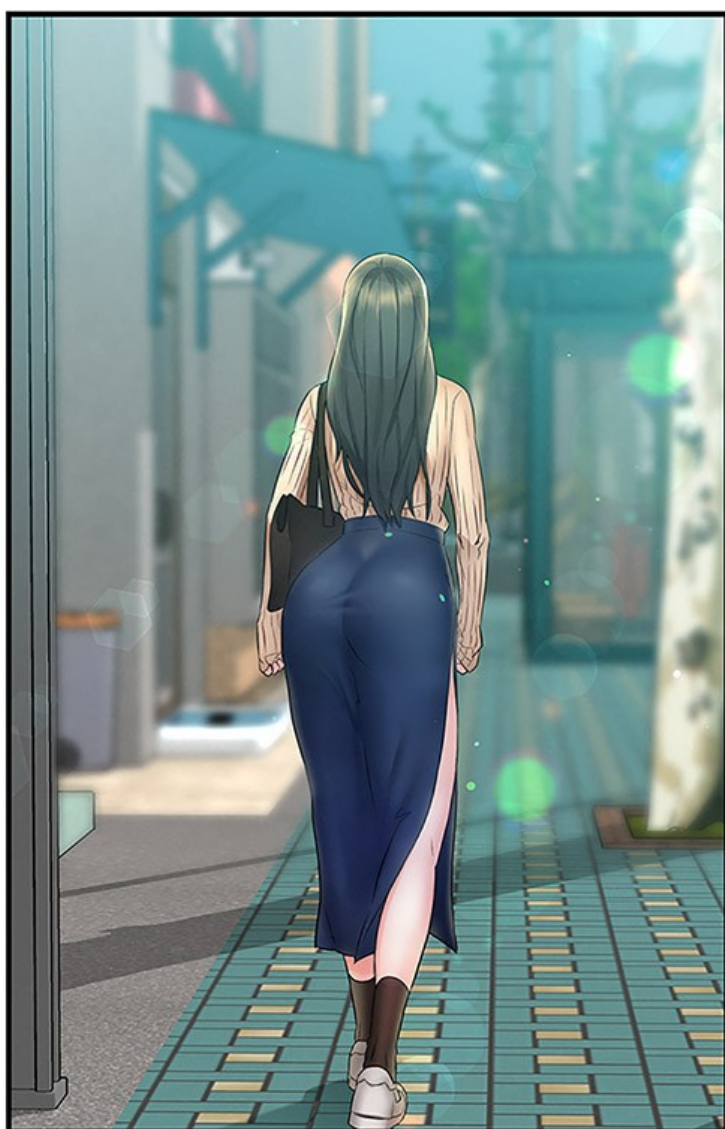


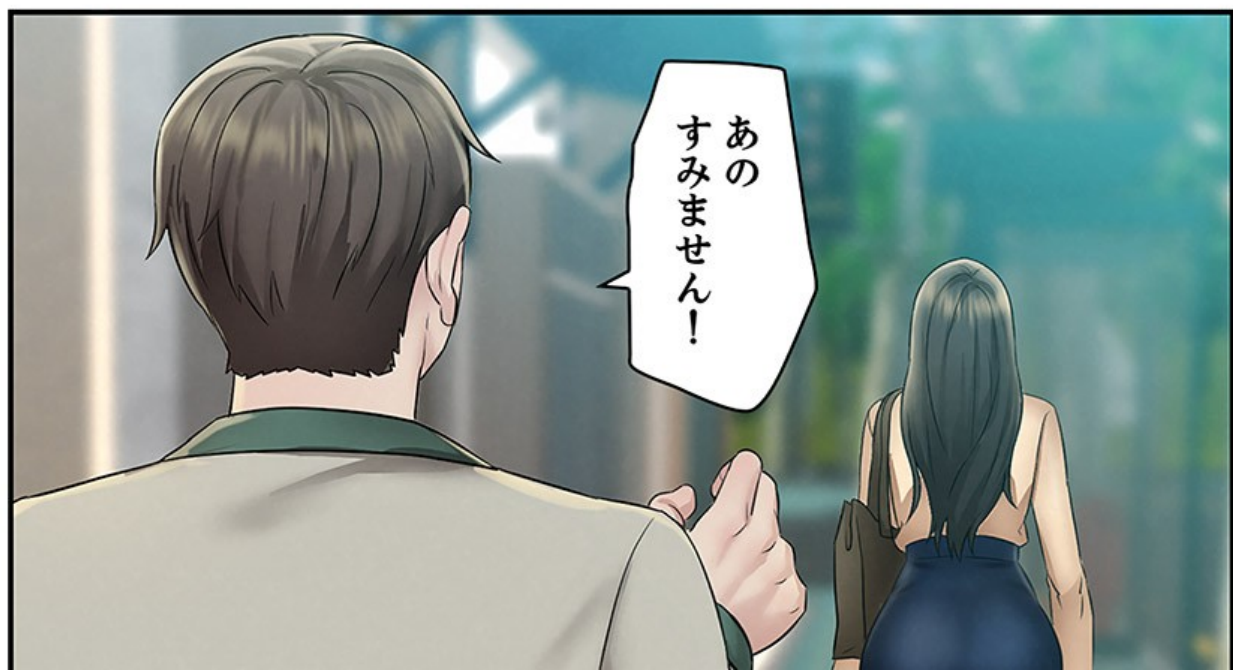
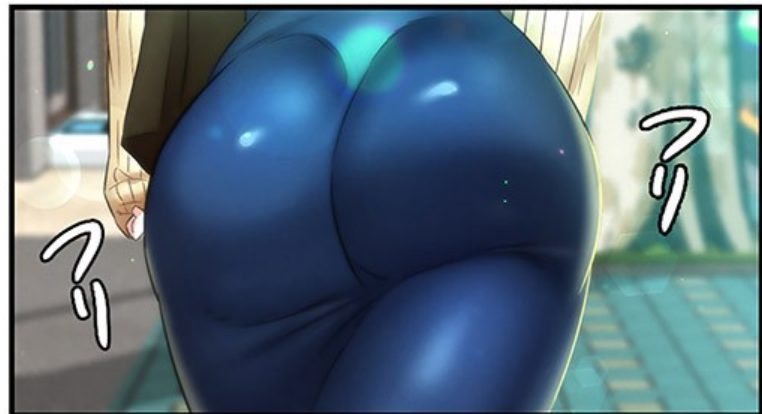




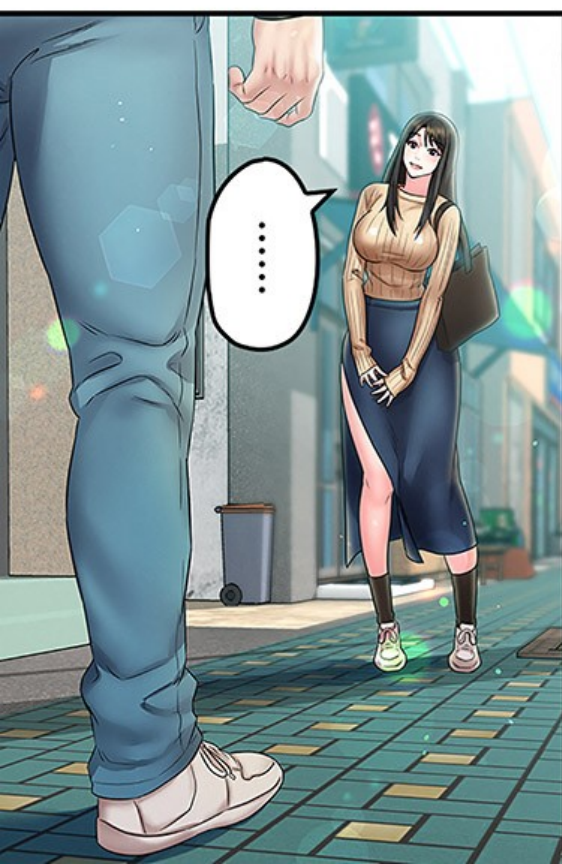














あ…はい
その…

この近くにコンビニ
ありますか？



どうかされました？
私に何か用ですか？



あはは

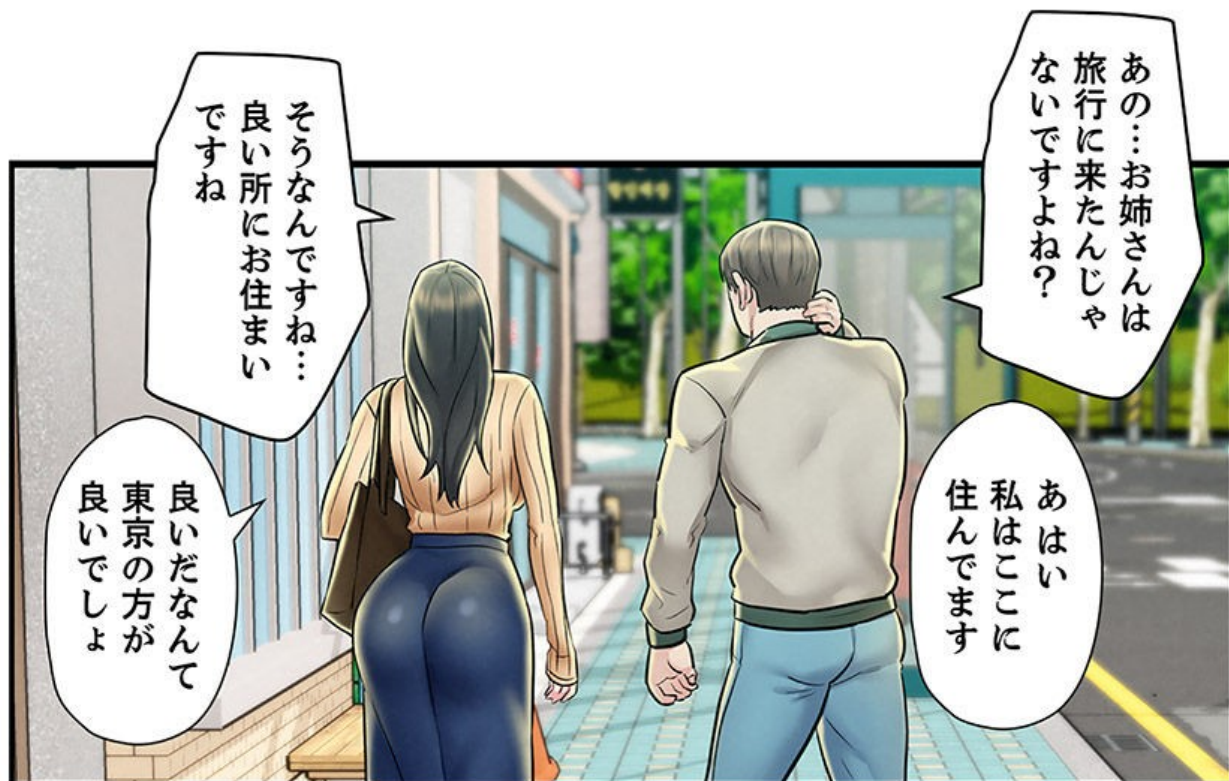
さっぱりした
飲み物を
買おうと思ひまして…

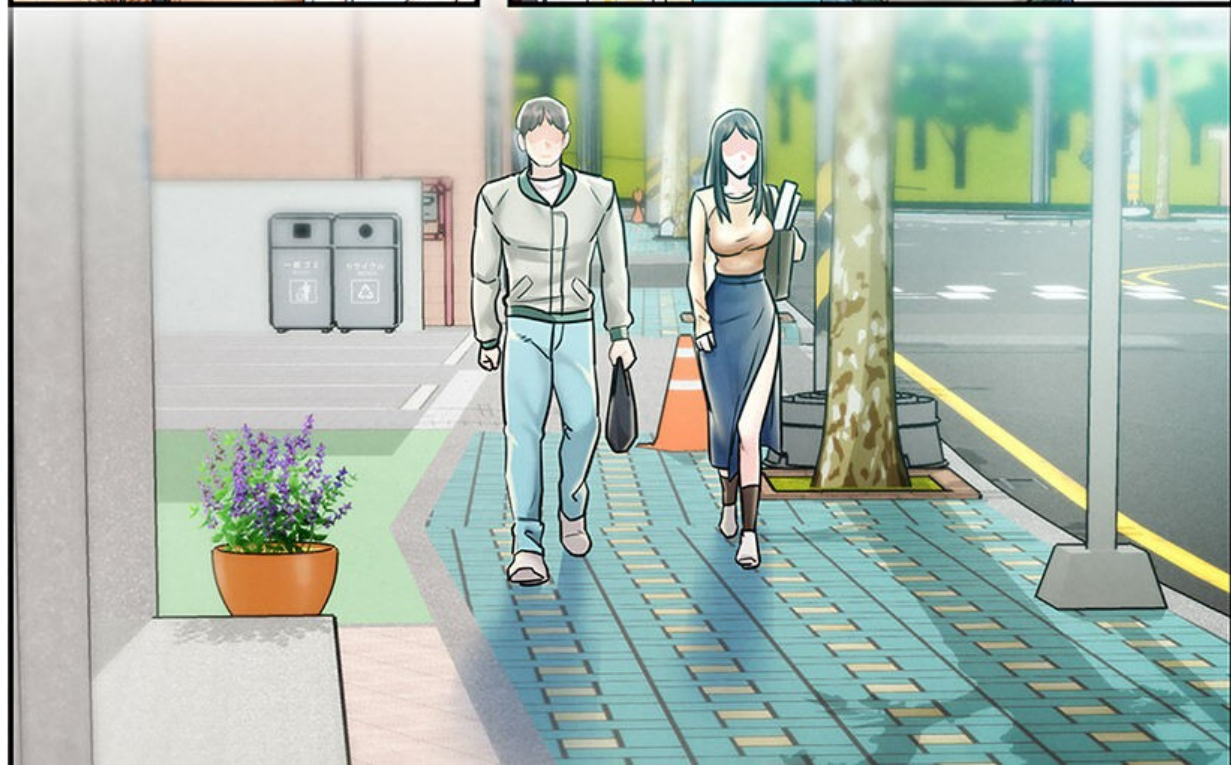
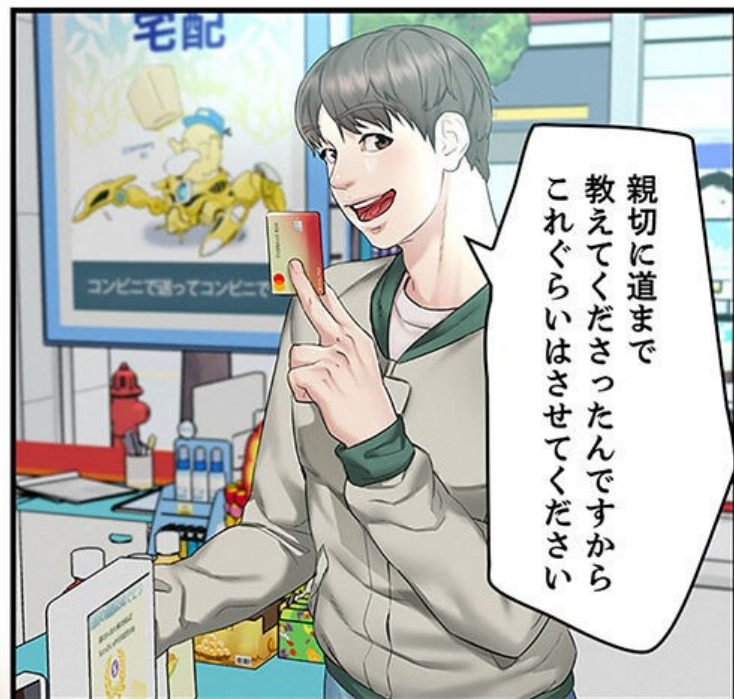


あ…
コンビニですか？

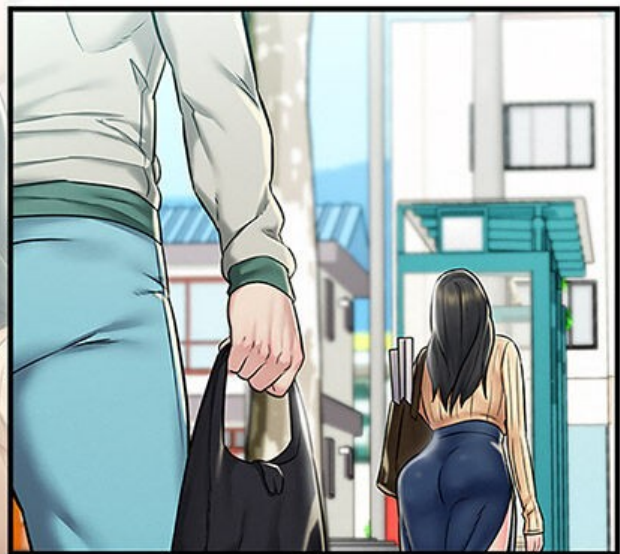
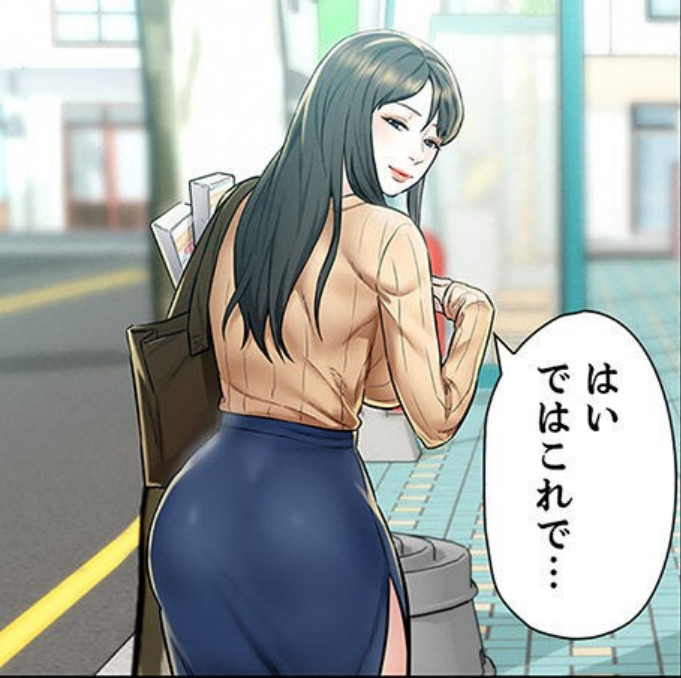
実は昨日
酒をかなり飲んで…



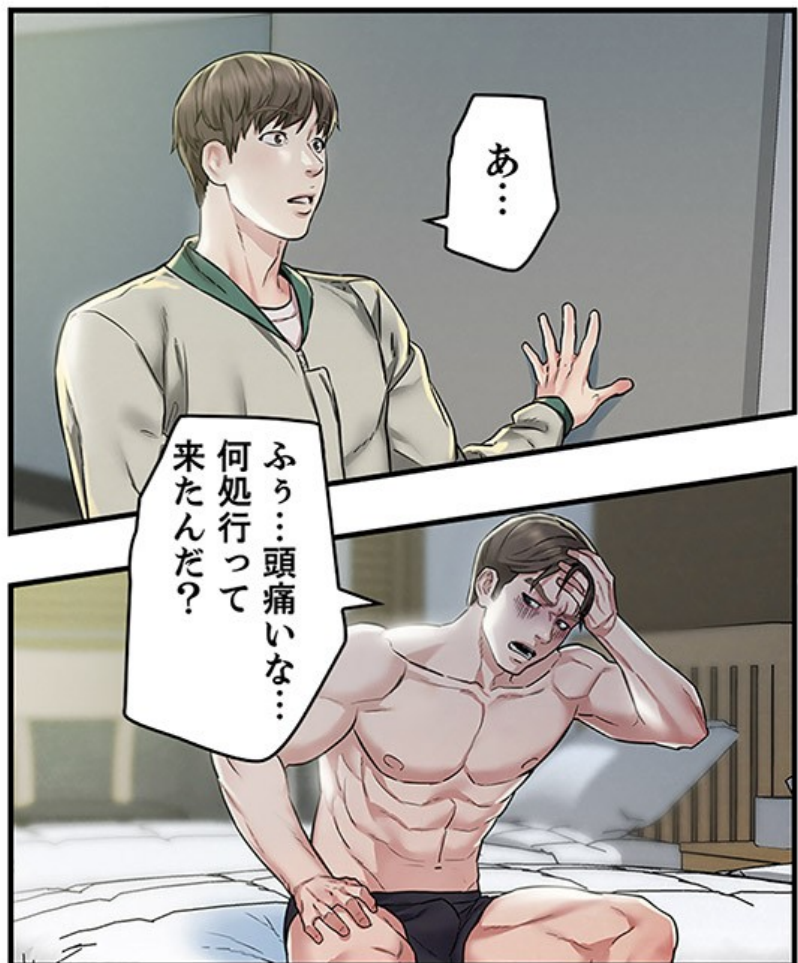
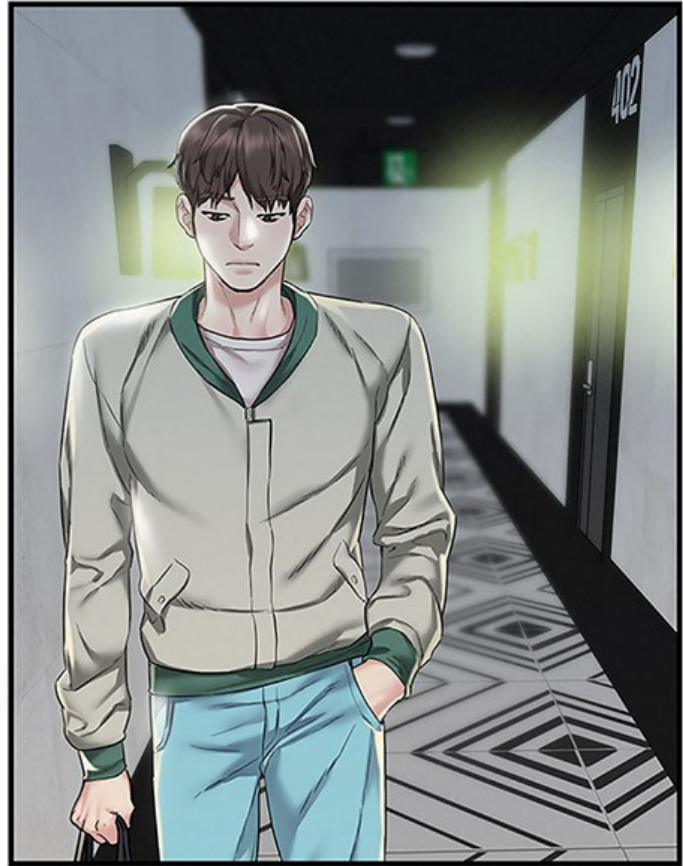




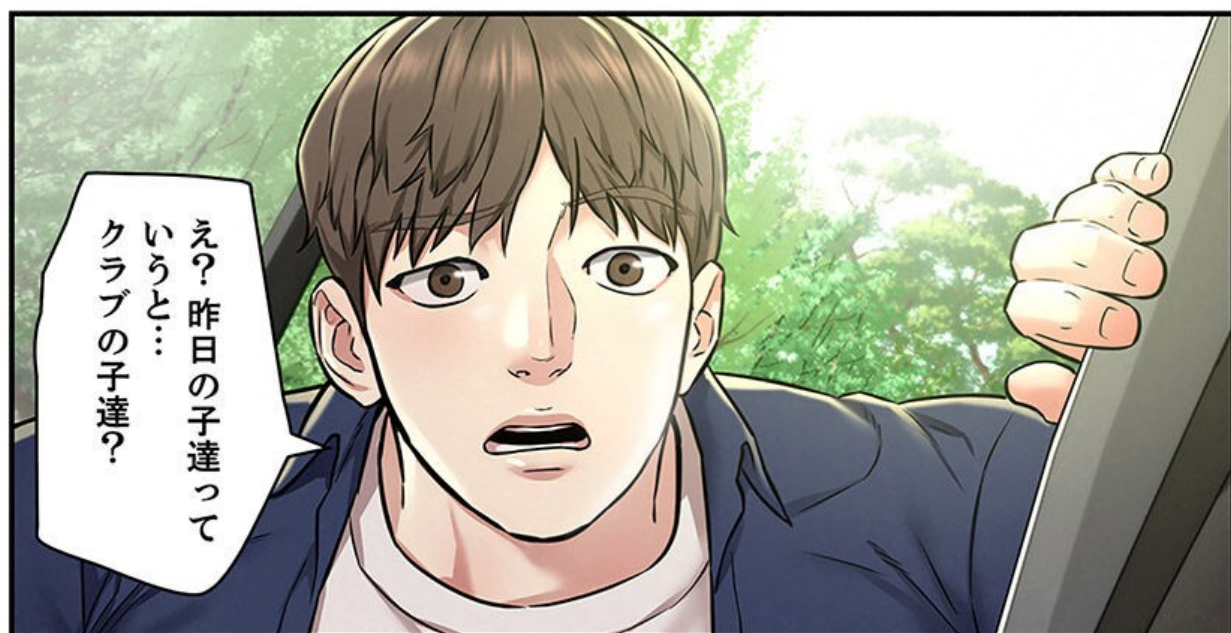
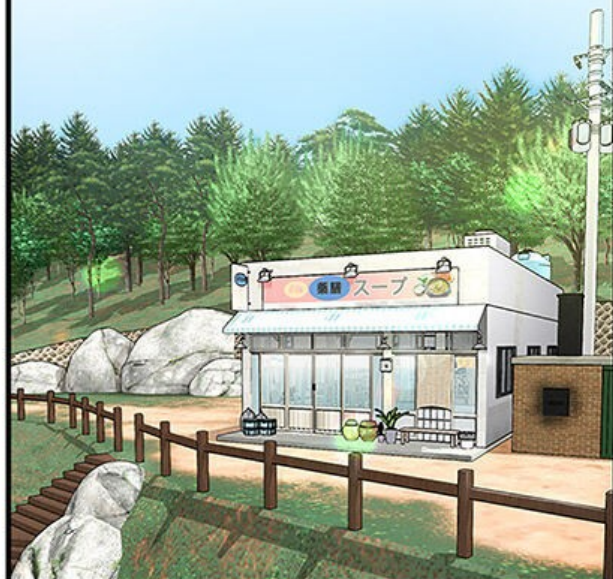




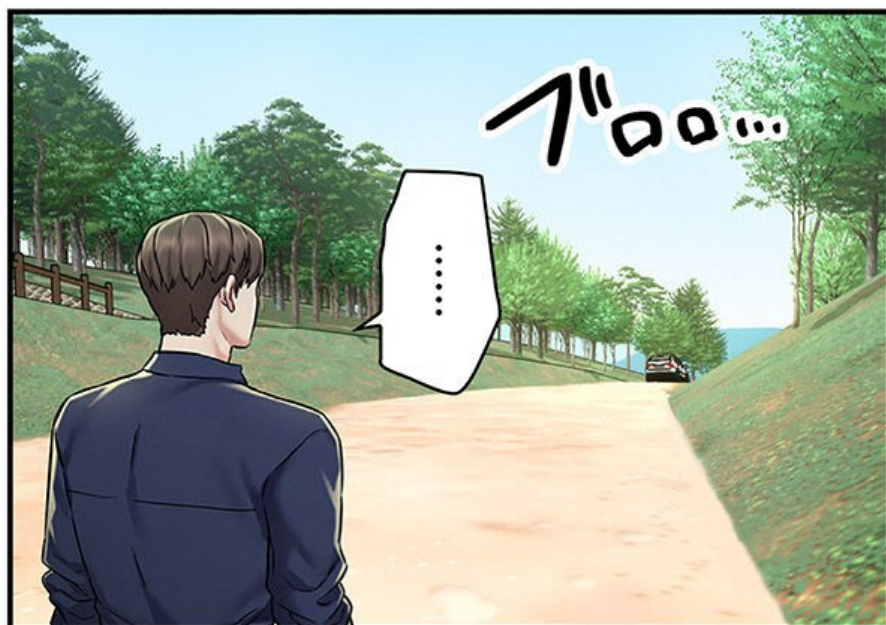


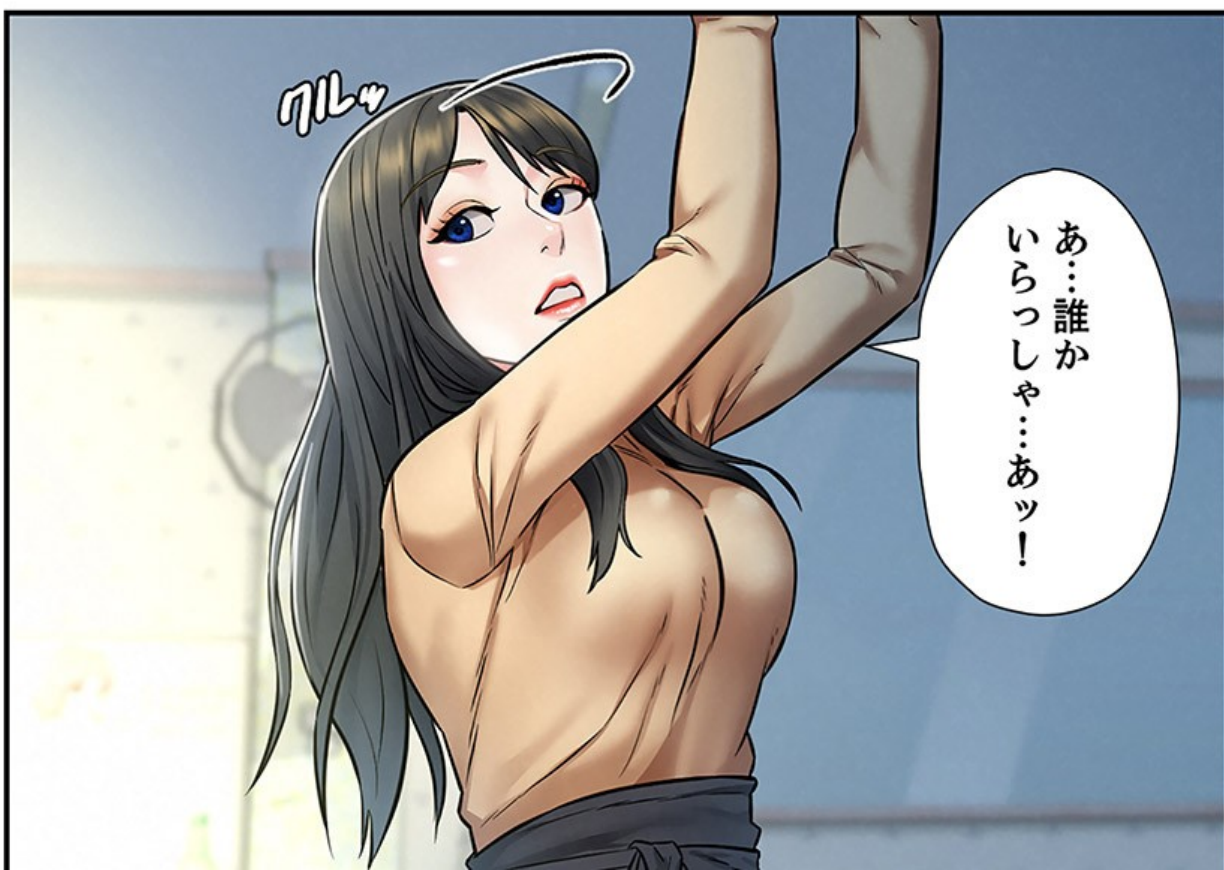
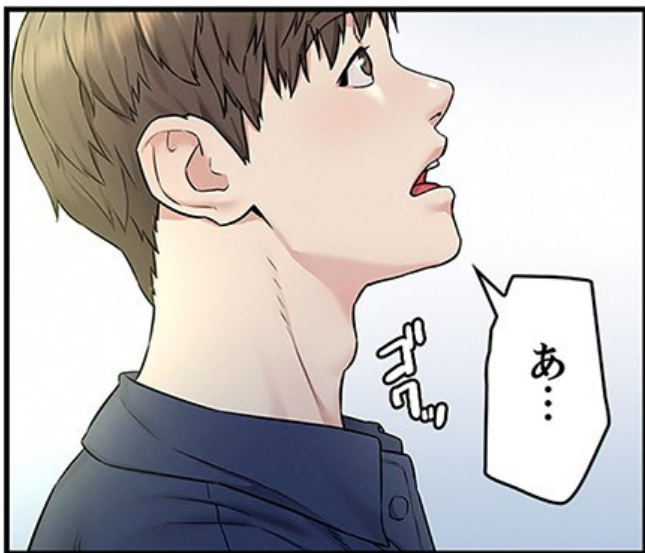


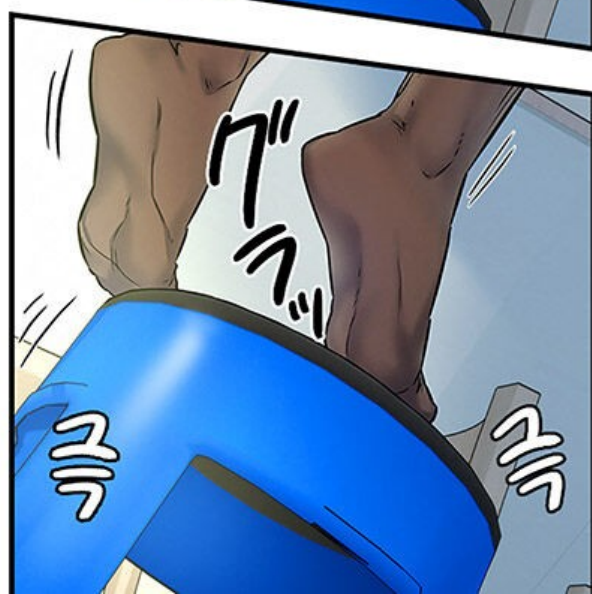
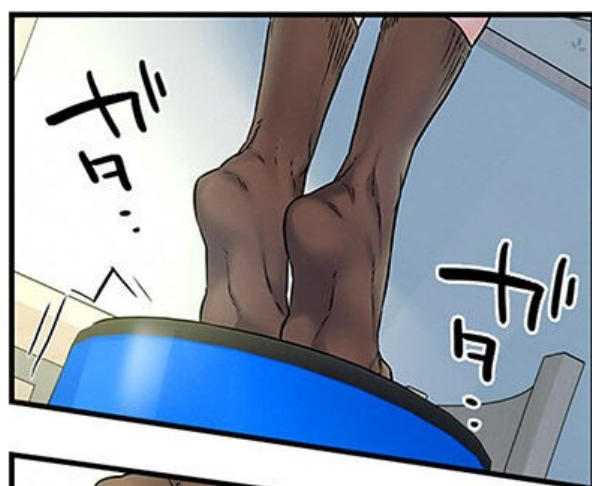


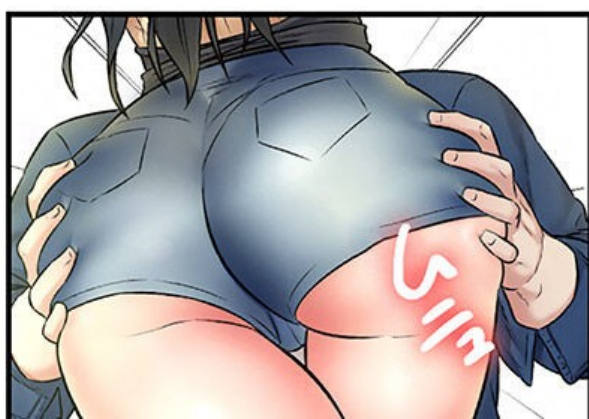
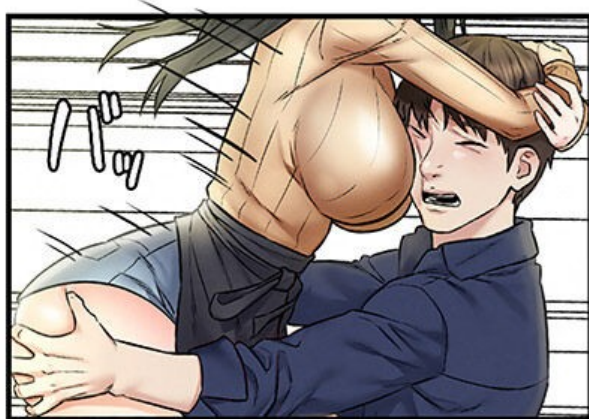


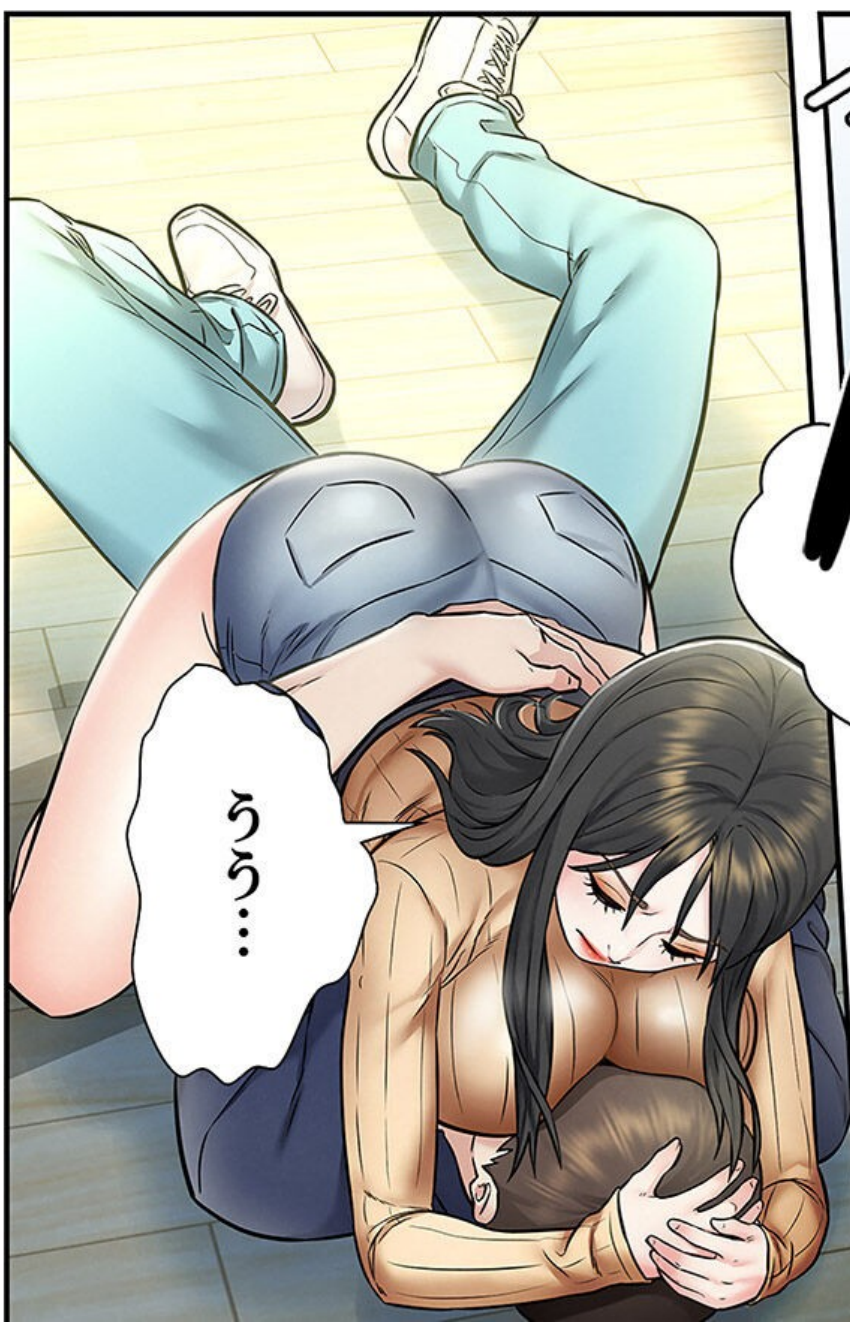


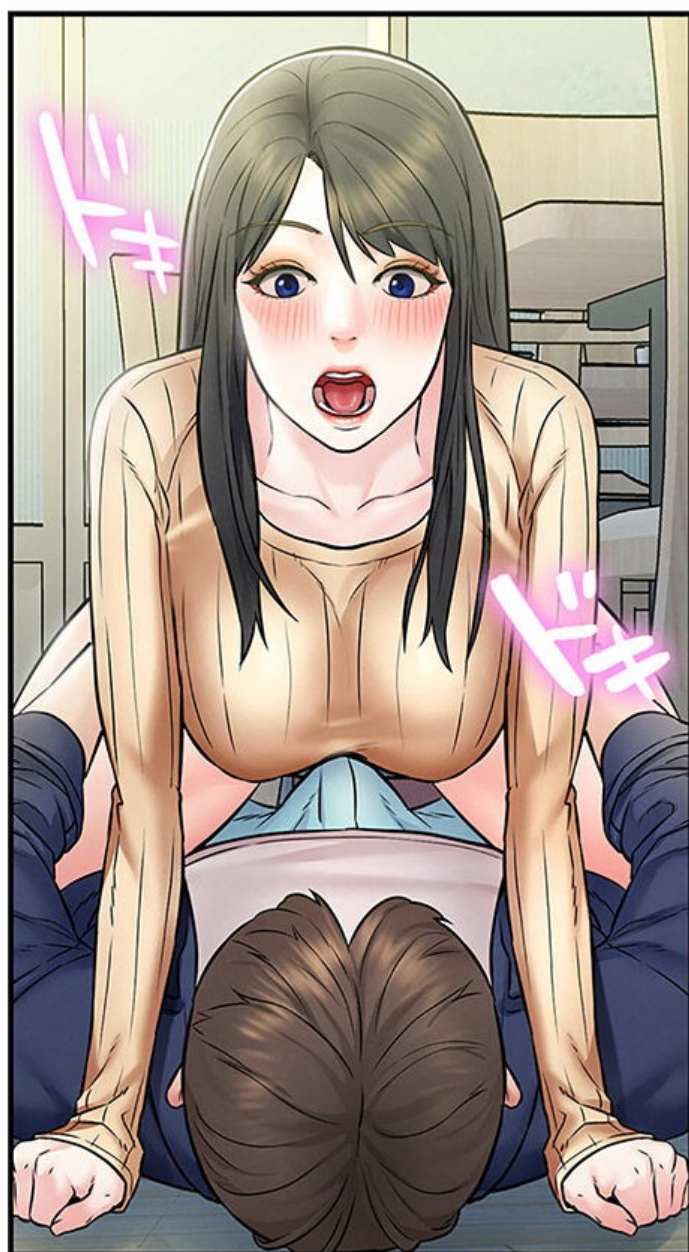
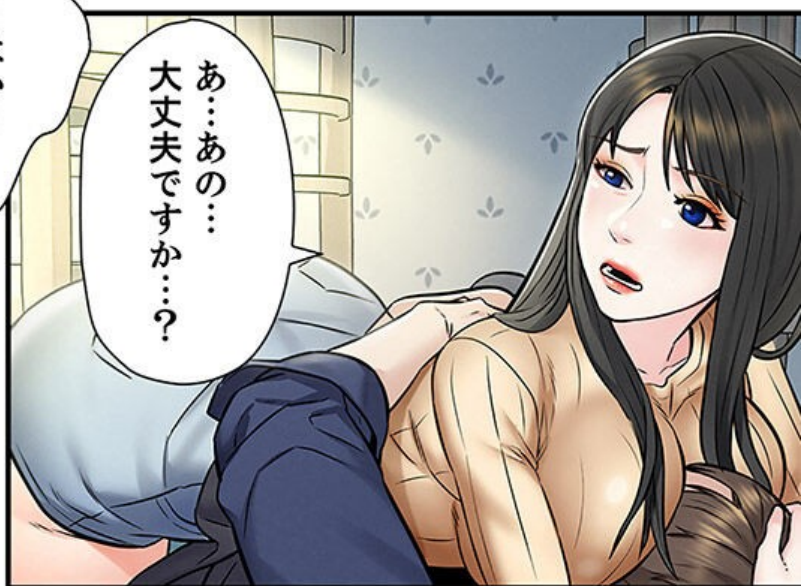
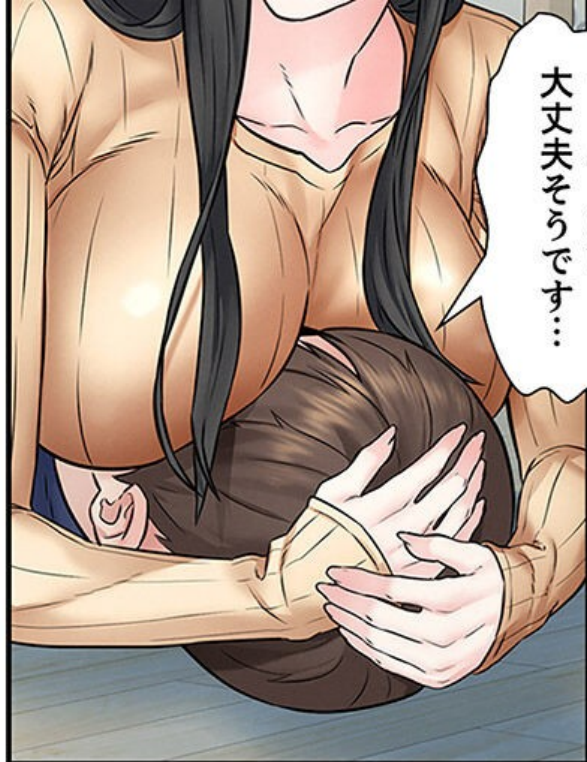


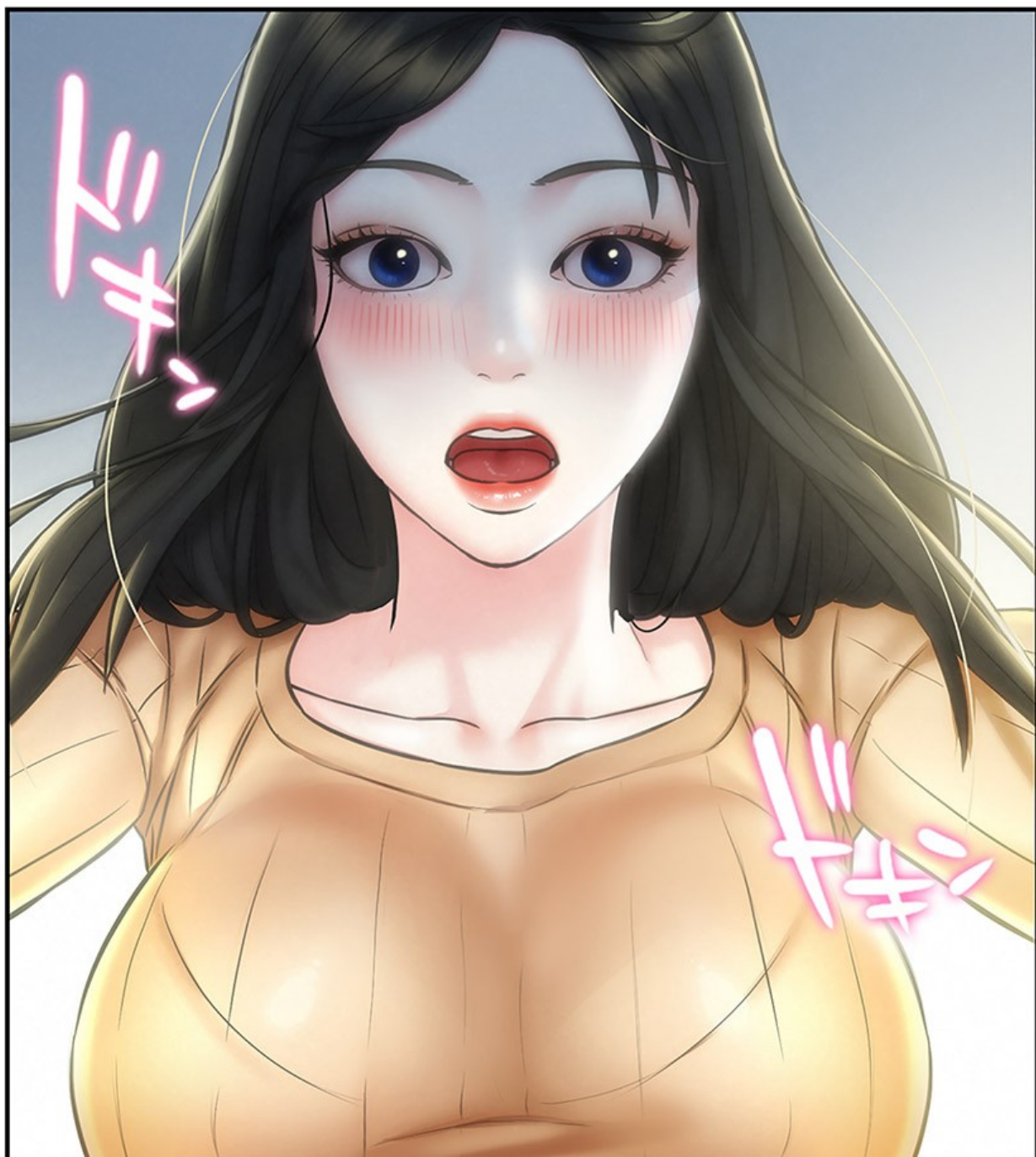
















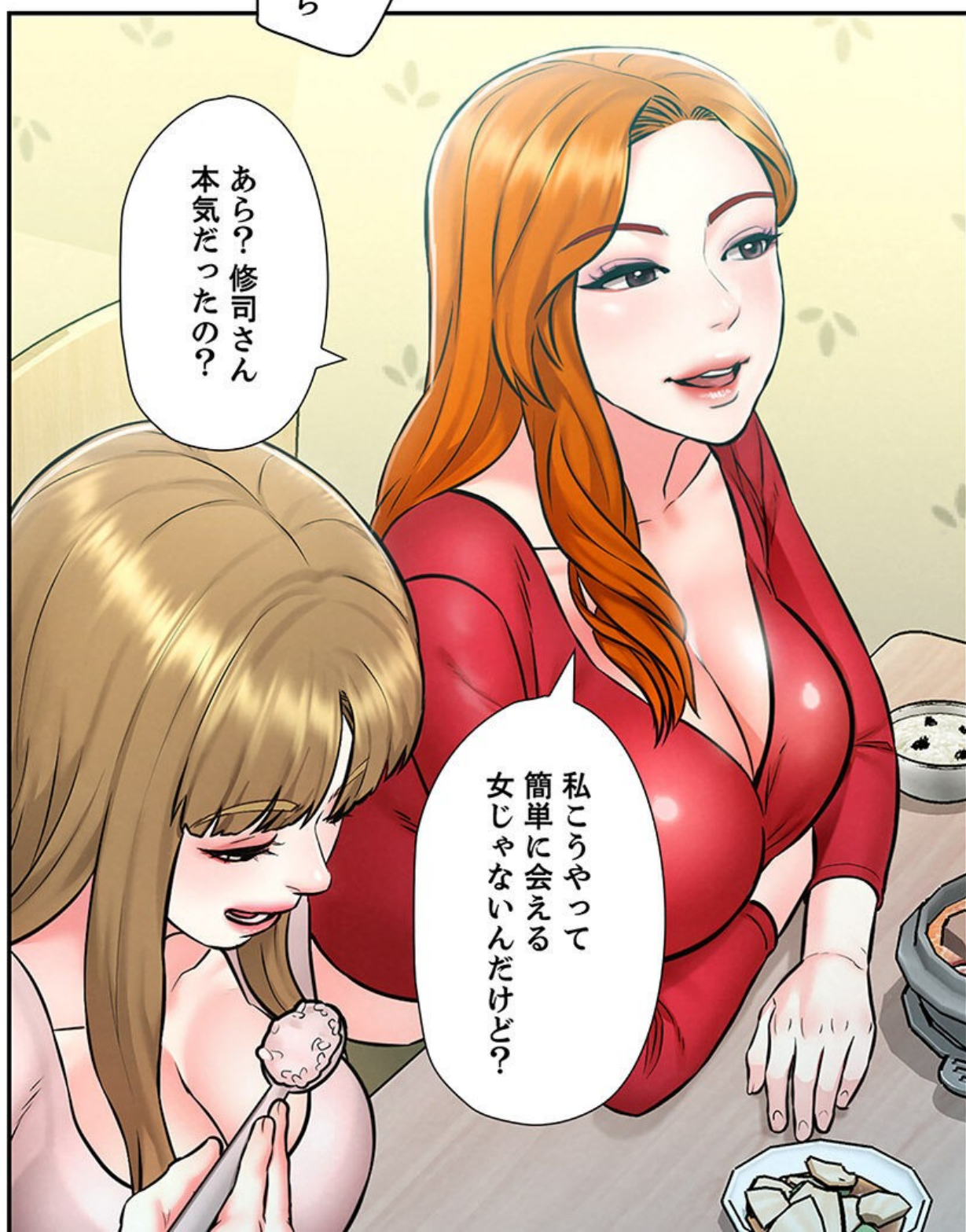






今日も俺達二人で
楽しく遊ぼうよ

俺が全部
責任取るから



あら？ 修司さん
本気だったの？

私こうやって
簡単に会える
女じゃないんだけど？









ネットに
こういう噂が
回ってたんだよ…



田舎の小さい店に
凄い女の子が
一人いるって

かなりお高く
とまってて気難しいから
男と寝ないのは
もちろんの事…

普通の客も自分が
受けたい時だけ受けて
とにかく自分勝手
だって言うんだよ



銀座のトップクラス店に
いても十分な子が

何でこんな山奥に
閉じ籠もっているのかは
誰も分からない

とにかく
顔を拝むのも難しいし
店外デートをするのなんて
もっと難しい子らしい







あ…あの車が
どうかしたんですか？



高そうな車だったので
思わず調べちゃったんですけど
かなり高い車でしたよ？

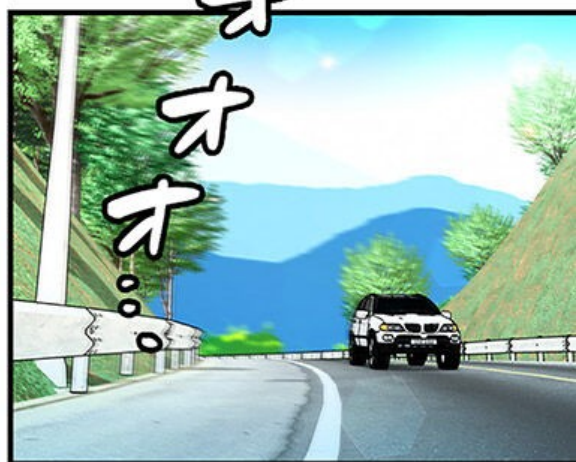
あんな高級車を
どんな人が
乗り回してるのか
気になって…



……









あんな子と
セックスしたら…
確かに良さそうだが…



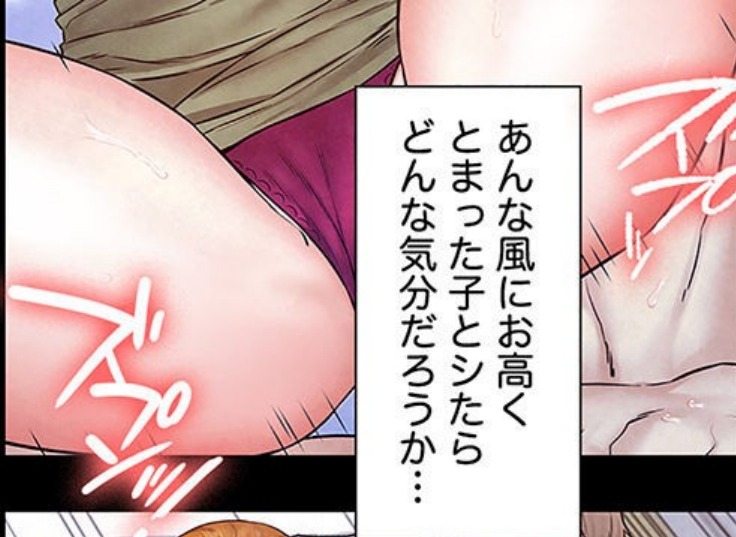
い…いやまあ
ちよっとセクシー
ではあるな…



昨日裸も見たけど…
胸も大きいし…



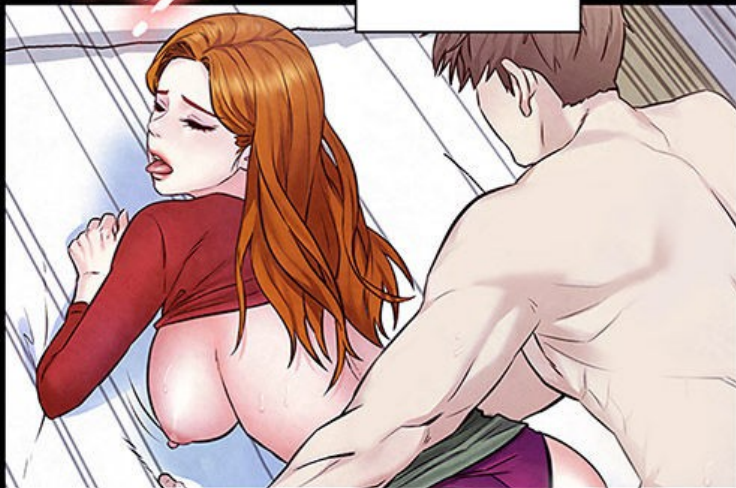
今までああいう
女とはまだセックス
した事ないよなあ…



あんな風にお高く
とまった子とシたら
どんな気分だろうか…



昨日修司が
してたみたいに
俺もズブっと挿れて…



俺もセックスは
上手い自信あるし…

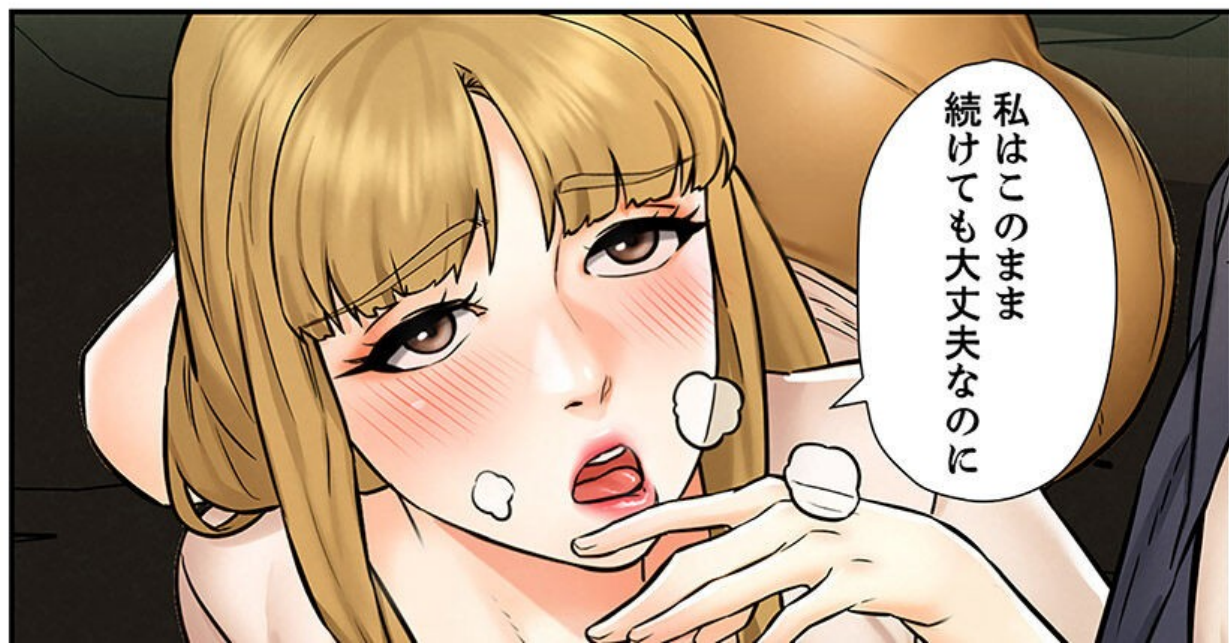
うっむ…想像したら
勃ってきた…

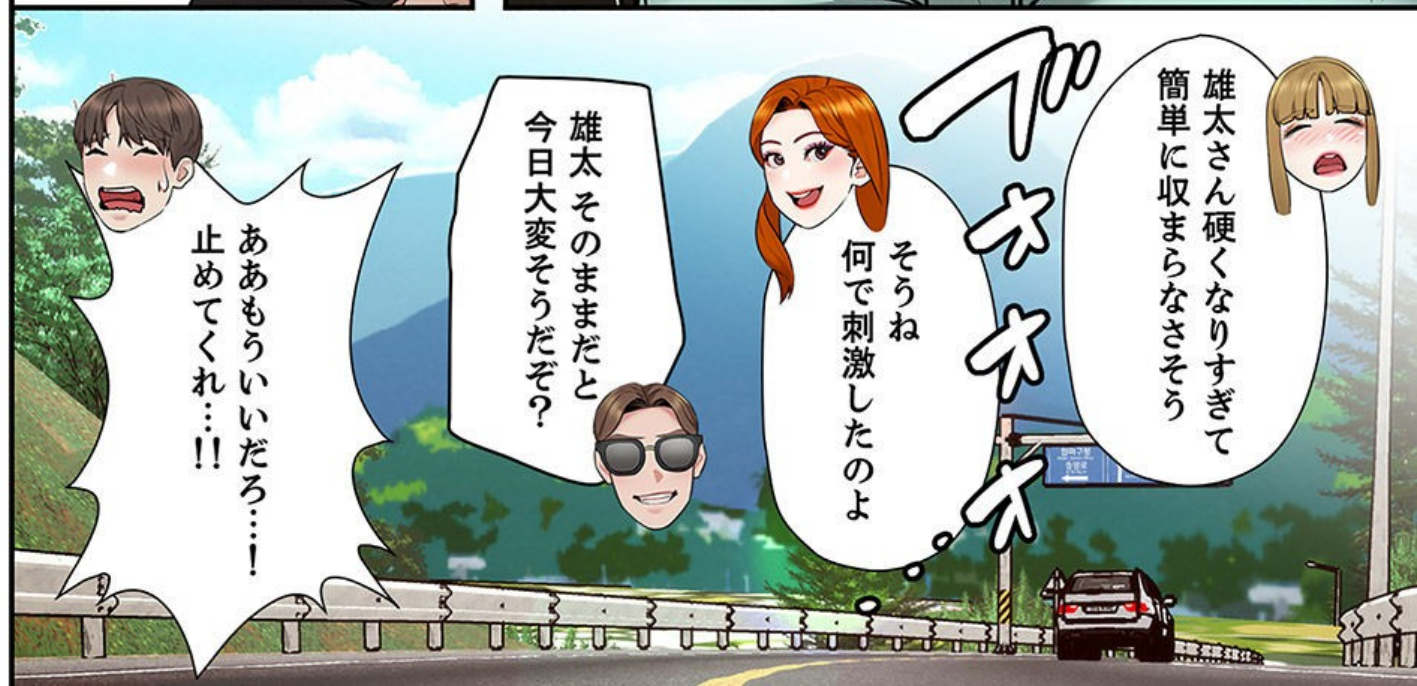


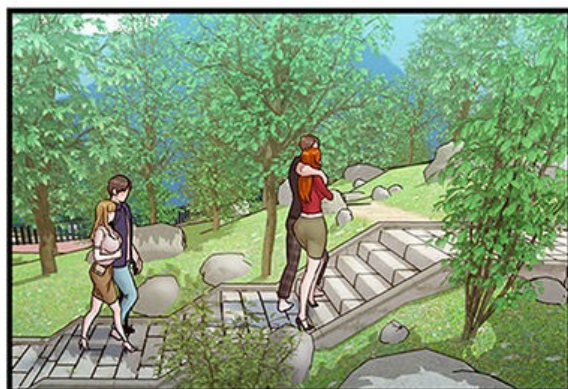






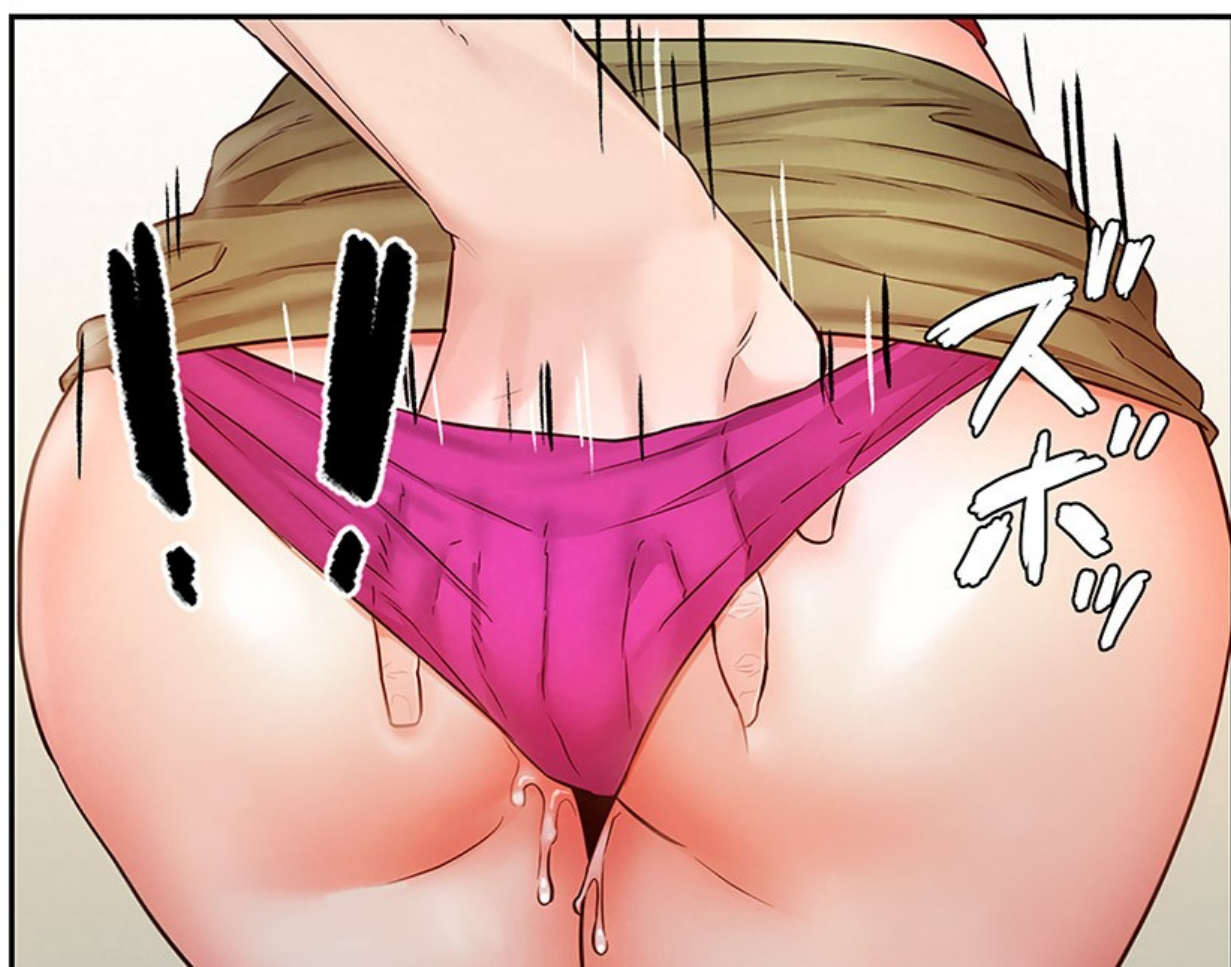




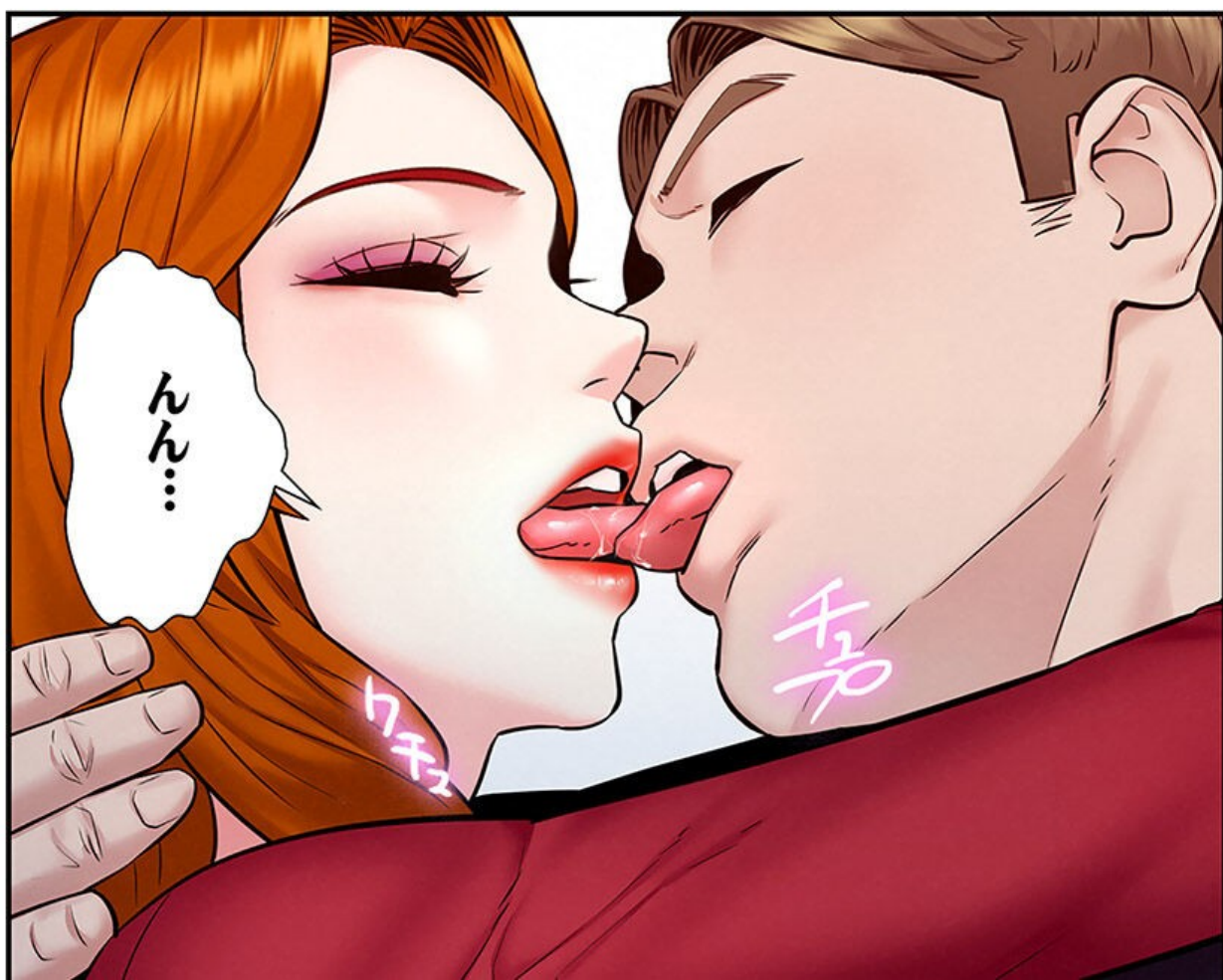




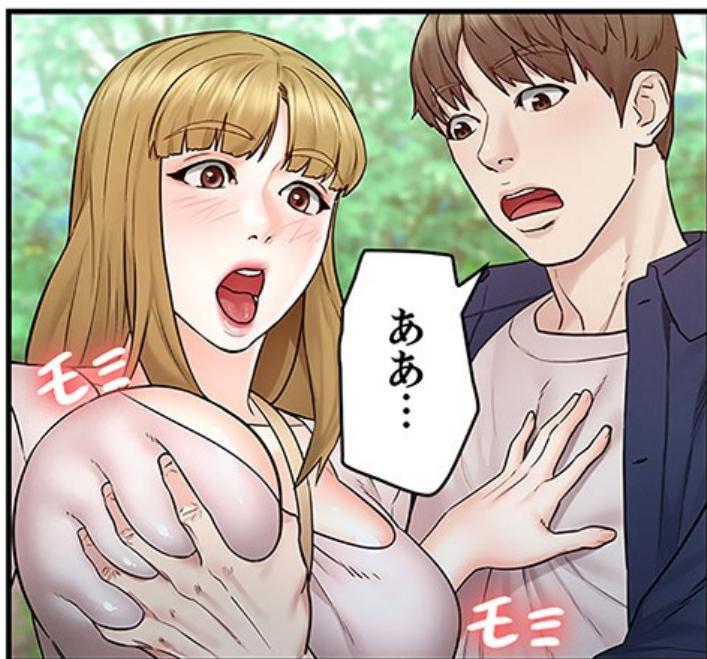


















はあ…真っ昼間に
またここに
戻ってくるなんて…



盛り上がってる時に
最後までシないと
病気になるからだよ

パーツと一発抜いて
夕飯食べに行こう

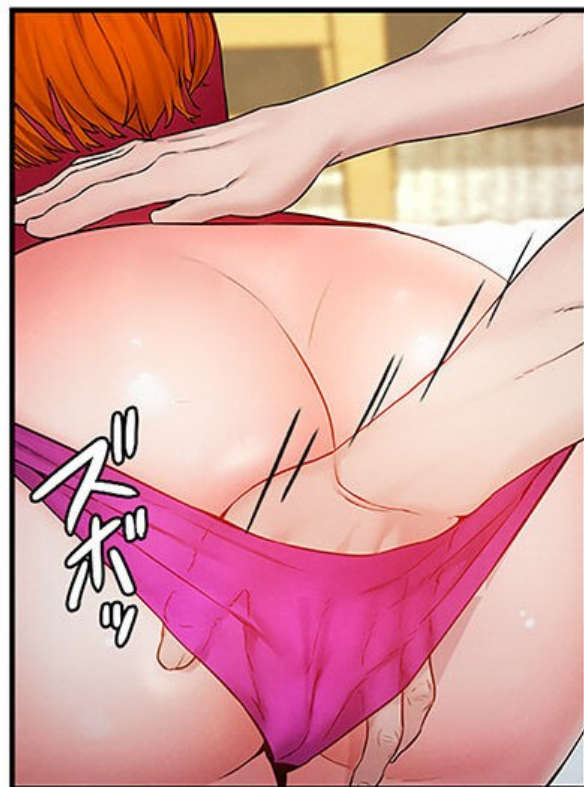




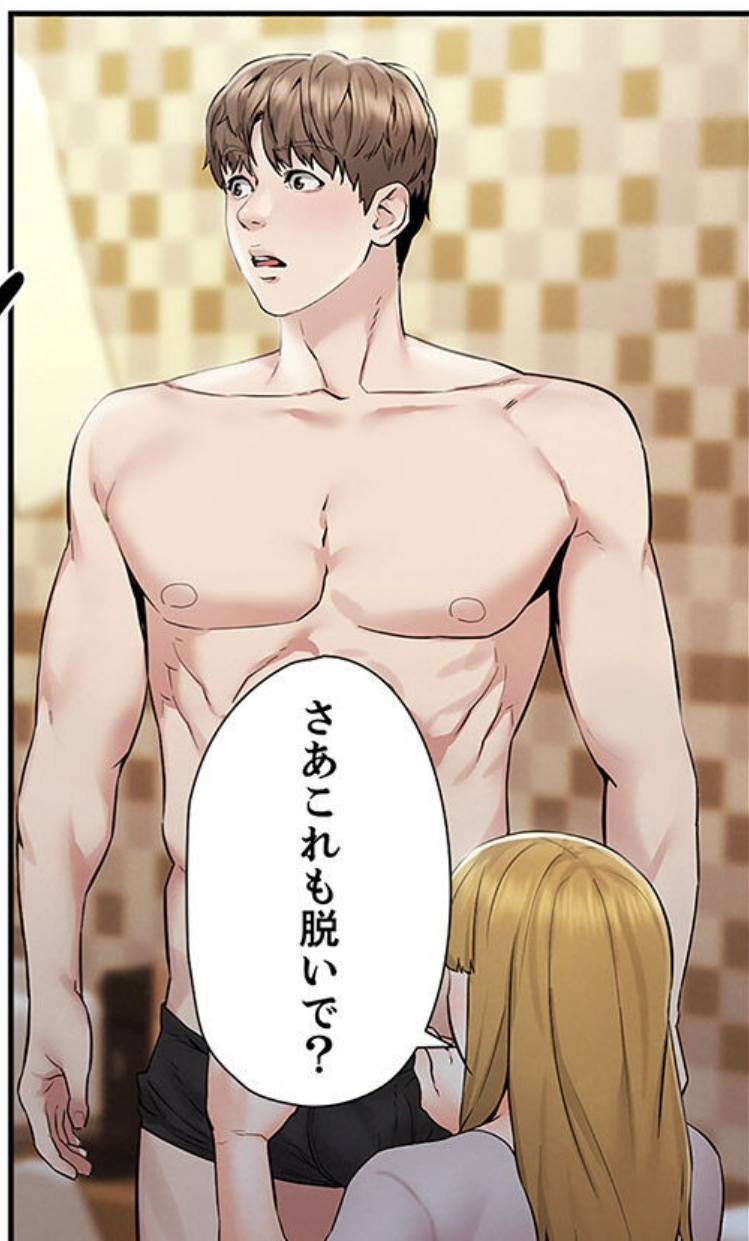




雄太：
ナミが欲しいのか？



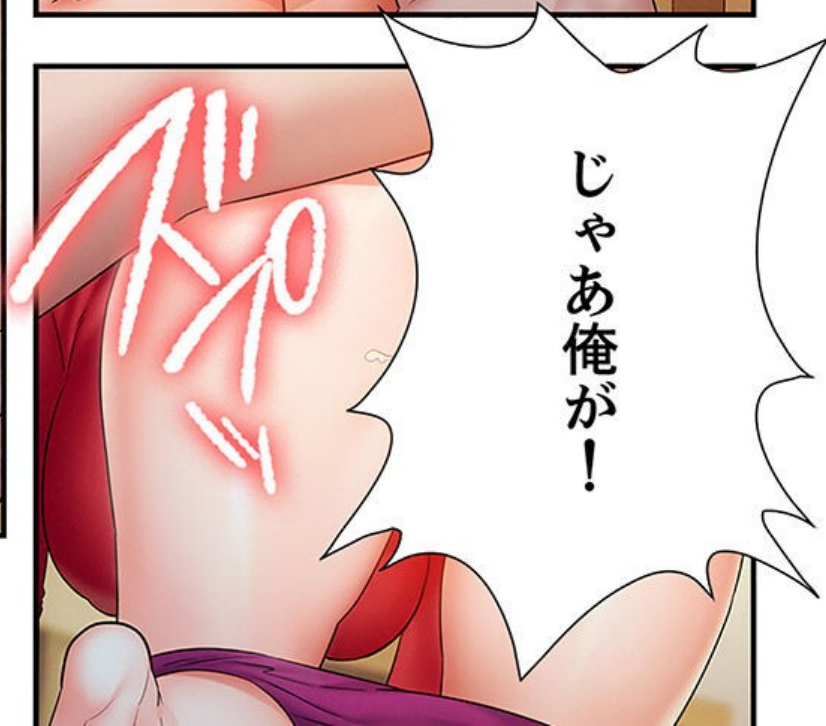
雄太さんのここ…
すっごく大きい…！













い...いや
俺はそんなんじゃない...
なくて...

ふふっ...雄太さんには
私がいるじゃない

スウー...

あ...
瑞希さん...



一体
何なんだよ…

ズ
ズ
ズ



ああ…
めっちゃ良いわ…

どうせ飲み屋で
働いてる
女のくせに…



はあ

はあ

ほ…本当に
良いですか？

何で修司とやるのは良くて
俺とするのは駄目なんだよ

はあッ

はああッ

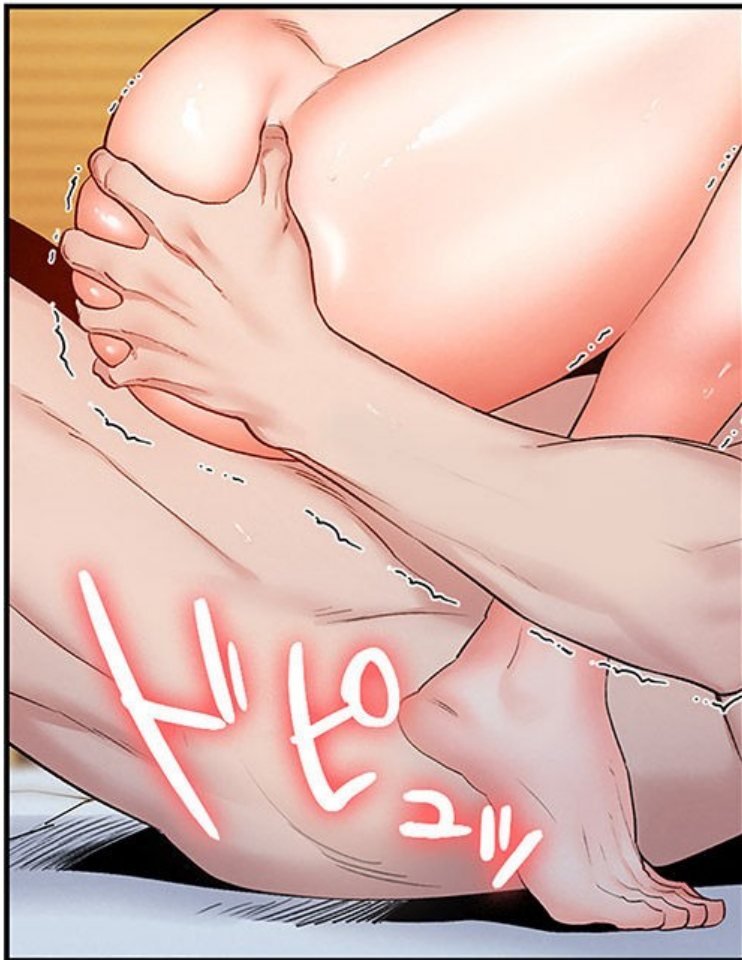
俺の何処が不満で
シないんだよ！

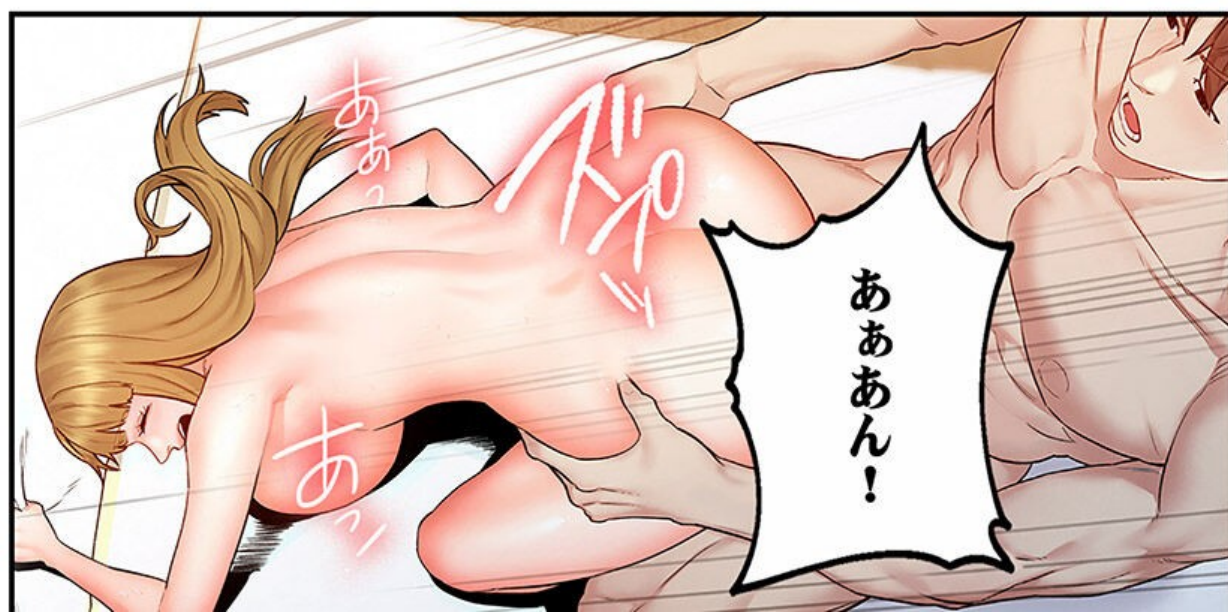
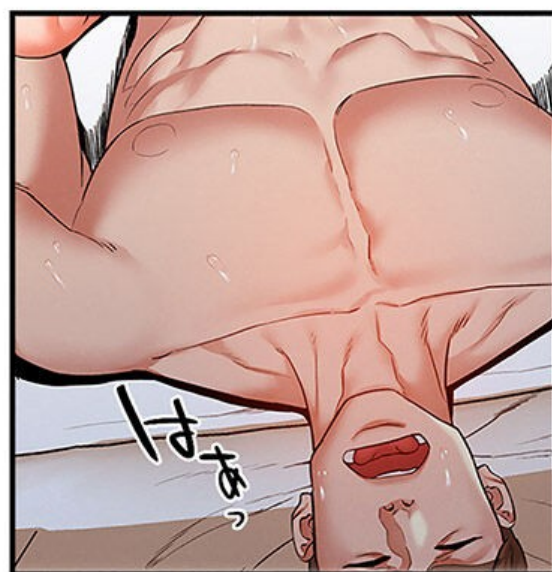
俺が修司より
そんなに魅力が無いのか？

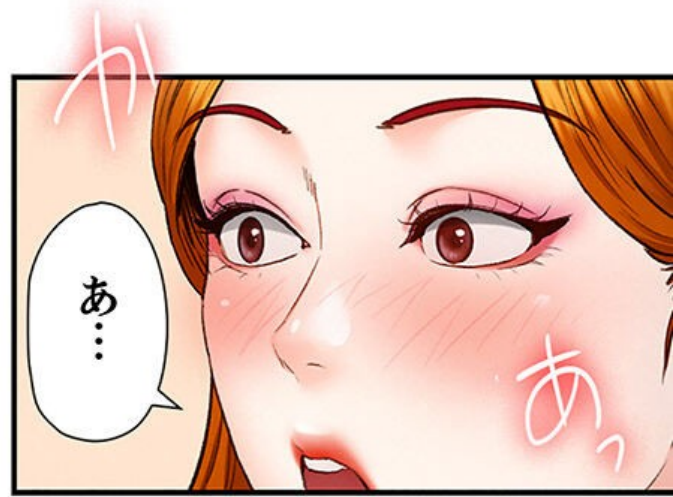
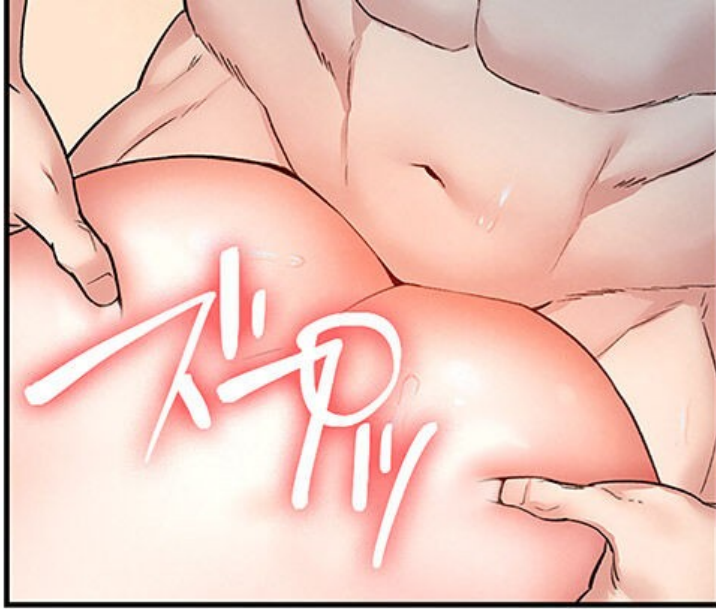
うん…
気持ちいい所に
当たってる…

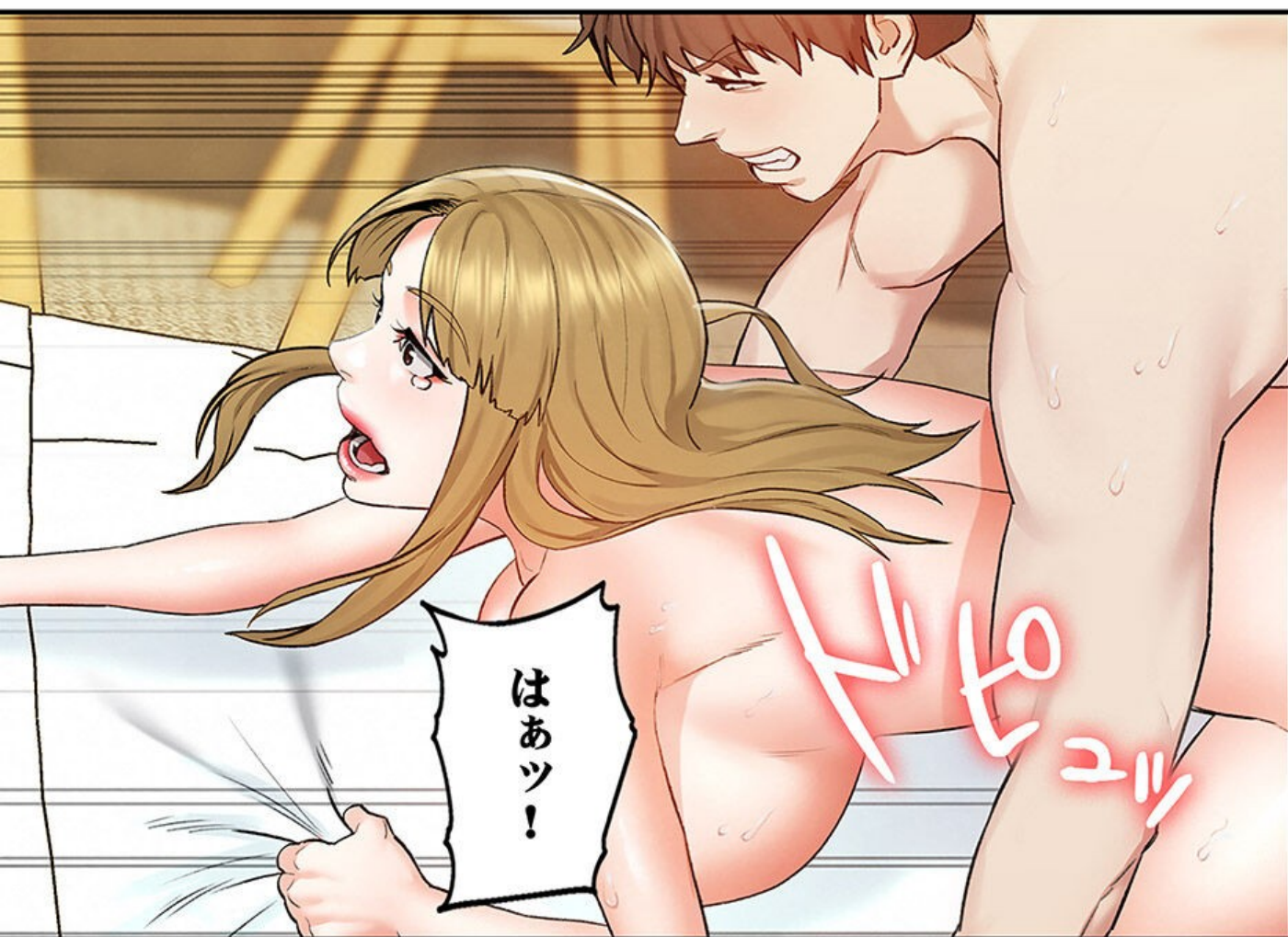


いっしょ

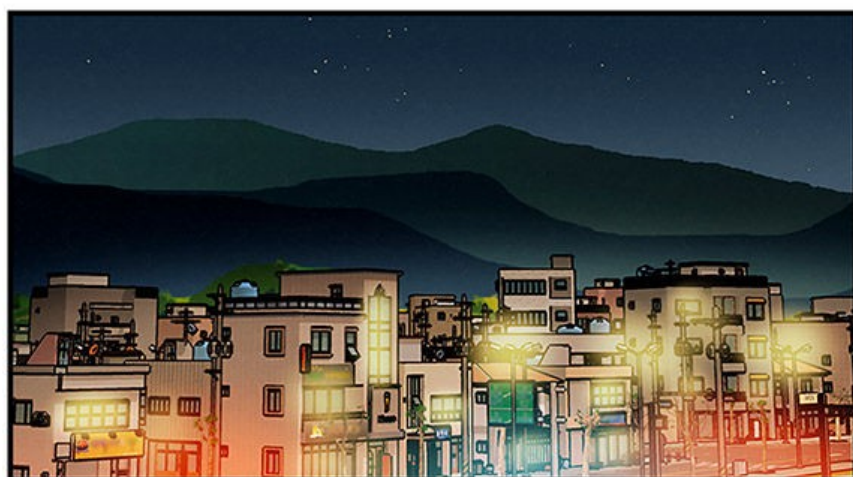




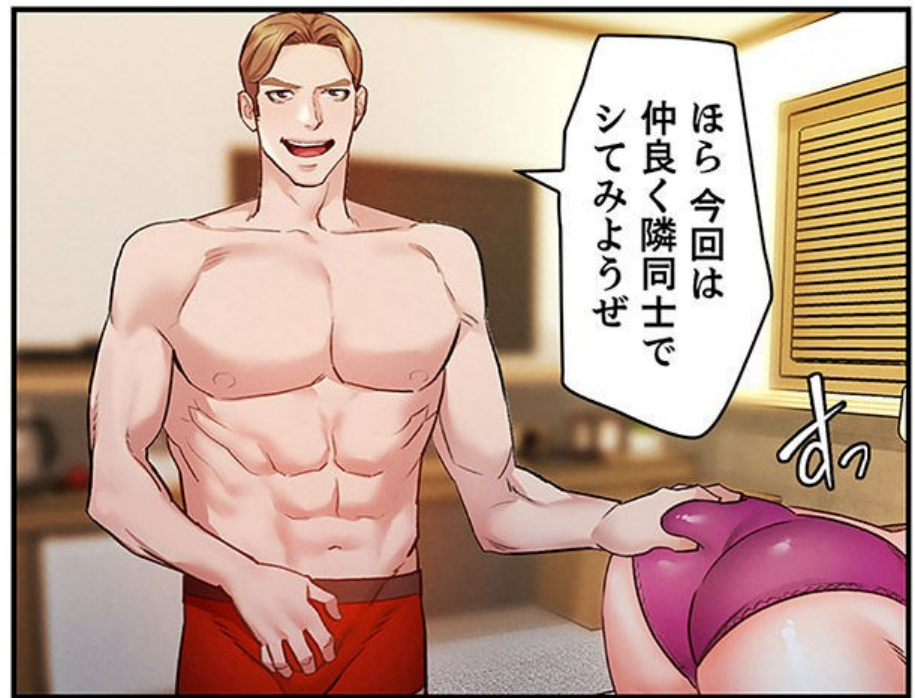
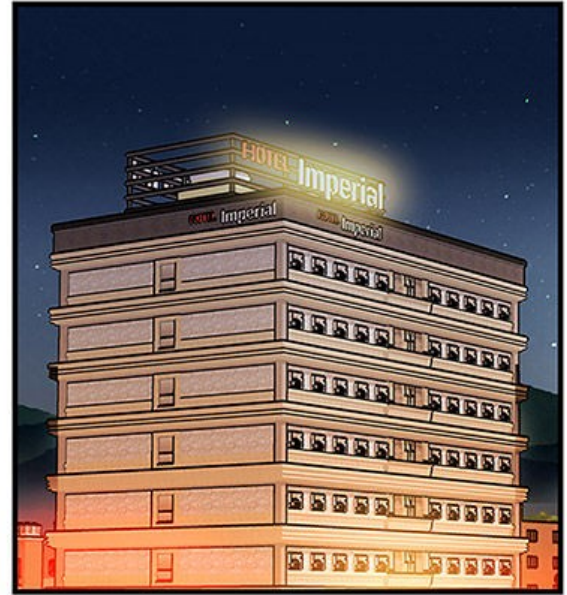
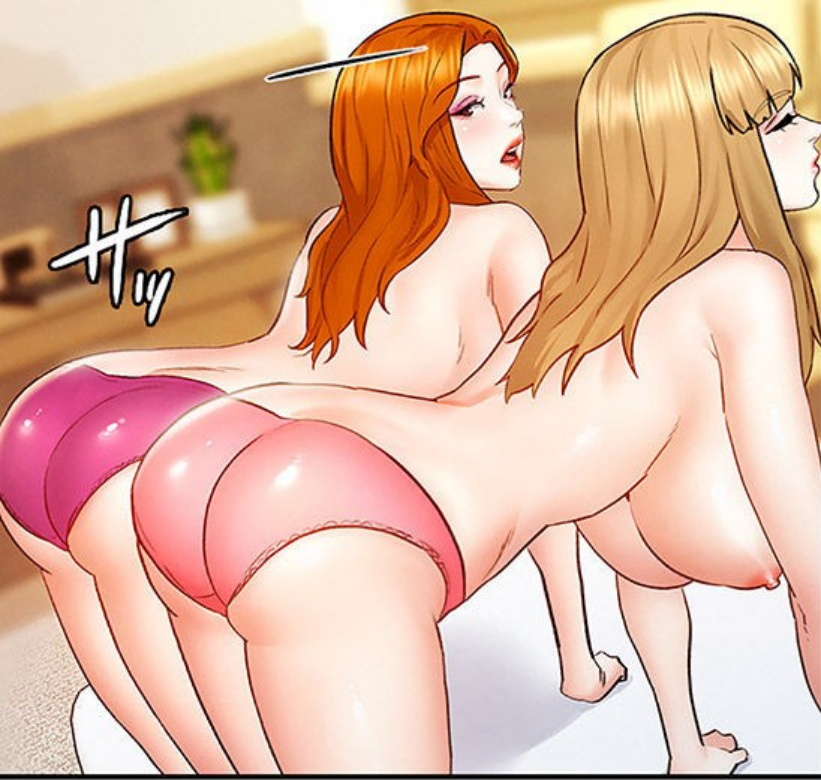


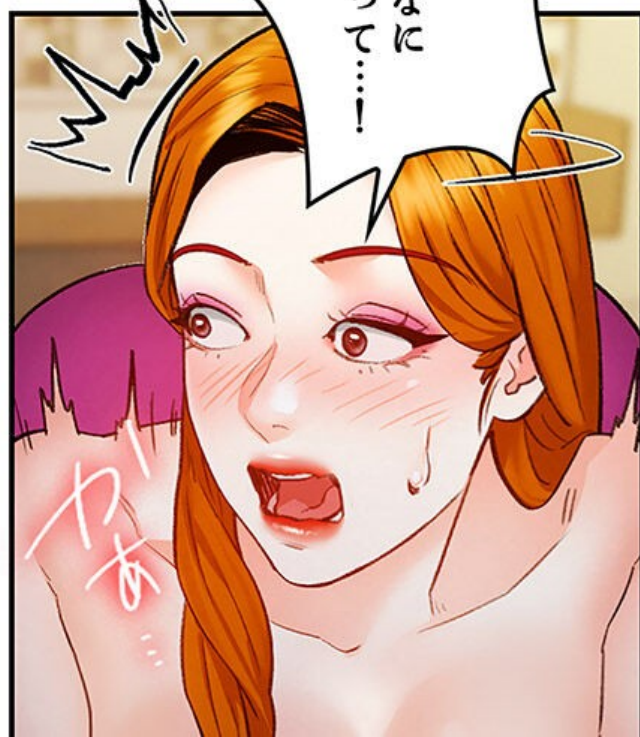
















じゃあ…雄太に
一回やらせるのも
出来るって事だよな？

ううむ…

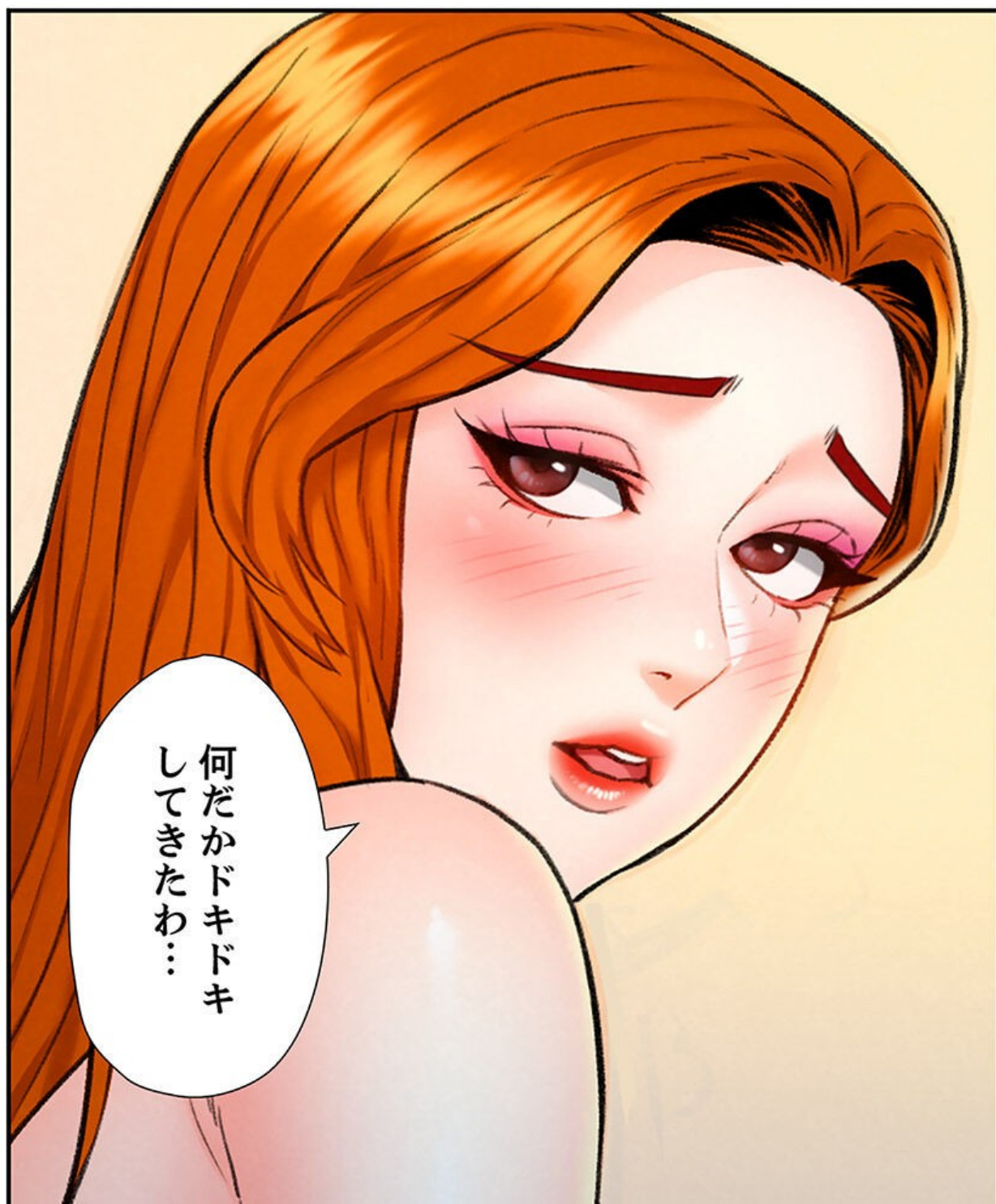


あれ…ナミ
お前本気か？



どうしよう…じゃあ
お遊びで一回やって
みようかな…？

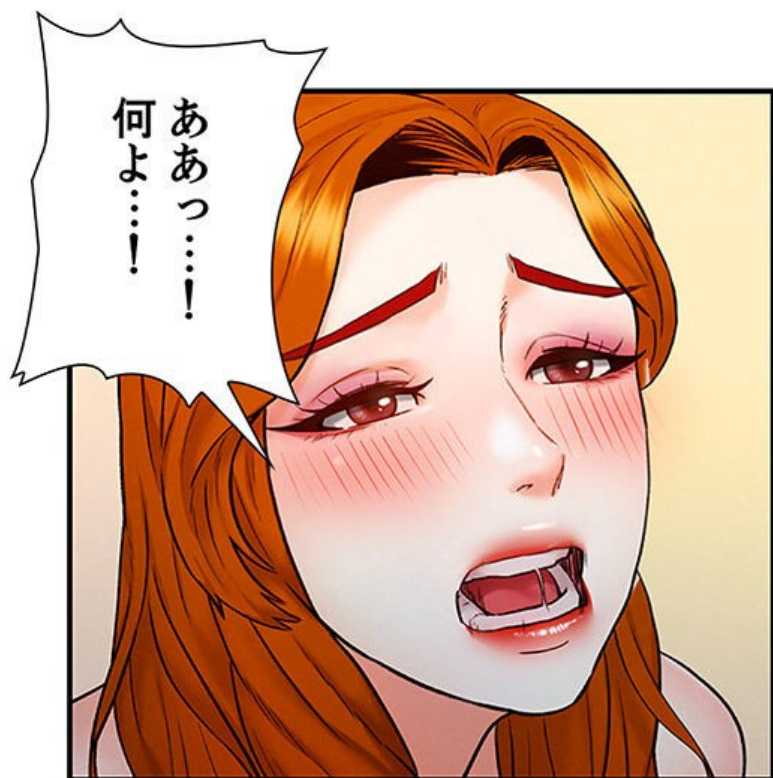




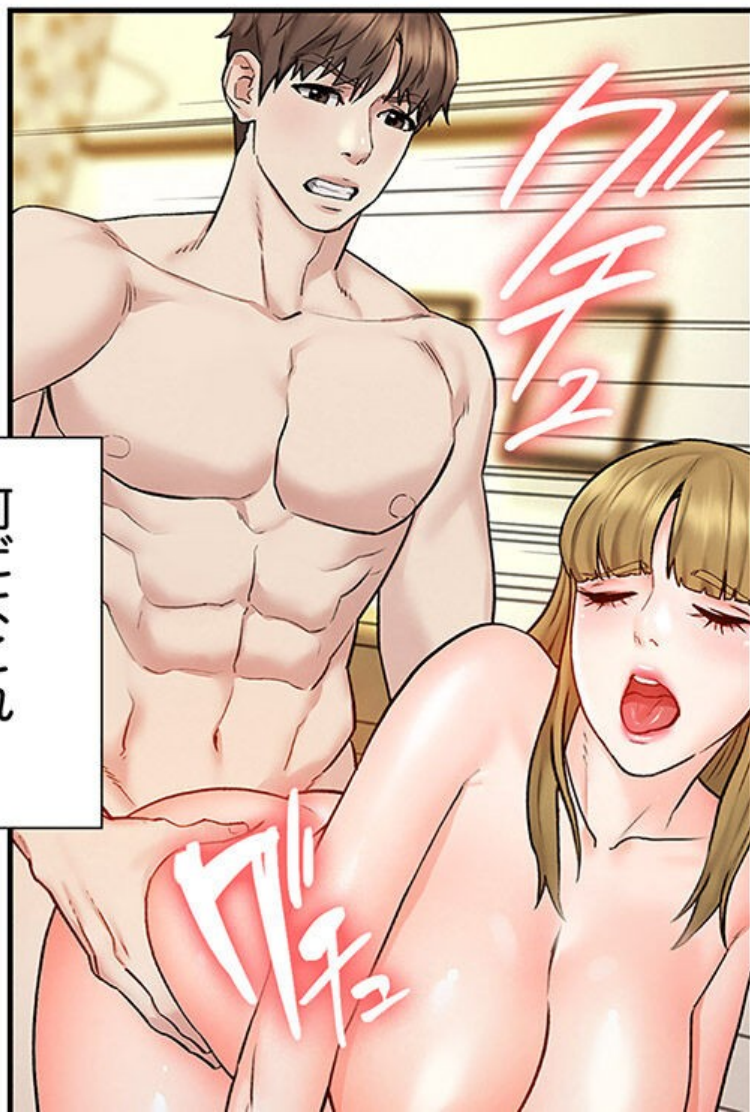
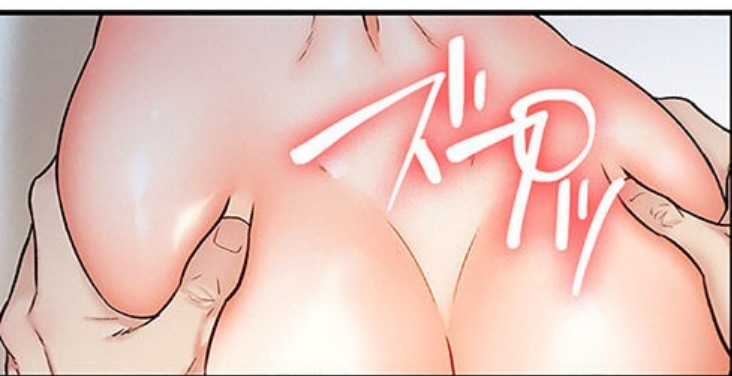
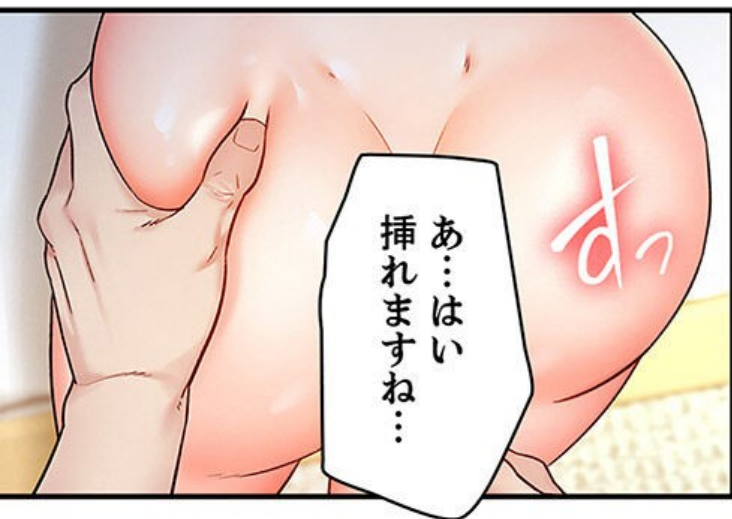
何だかドキドキ
してきたわ…

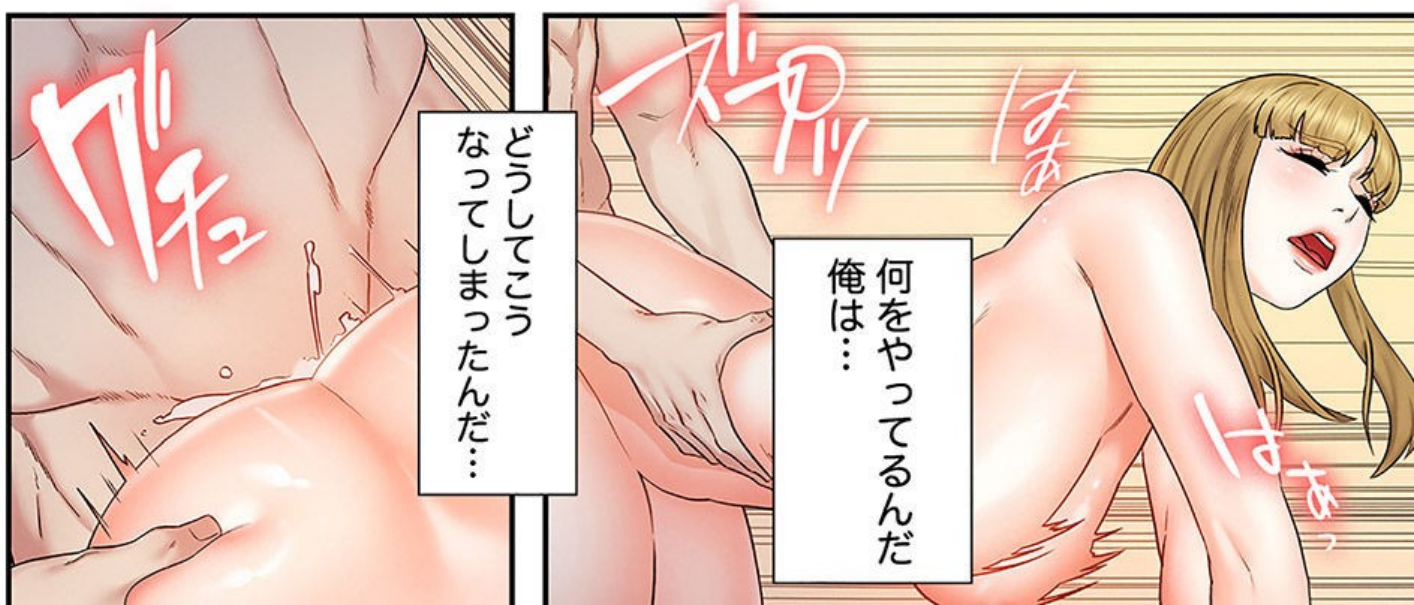




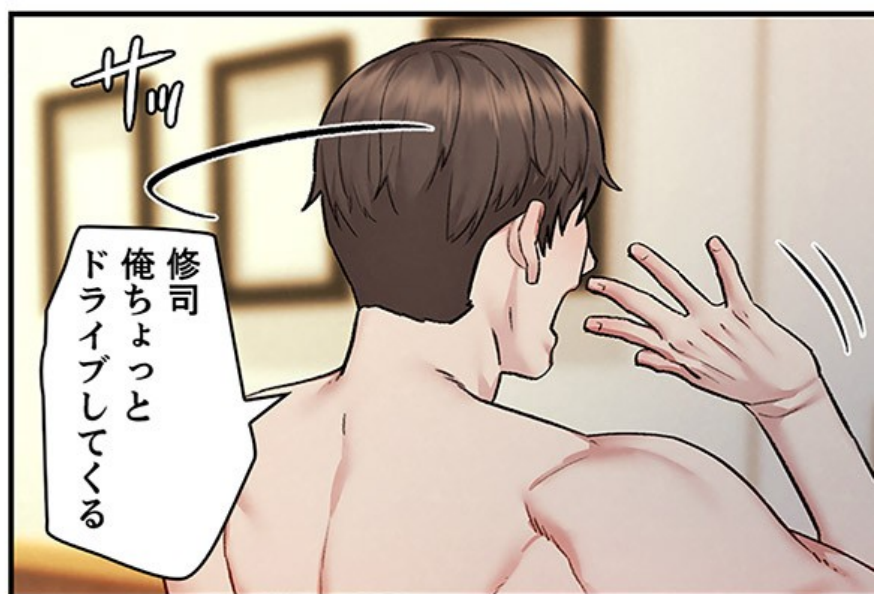
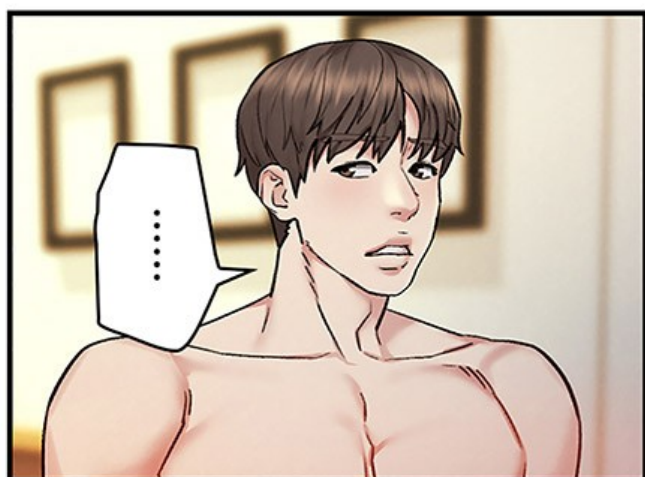










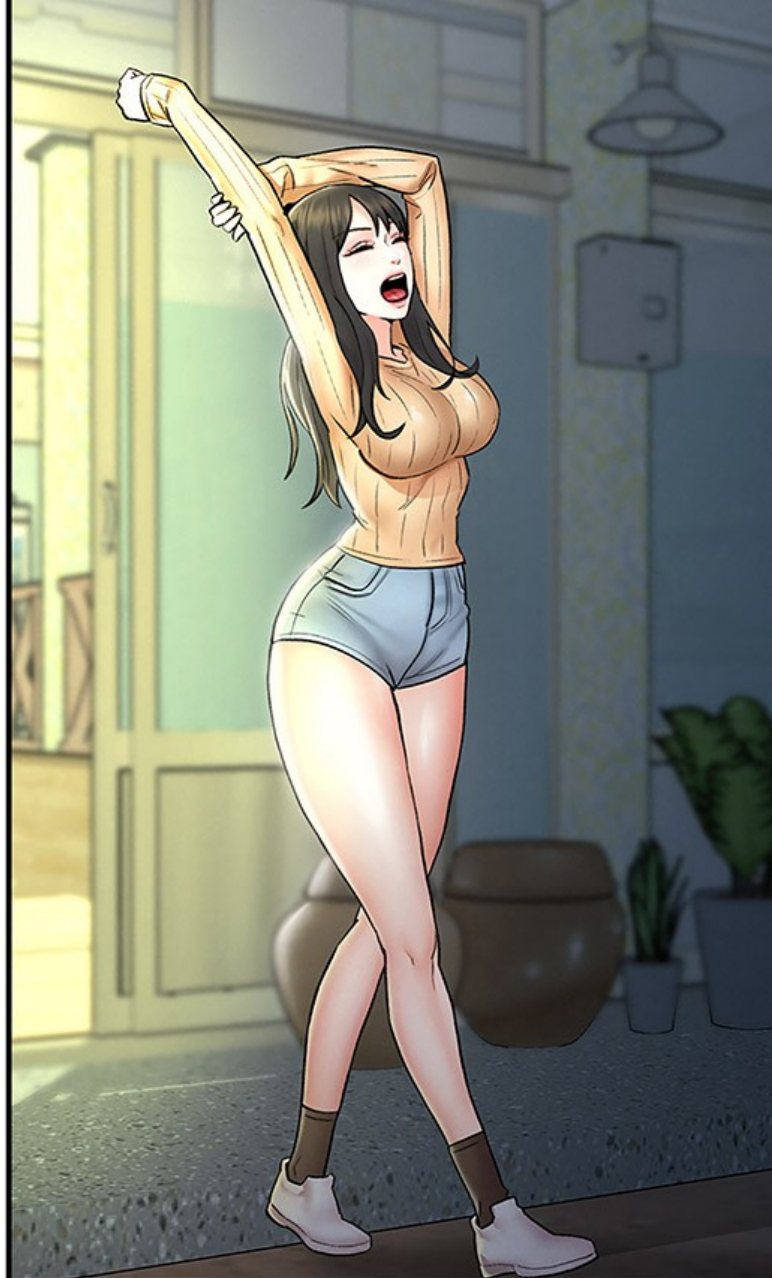
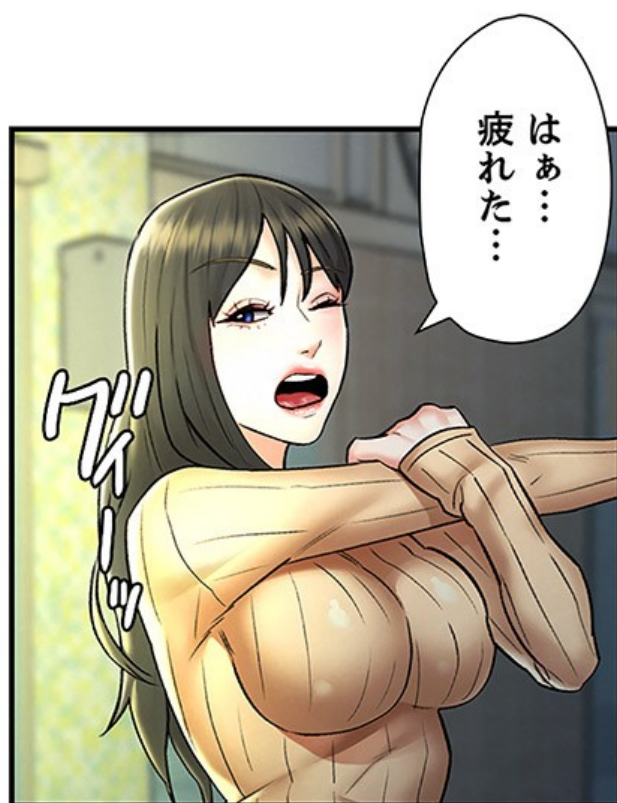




30分以上車の中に
いるけど俺は
何をしたいんだよ...



はあ...つい
ここにきてしまった...





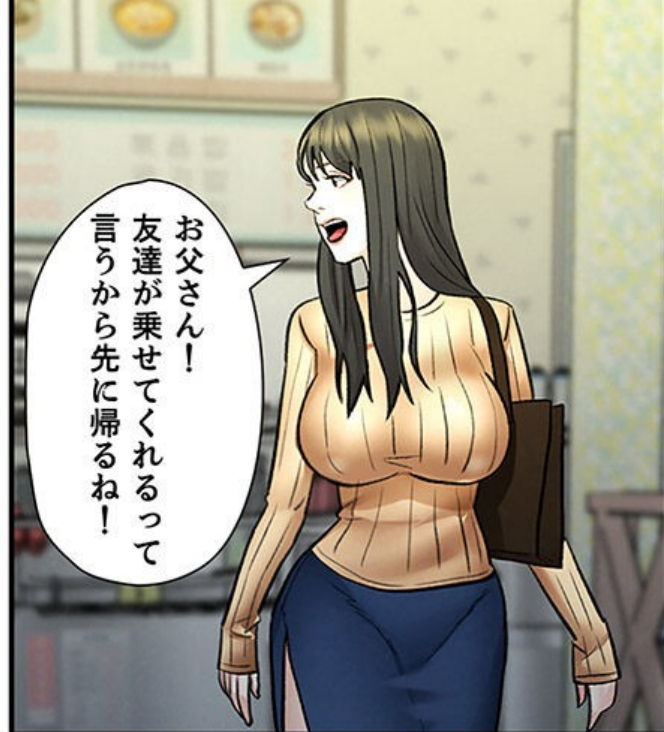
もう今日の営業
終わっちゃって…
また明日来てくださいね！



お…
お姉さん…！



い…いや…
実は俺…



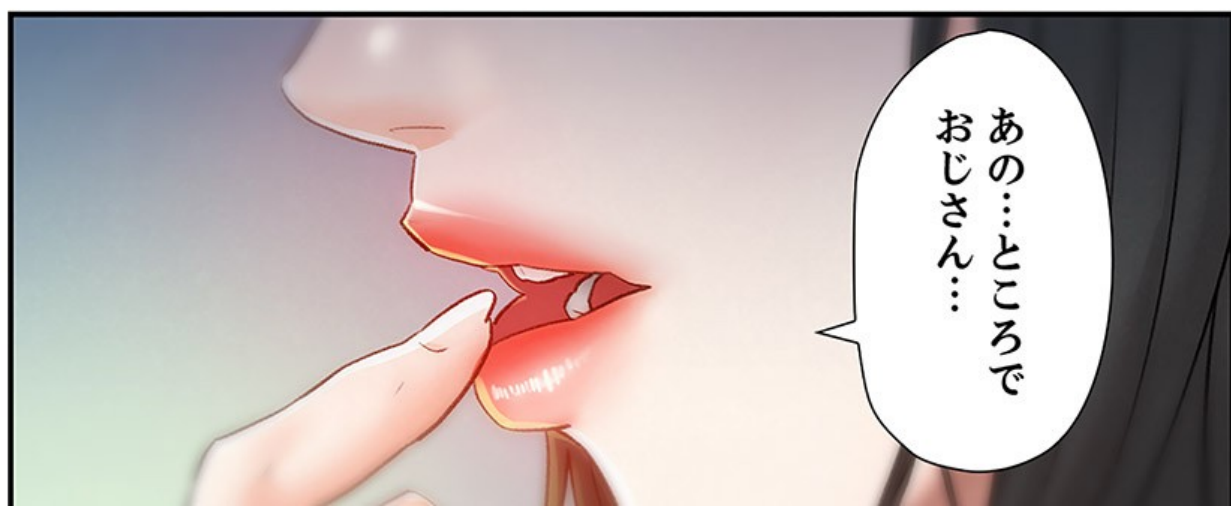
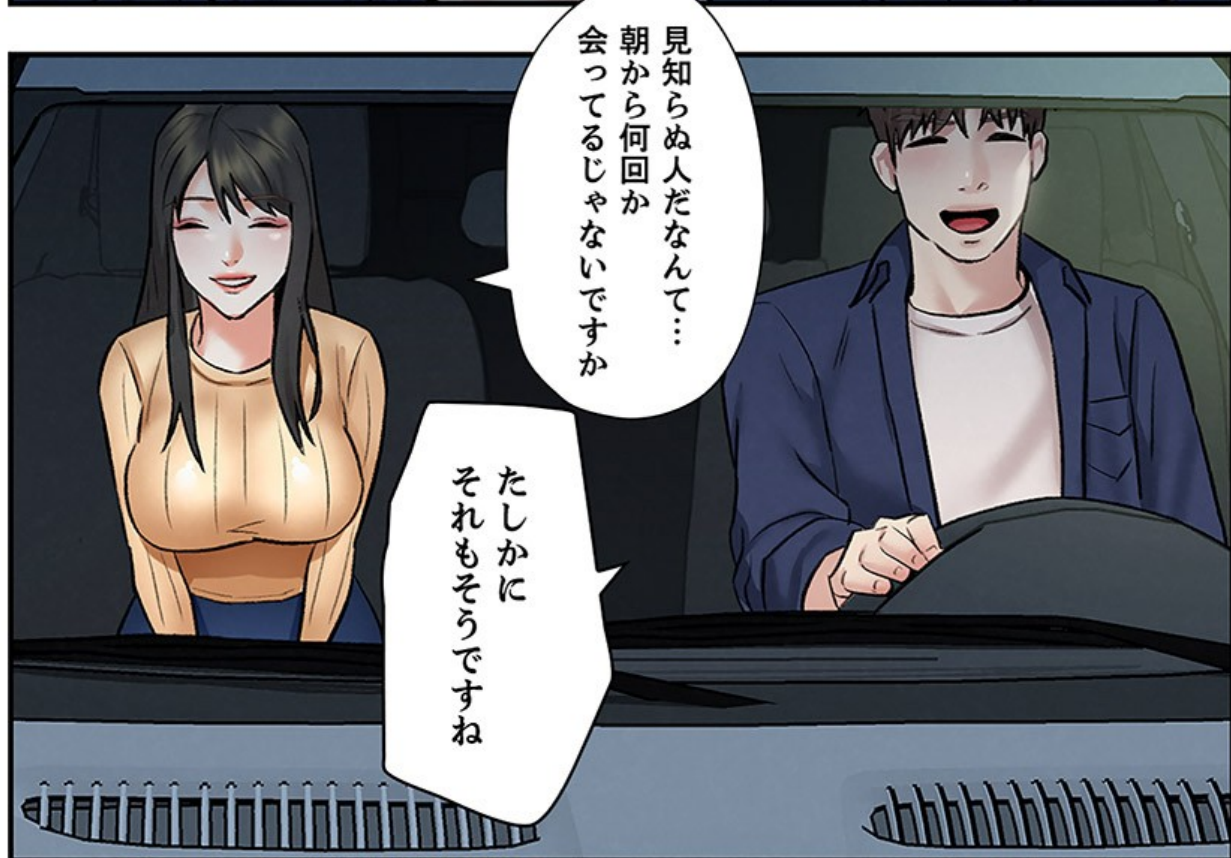


すみません
無理なお願い
聞いてもらって…



大丈夫ですよ！
こんな機会じゃないと
高級車乗れないですから！

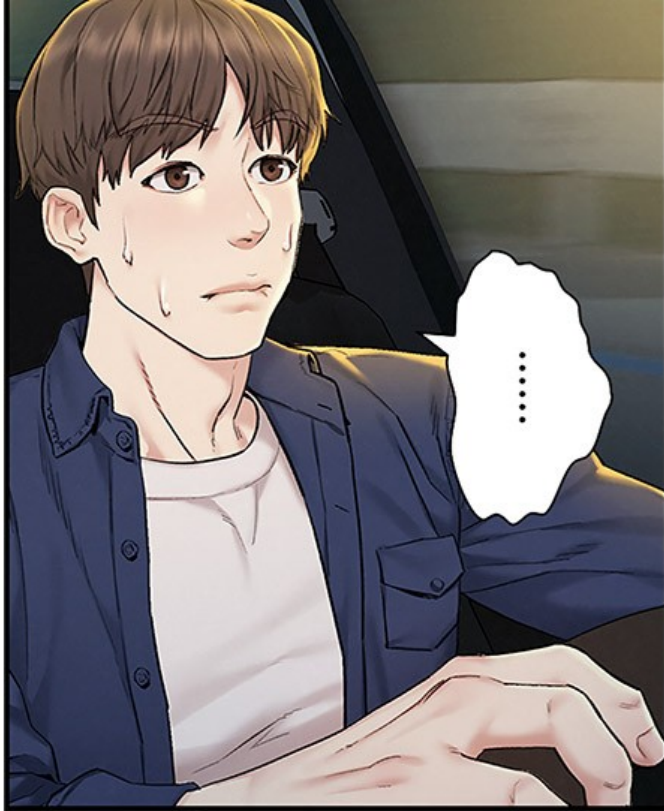
私はむしろ
誘ってくれた事に
感謝してますよ？





もしかして

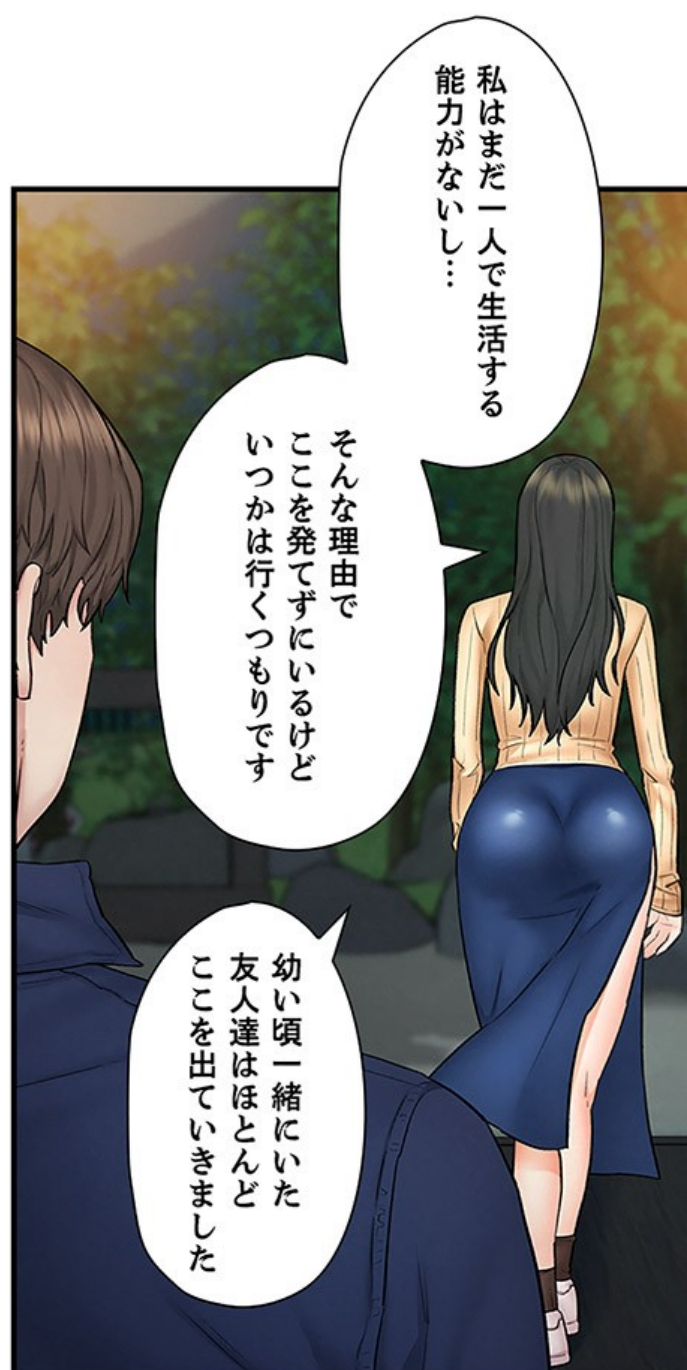
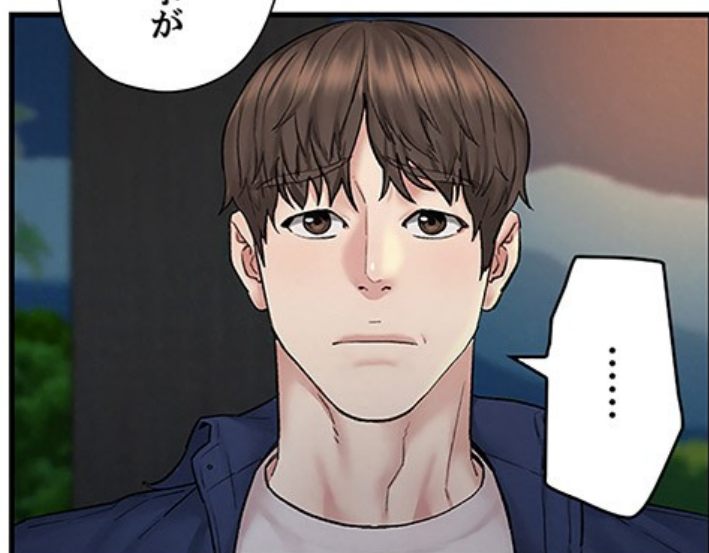
結婚
されてますか？













雄太さんが
頼りですよ

そういえばあの子…
何故だか穂乃香さんを
思い出す



よく見ると…
この旅行に来る前

穂乃香さんが
穿いていた
スカートと似てるな…



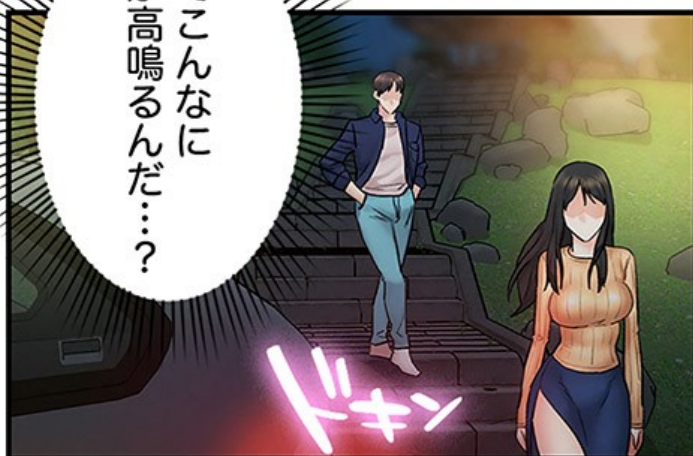
純粹で落ち着いてるけど…
あのスカートの
スリットみたいに
時には大胆な姿



若い頃の穂乃香さんは
多分あの子に似てた
気がする…



何でこんなに
胸が高鳴るんだ…？

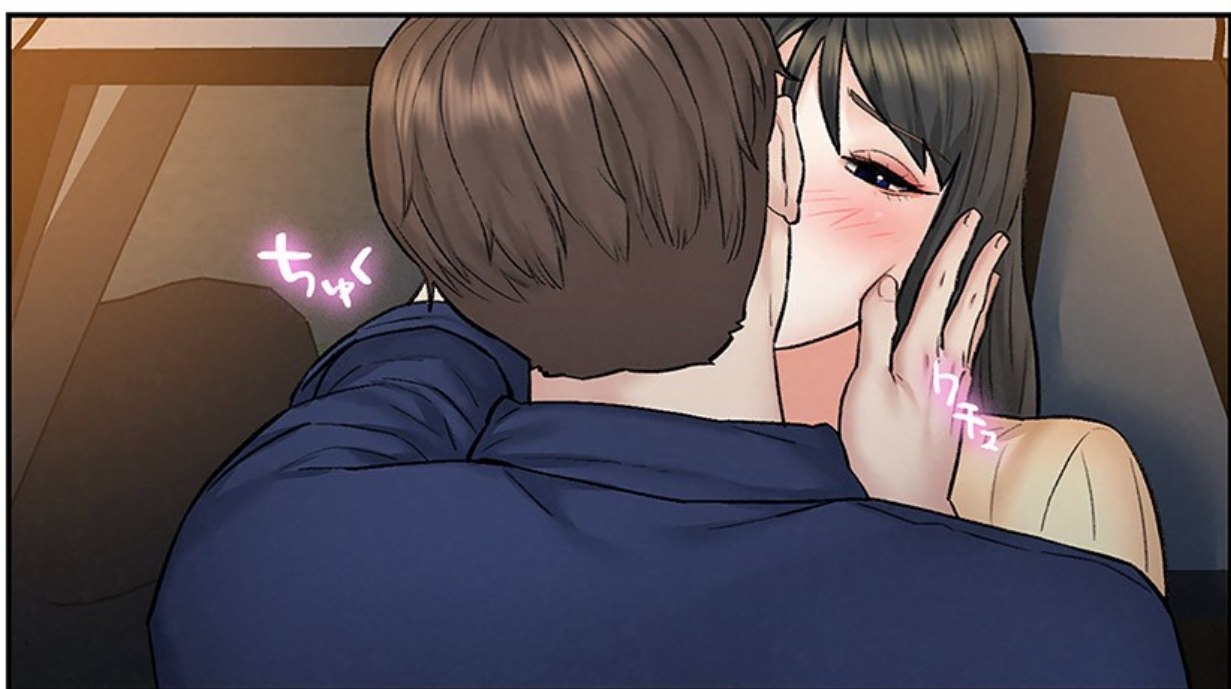


いずれにせよ…
とても美しい
女の子だ…



そういえば名前言って
なかったですね？
私は…優梨（ゆり）です！
おじさんは？



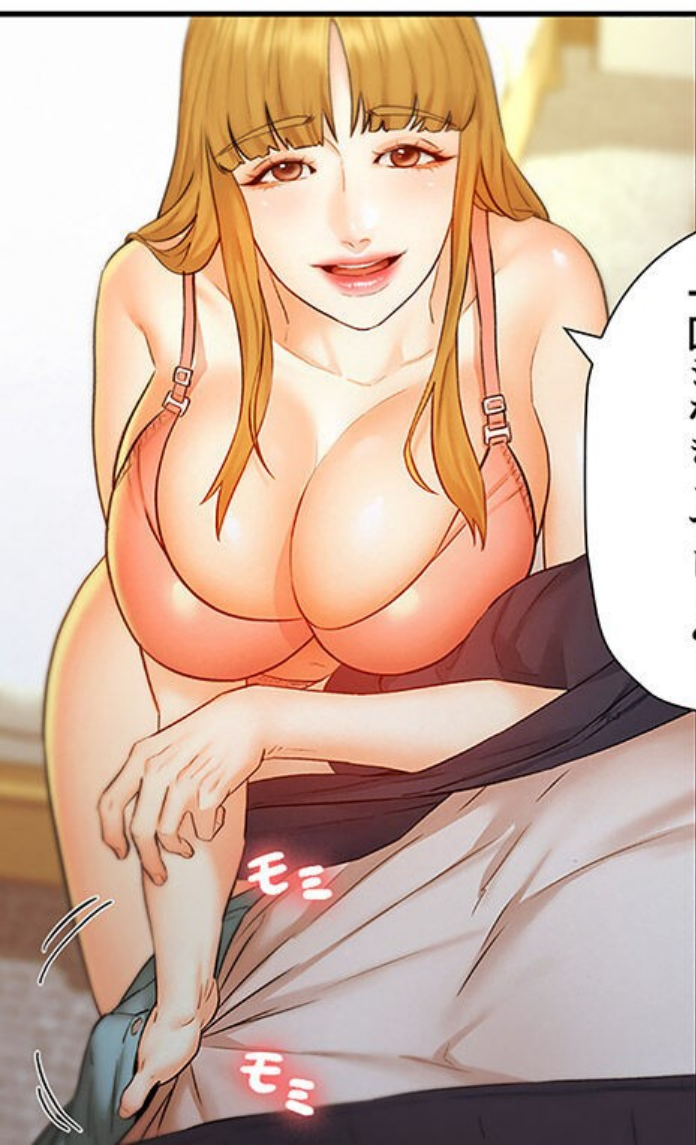


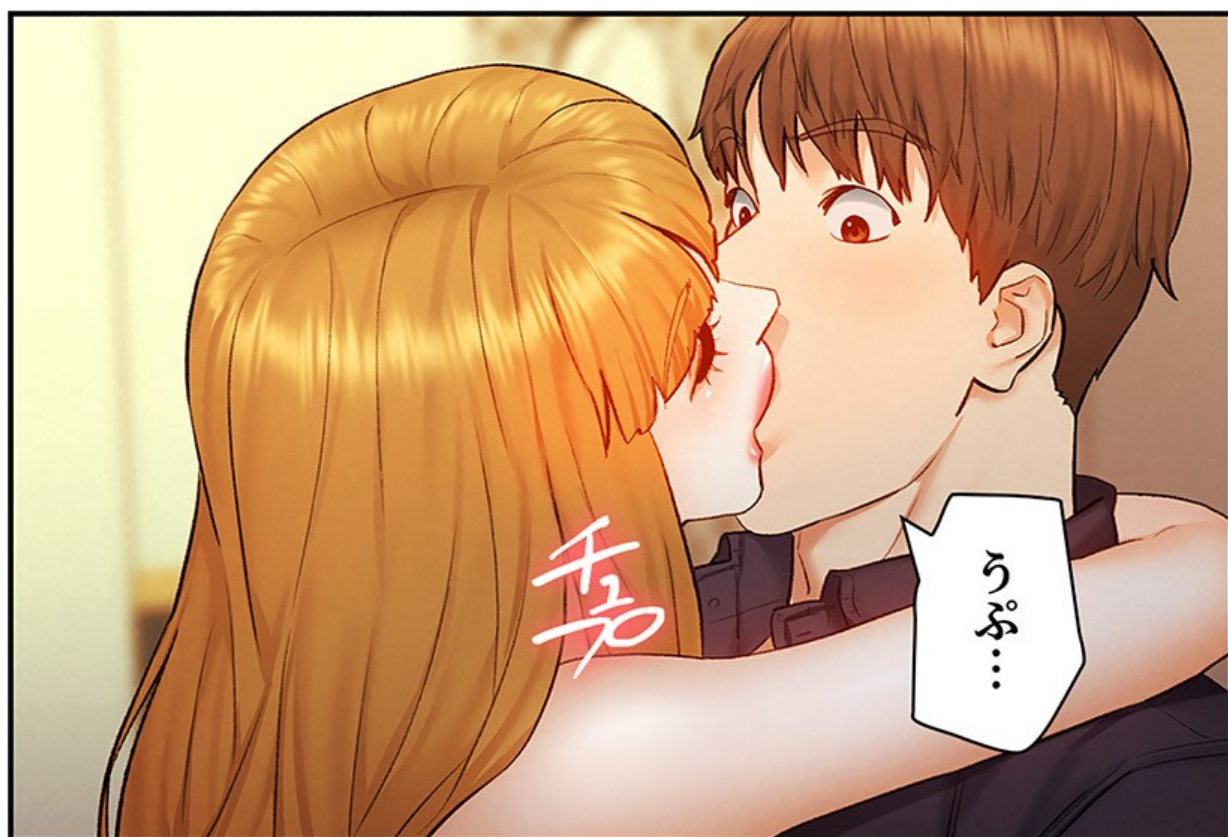


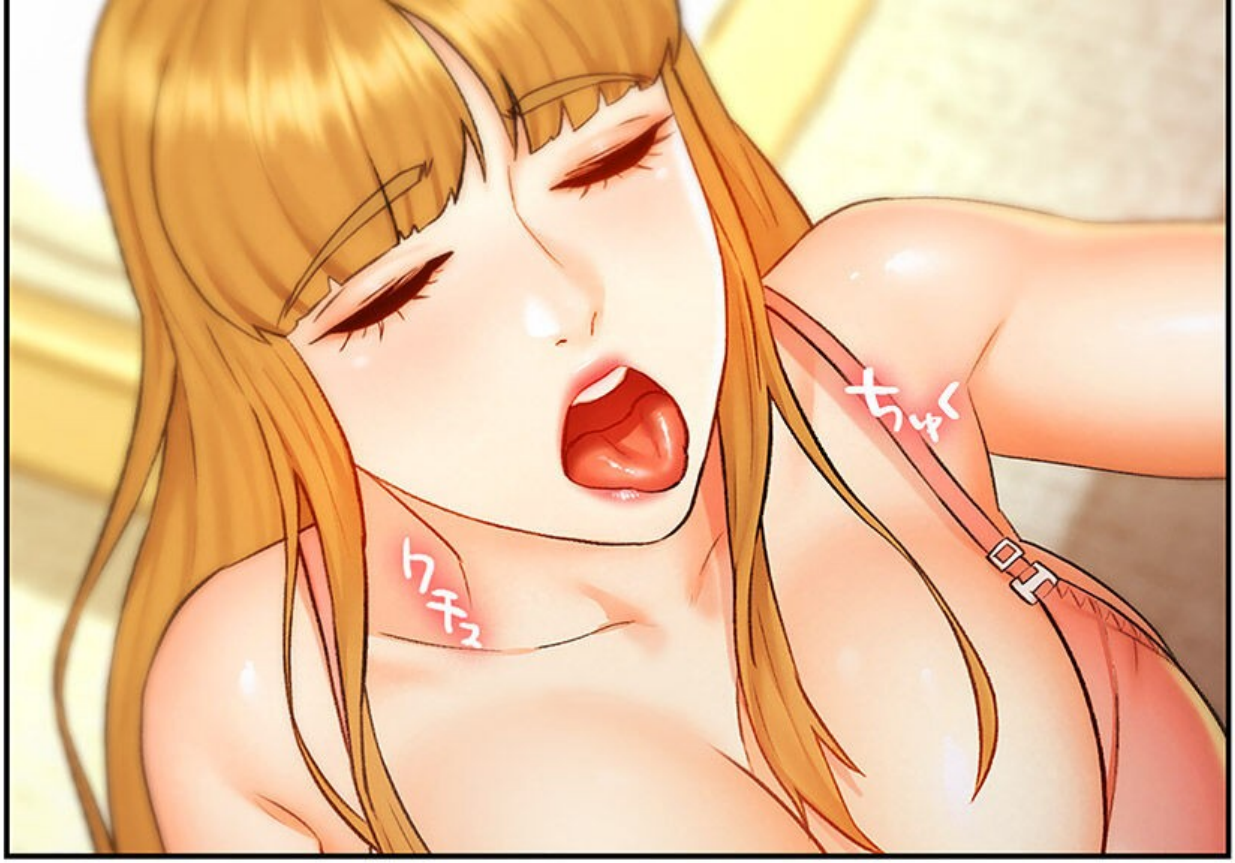


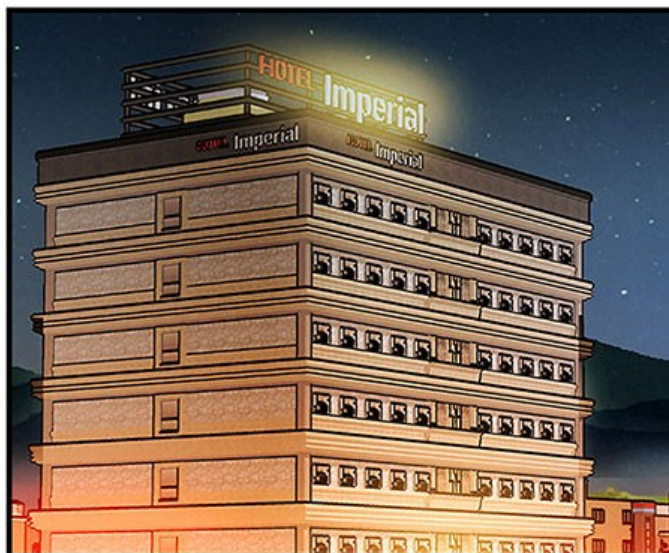












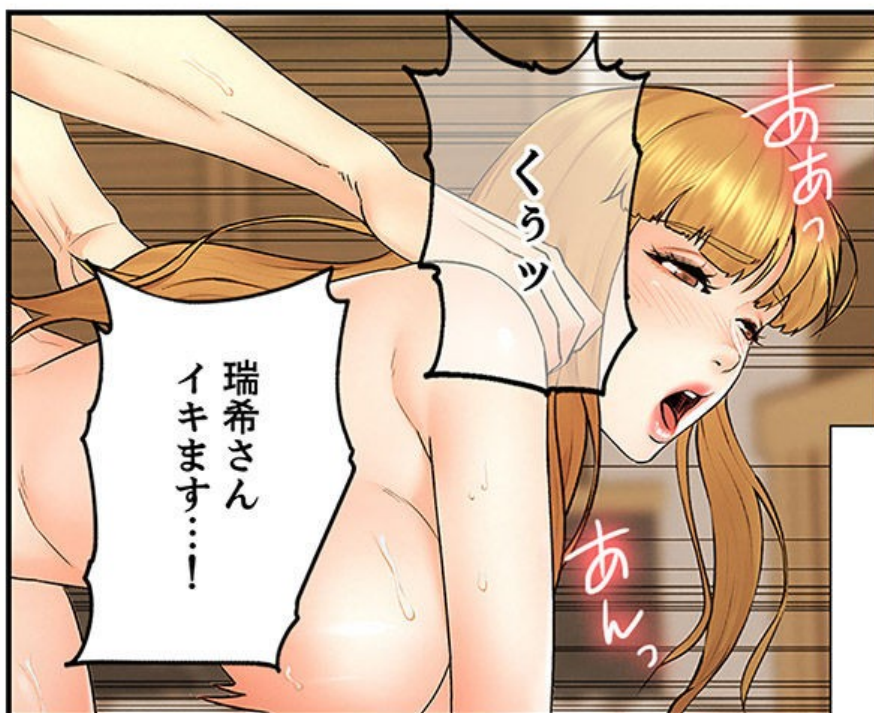




そもそも天使みたいな彼女と
俺みたいな既婚者が
釣り合うはずがない



このまま深みにはまっても
良い事なんてないのに...

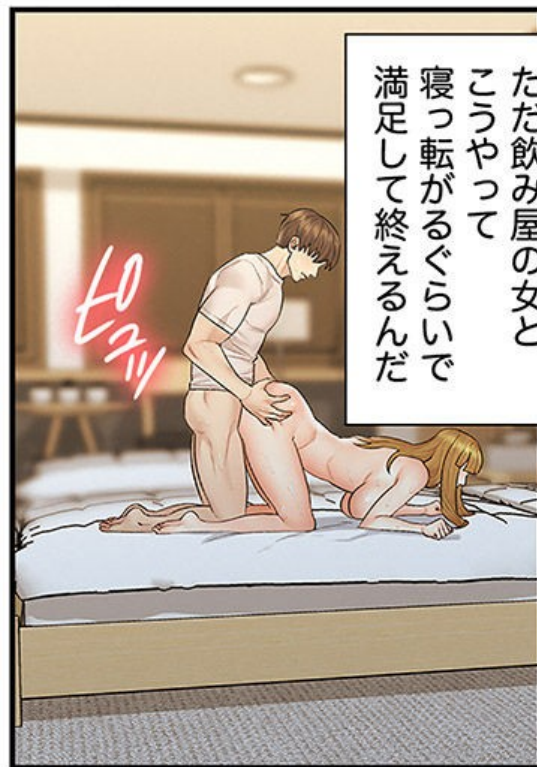
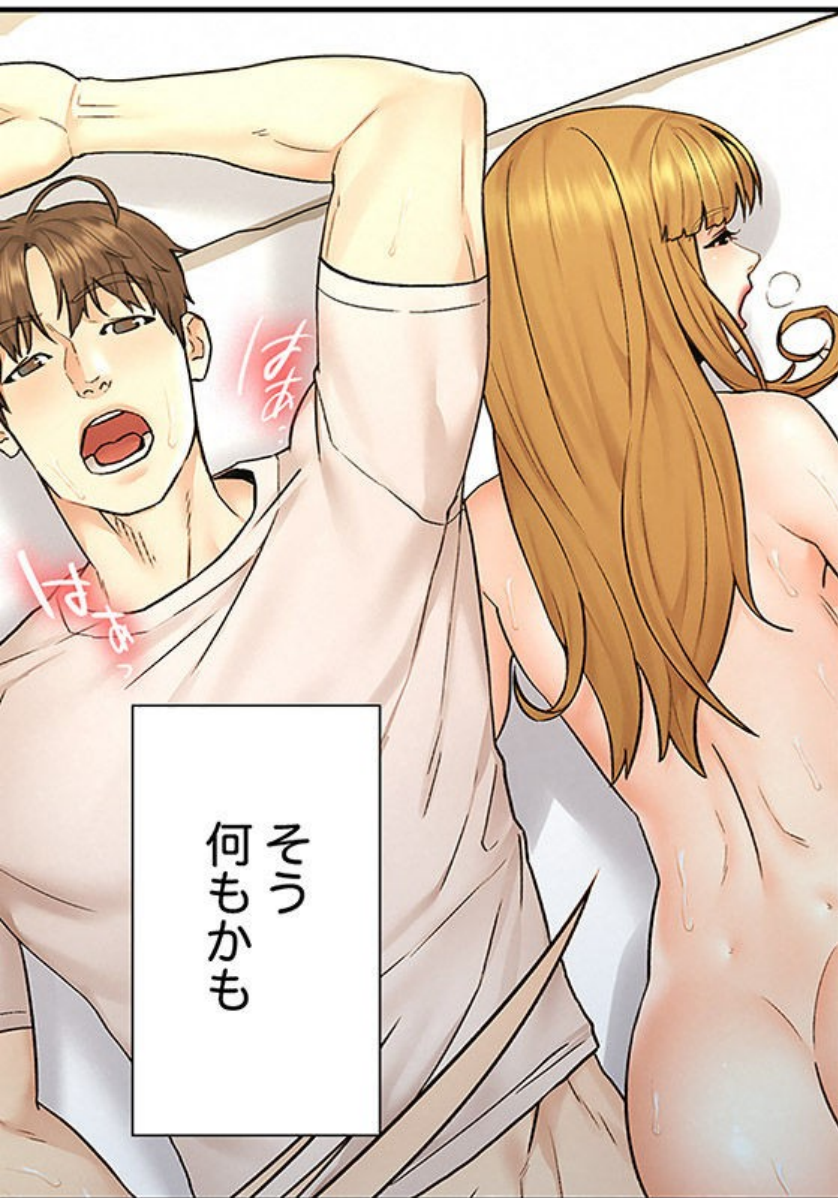
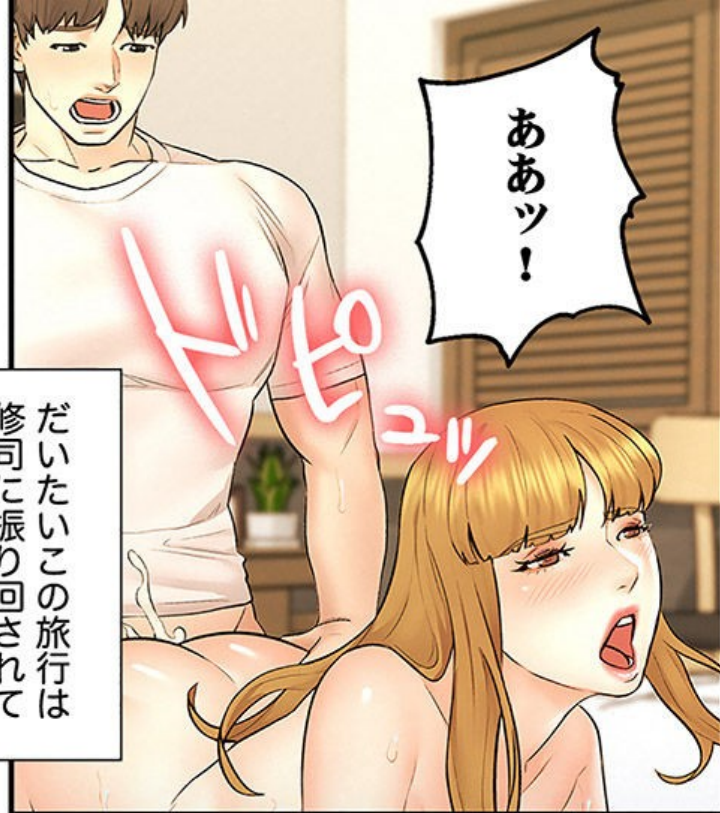


ここで優梨さんの事を
考えるのは
止めにしないと...

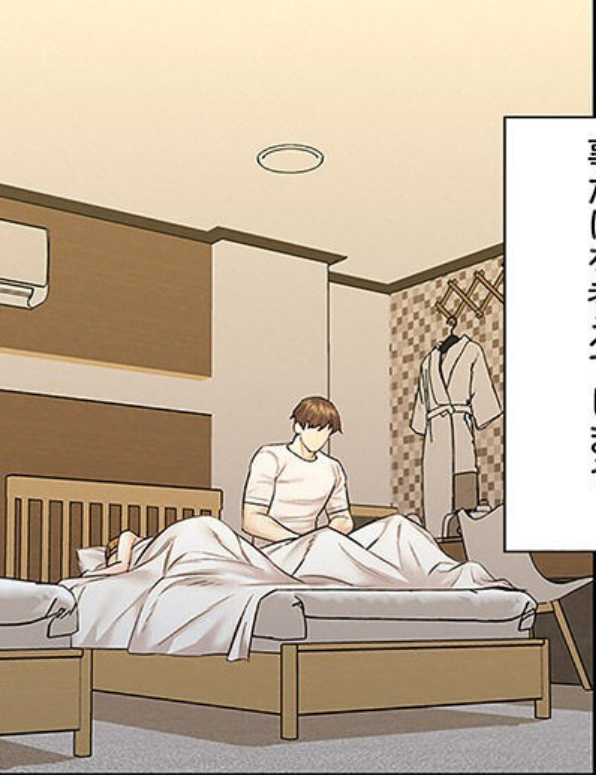




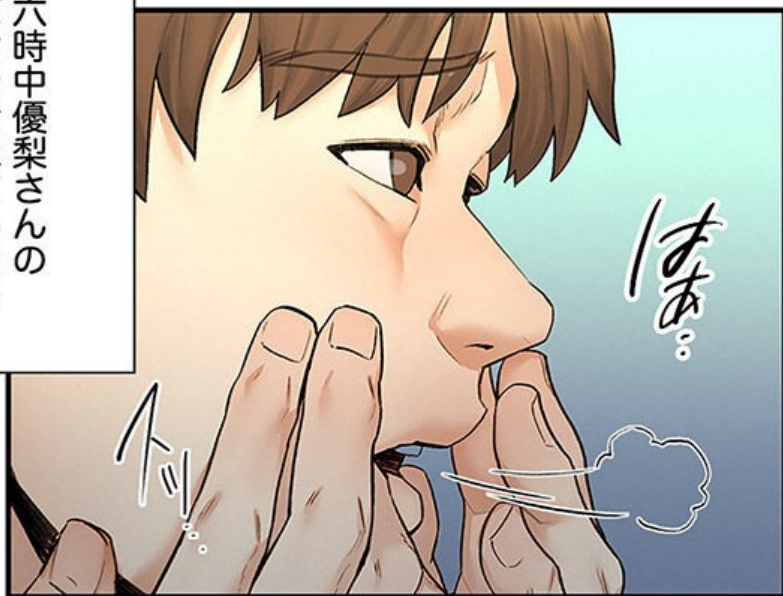
だいたいこの旅行は
修司に振り回されて
台無しになった







四六時中優梨さんの
事だけを考えてしまう…



まだ修司は
寝てる時間だよな…



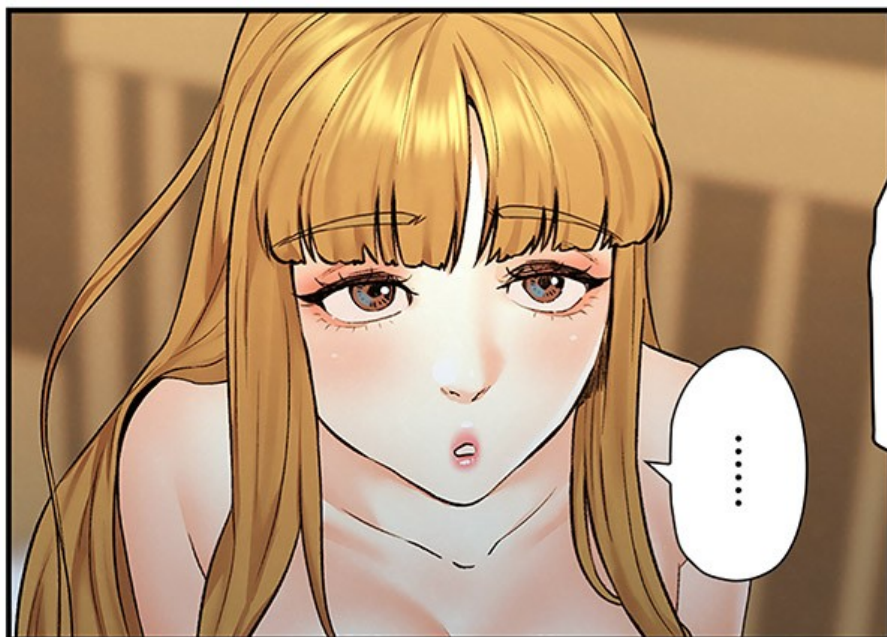
このままでは
駄目だ



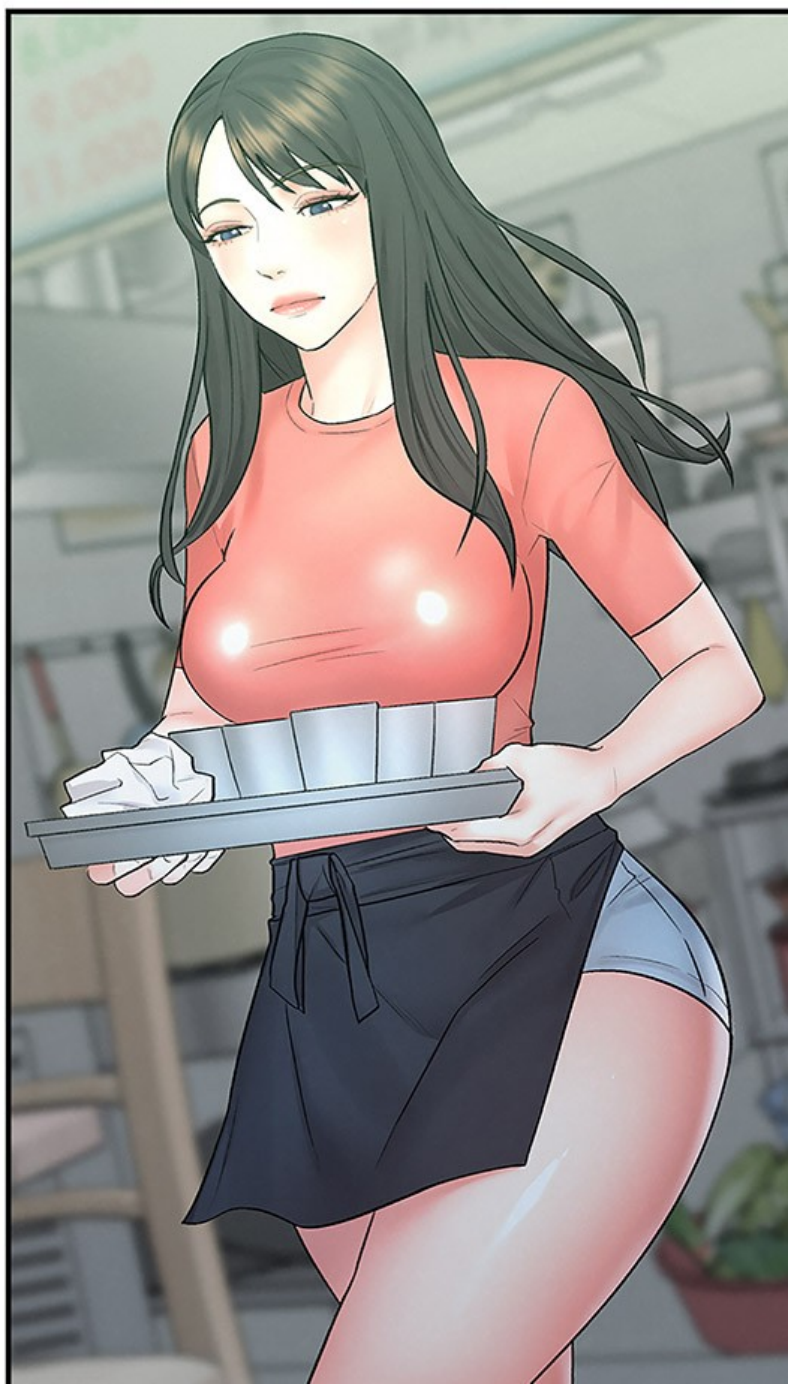
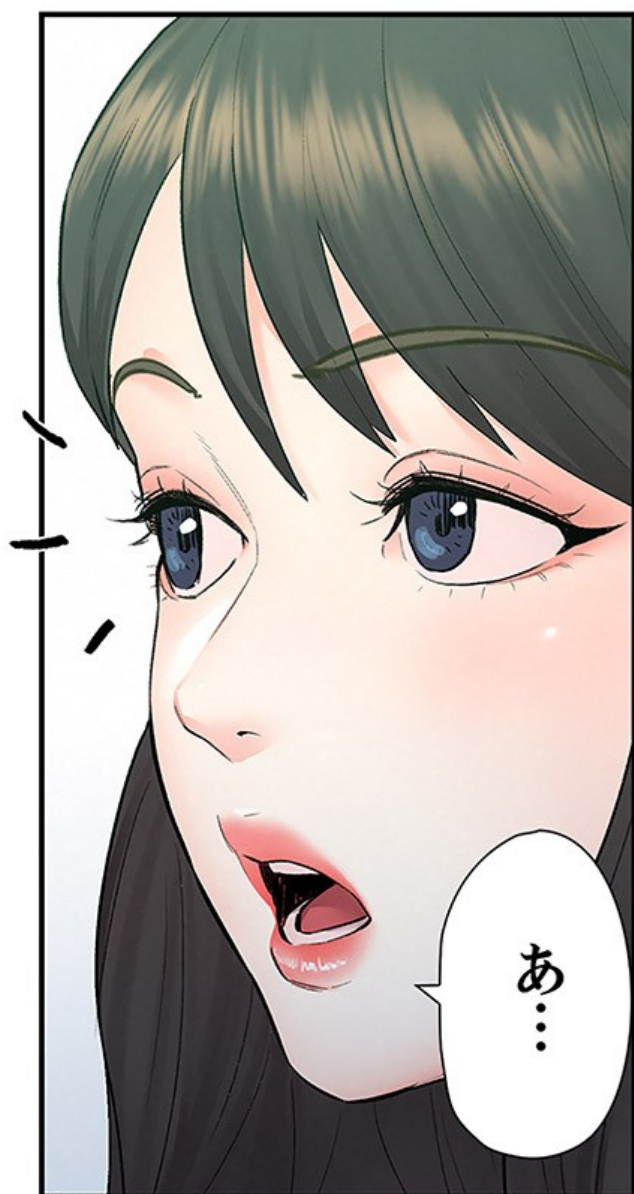
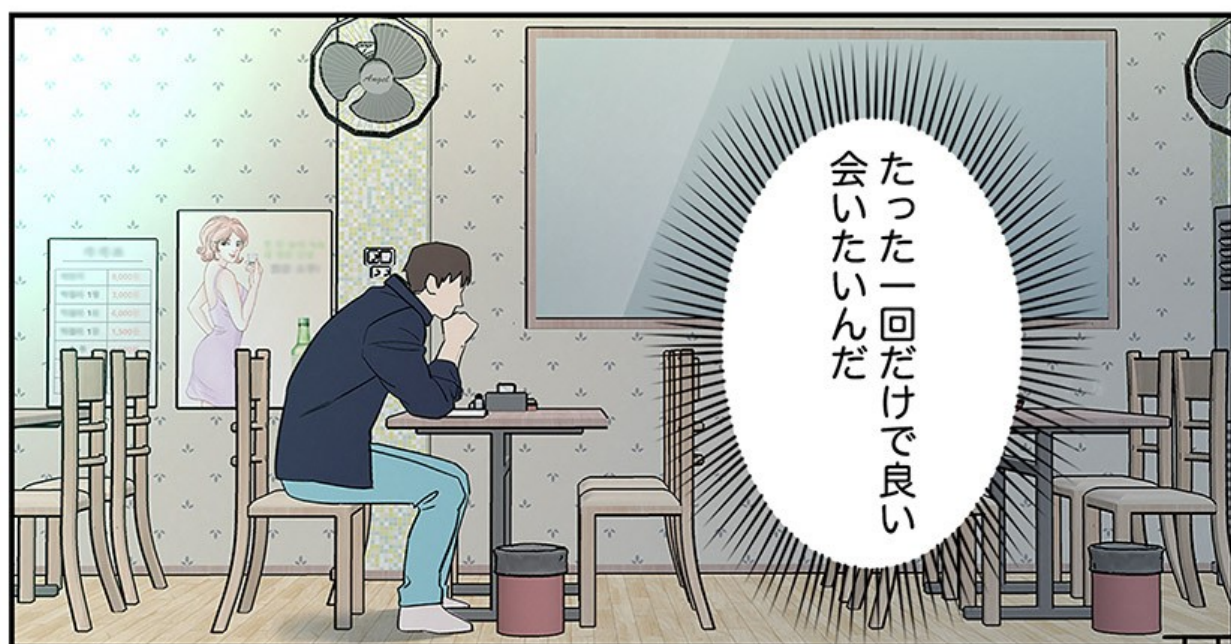
あ…
起こして
しまいましたか

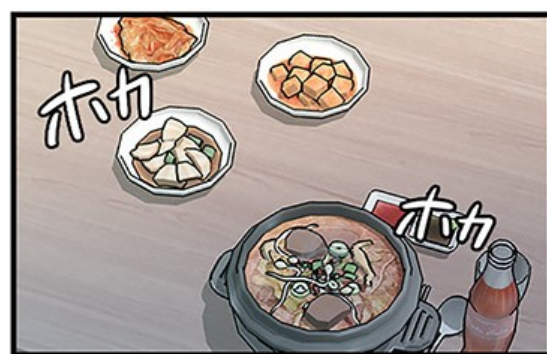


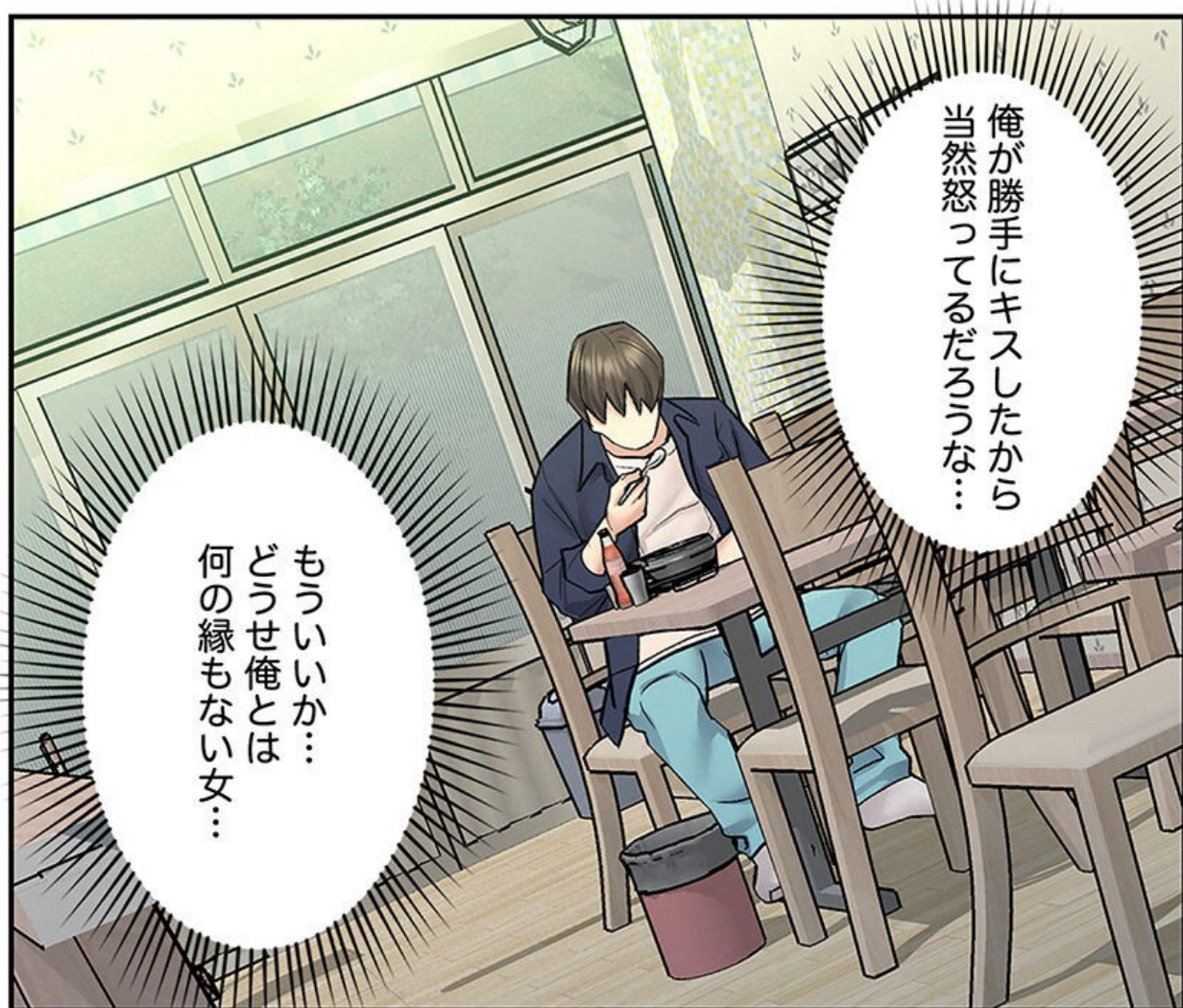
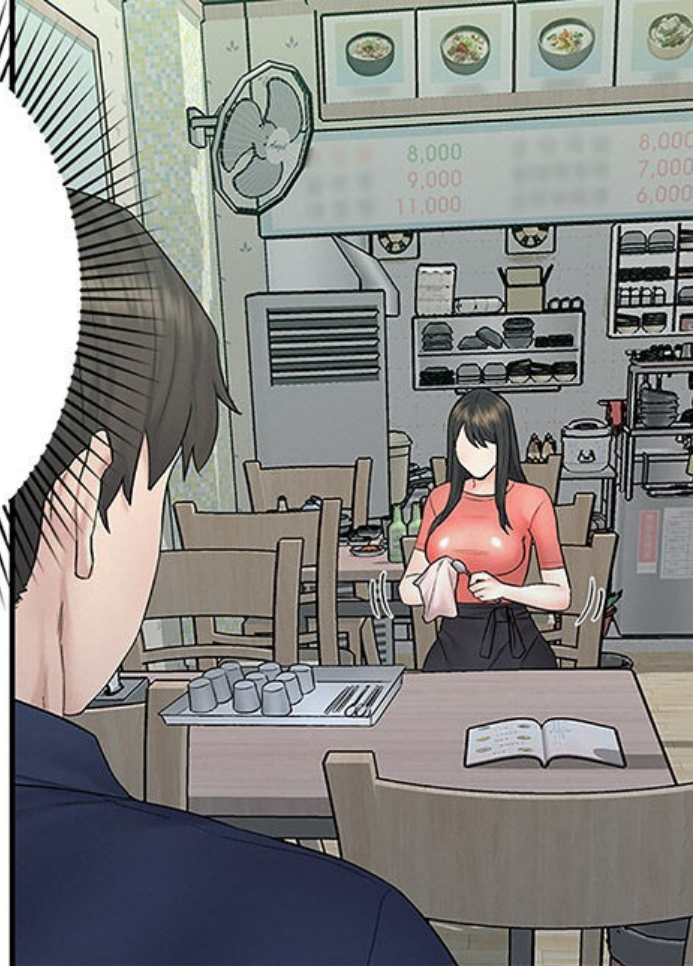
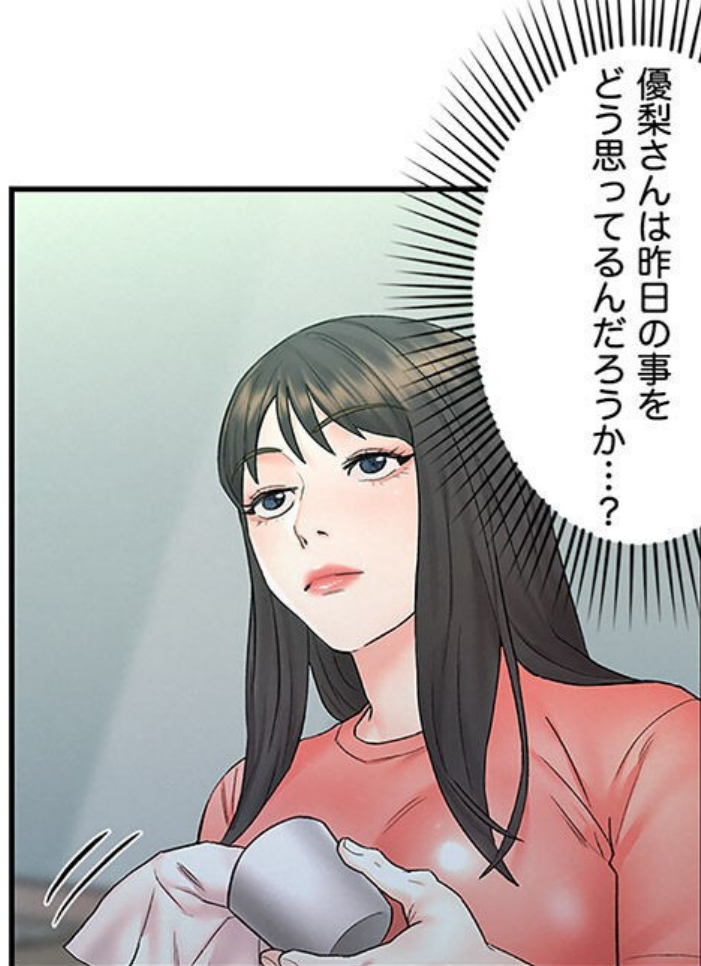
雄太さん
もう起きたの？

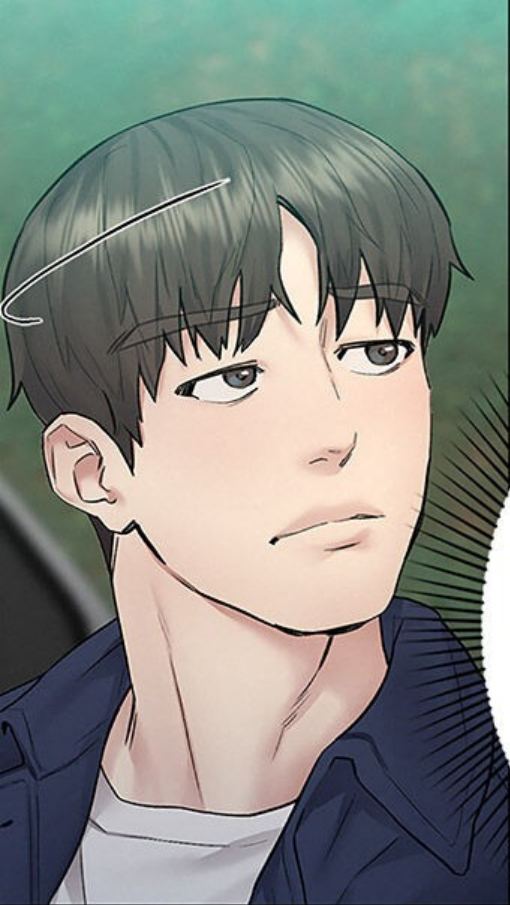












ただこうやって
ちよっと顔を見れた
だけで良かった

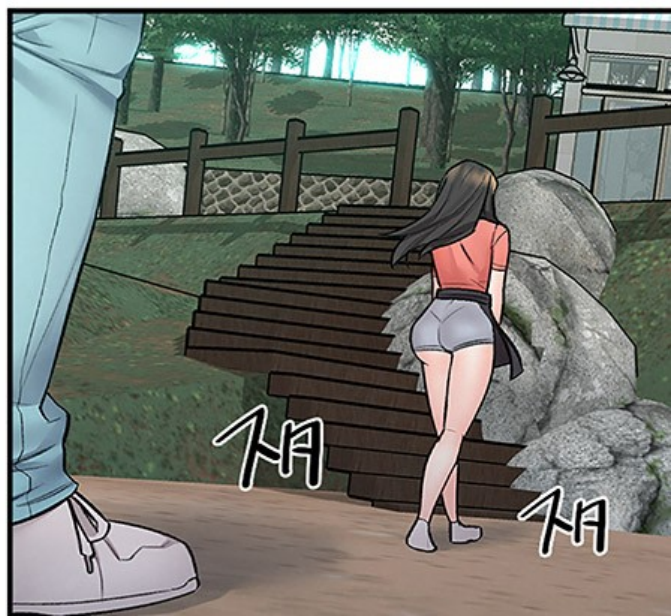
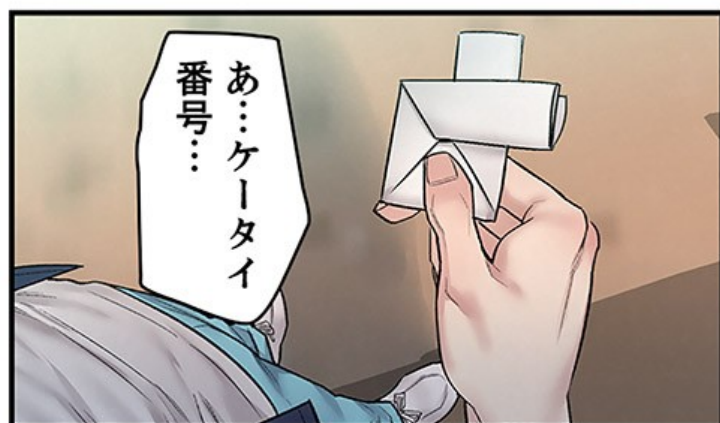
あんな綺麗な若い子と
どうにかなろうなんて
夢い夢だったな…

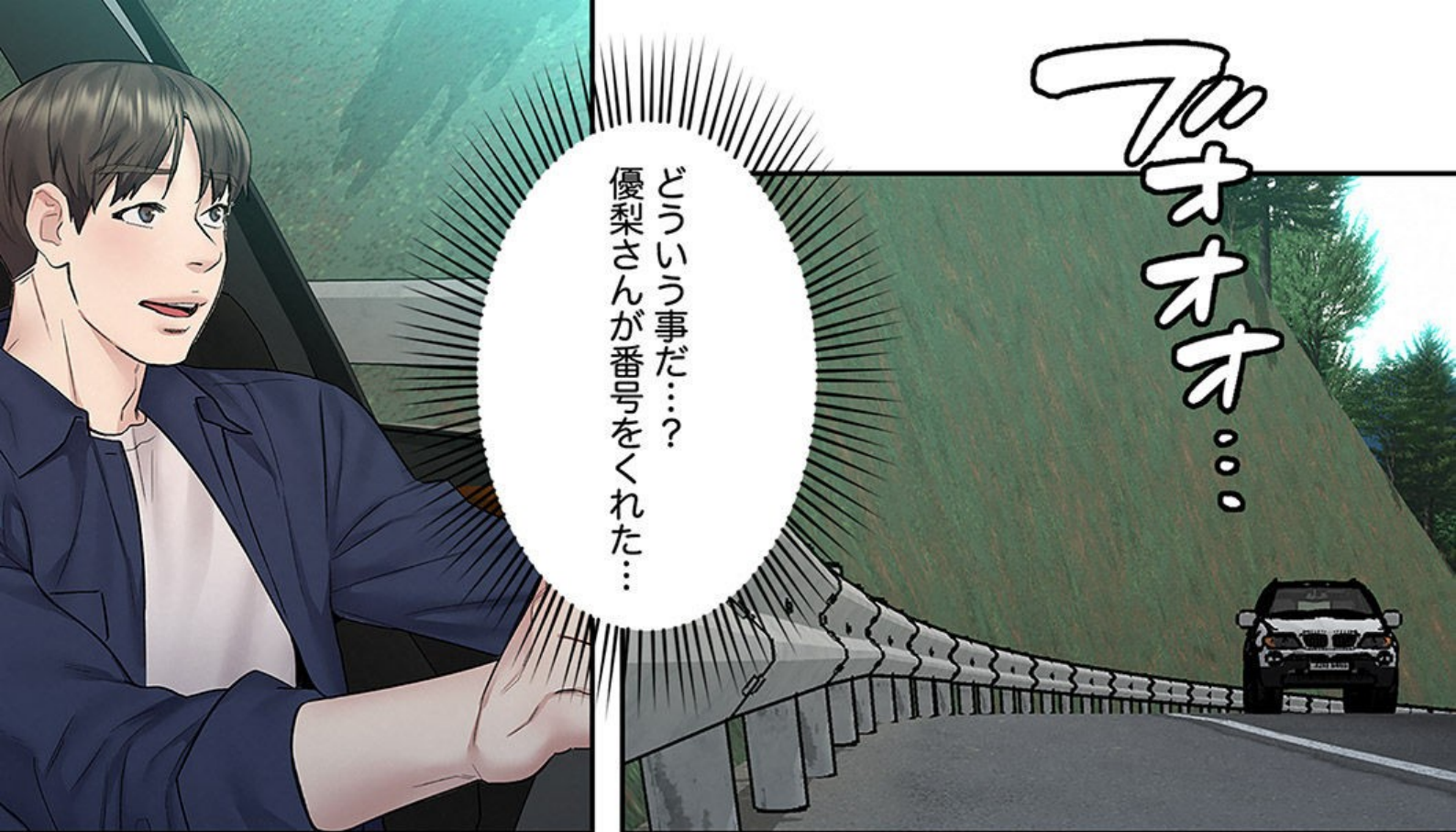


雄太さん
これ受け取って
ください



あ…
優梨さん…





どういう事だ…?
優梨さんが番号をくれた…



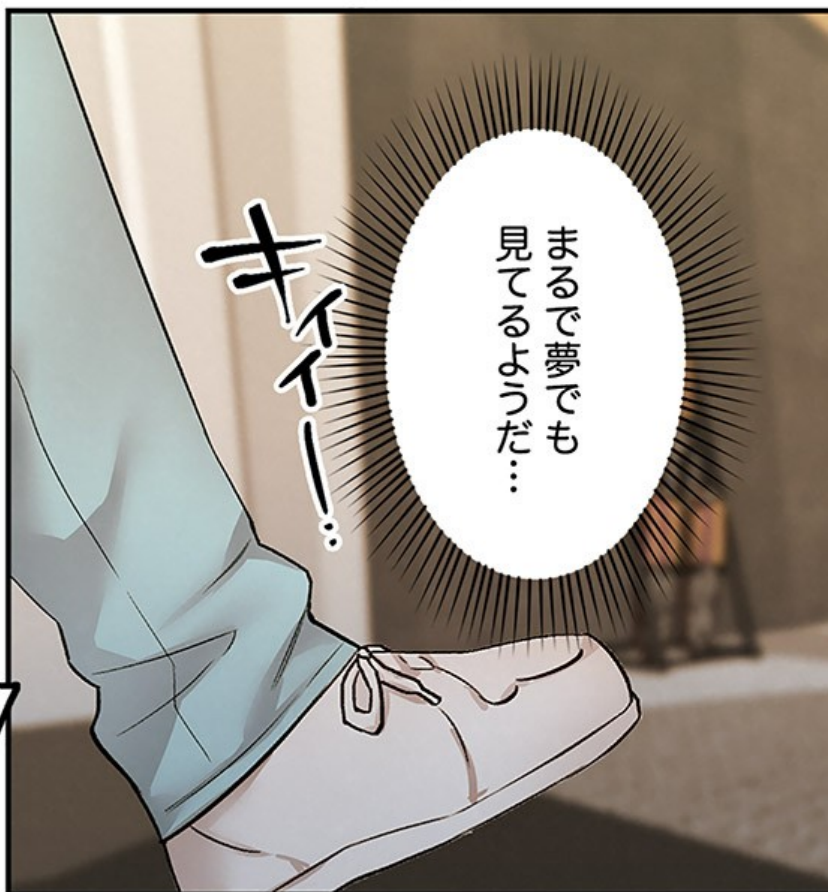
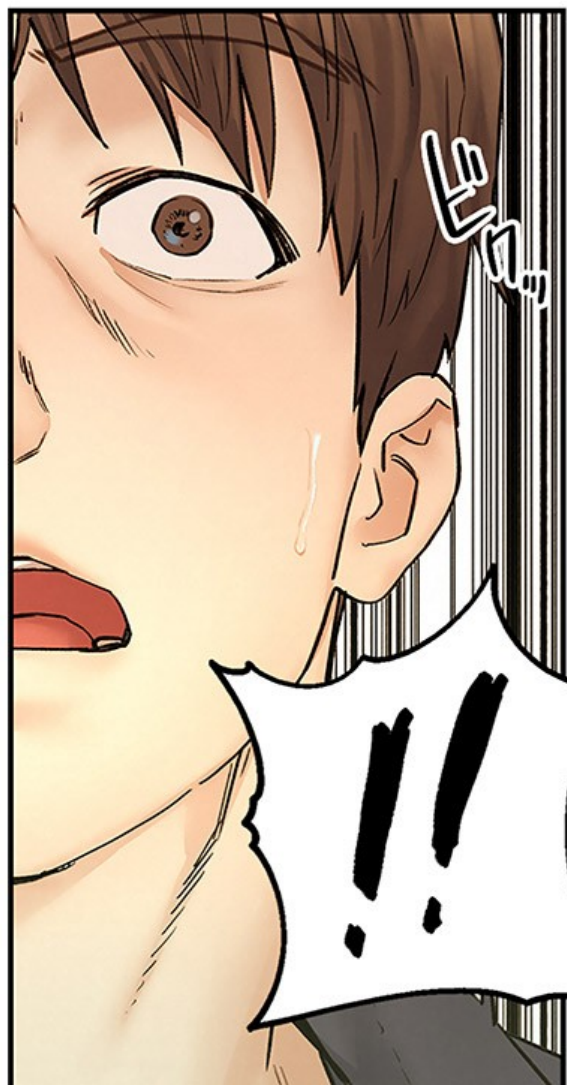
それってつまり優梨さんと
デートするって事だよな!

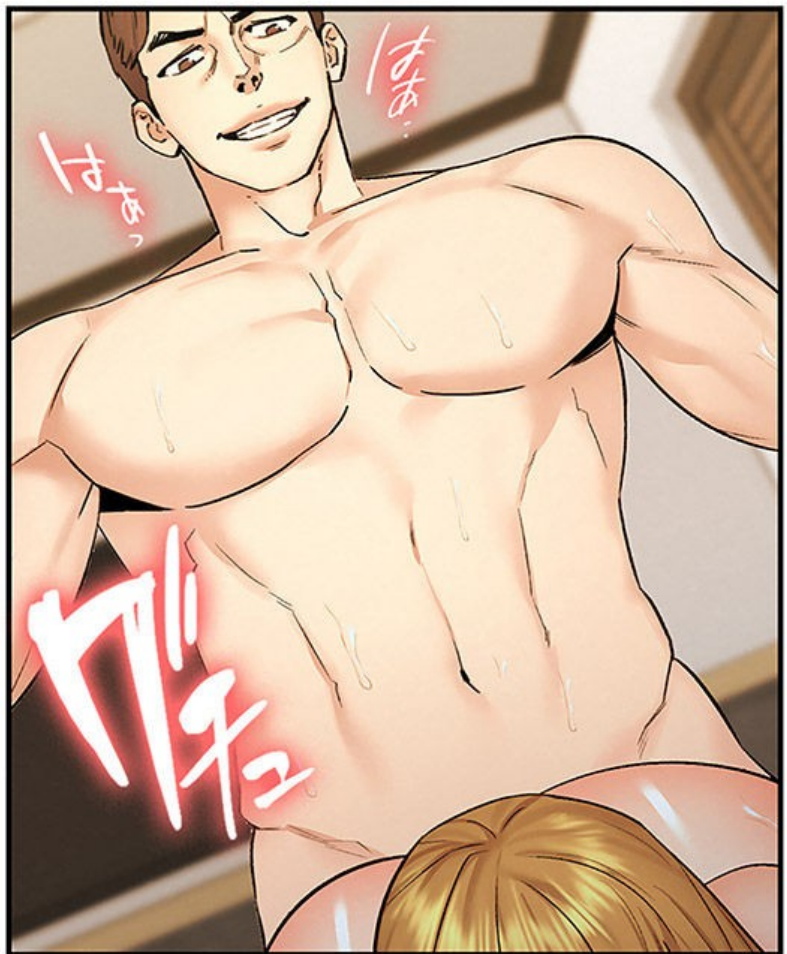
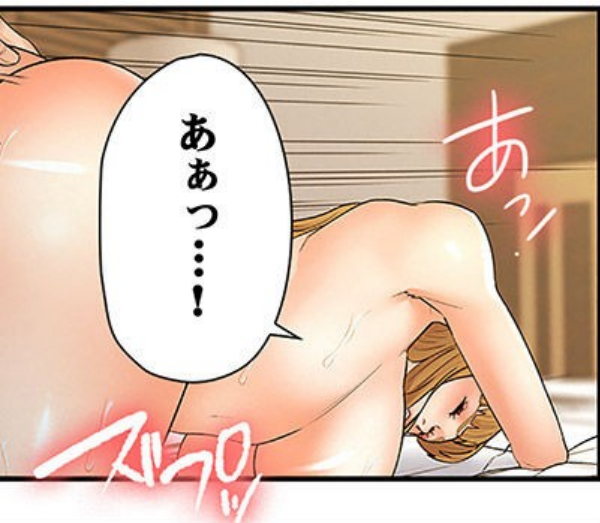


観光案内って…
二人っきりで会おう
って事だろ…?



たったの1時間で
こんな事が起きるなんて…







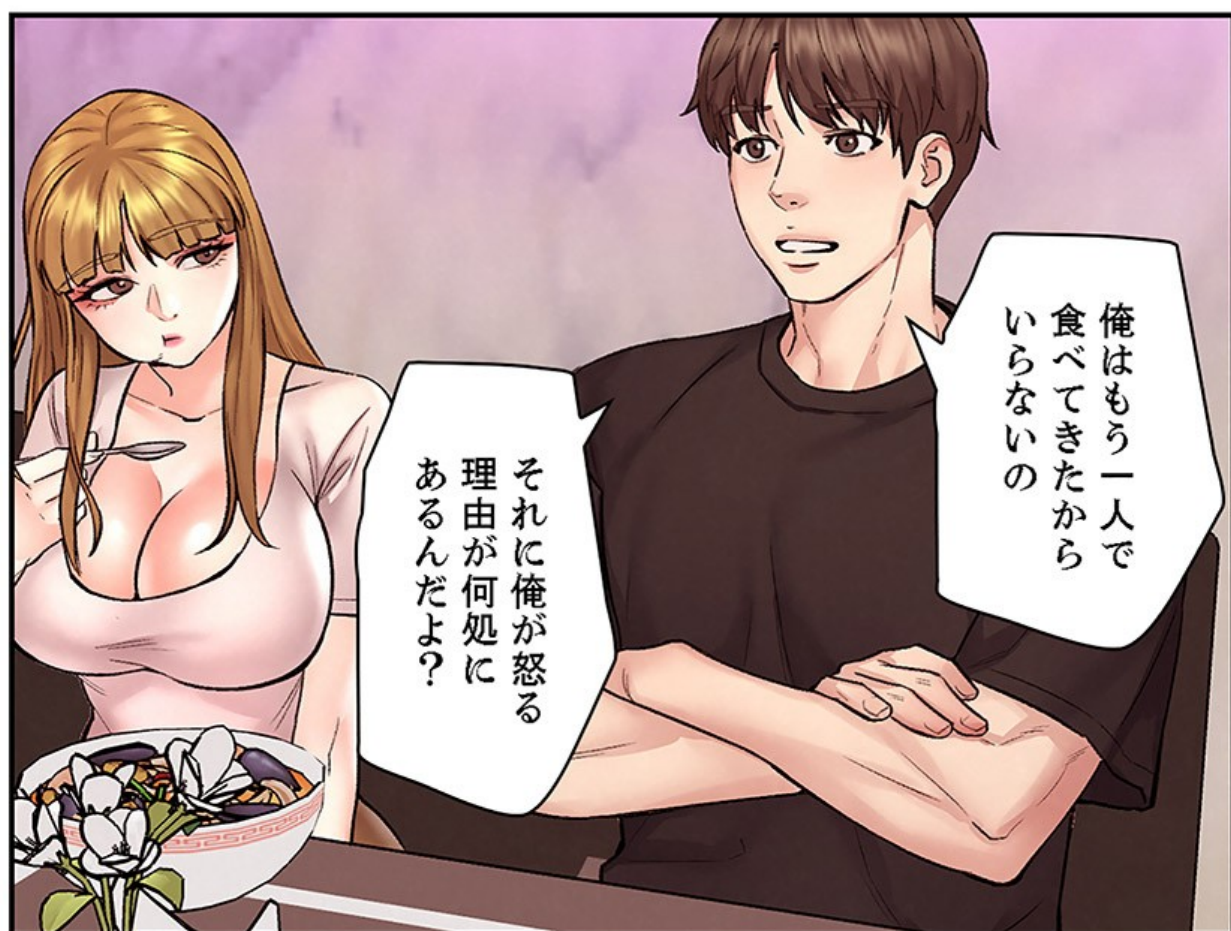








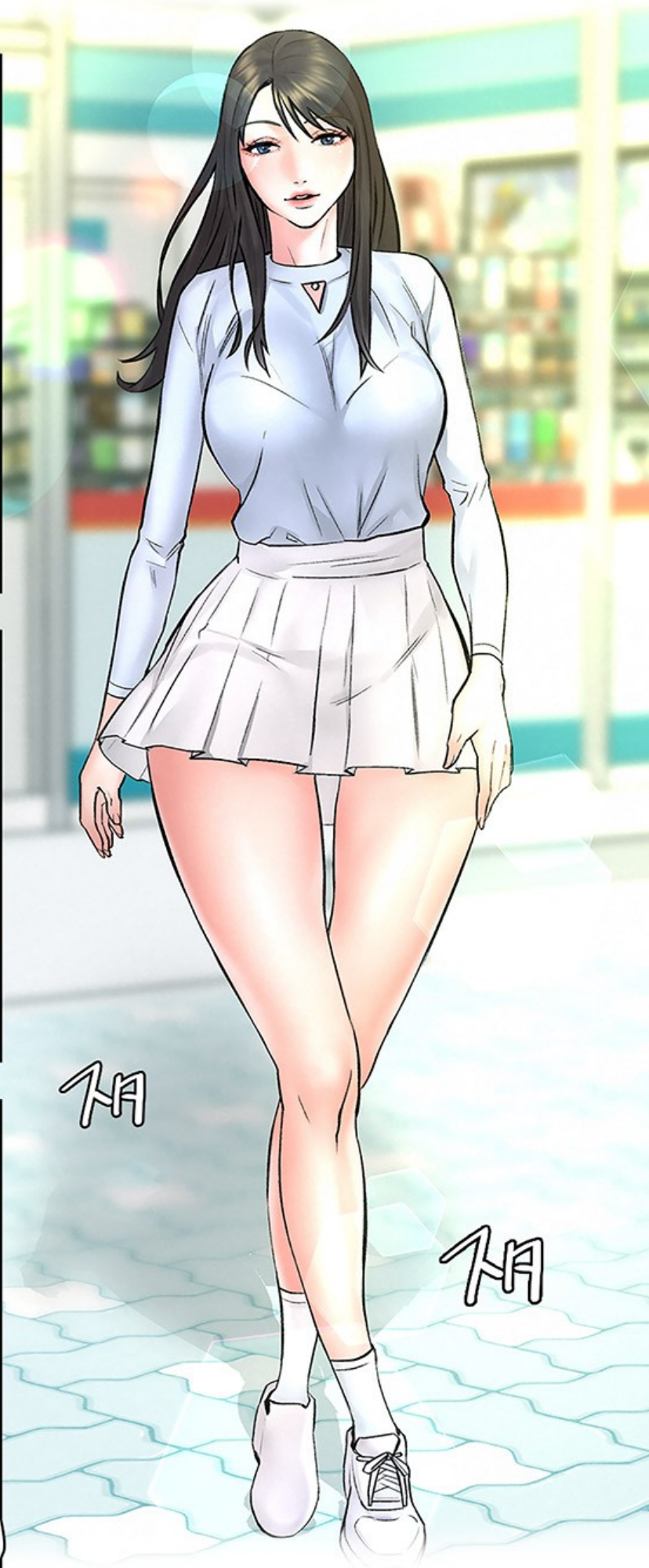






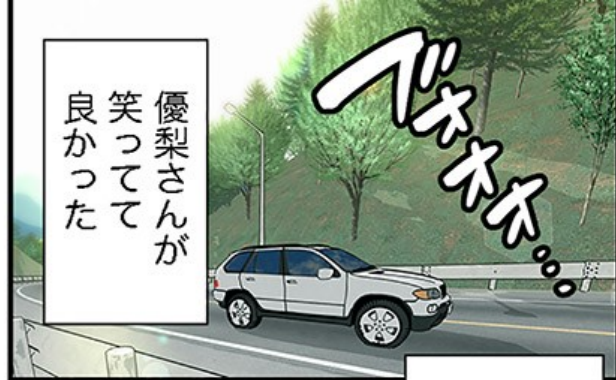








優梨さんの表情ひとつで
俺の心が天国と地獄を
行き来するとは…



優梨さんが
笑ってて
良かった



笑顔を見ると
急に世界が
明るくなった



今日はなんだか
良い事が
起こりそうな気分だ



過ぎ去った俺の青春を
振り返ってみても優梨さん
みたいな女性に会った事はない

今までの俺の人生に
こんな日は一度たりとも
なかった



こんなに綺麗な
ヒロインとデートなんて
もってのほかだった

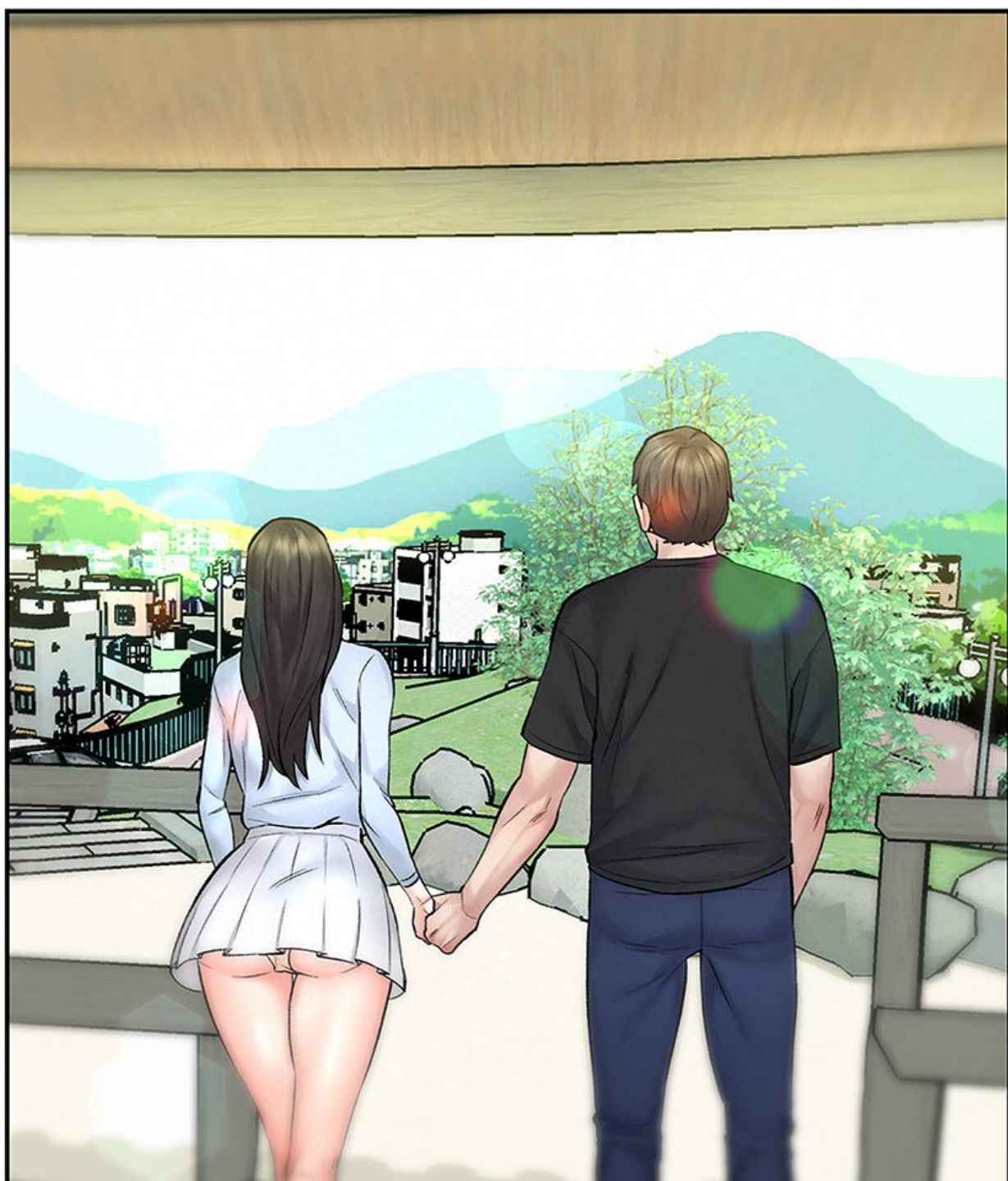


まあ：俺はモブキャラみたいな
存在だったし：

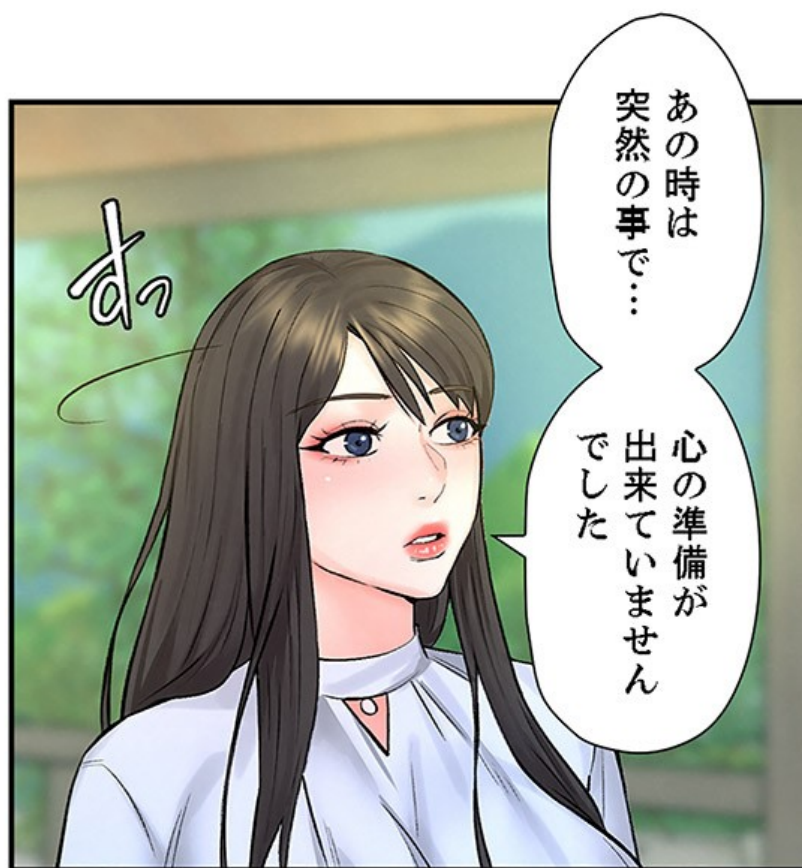


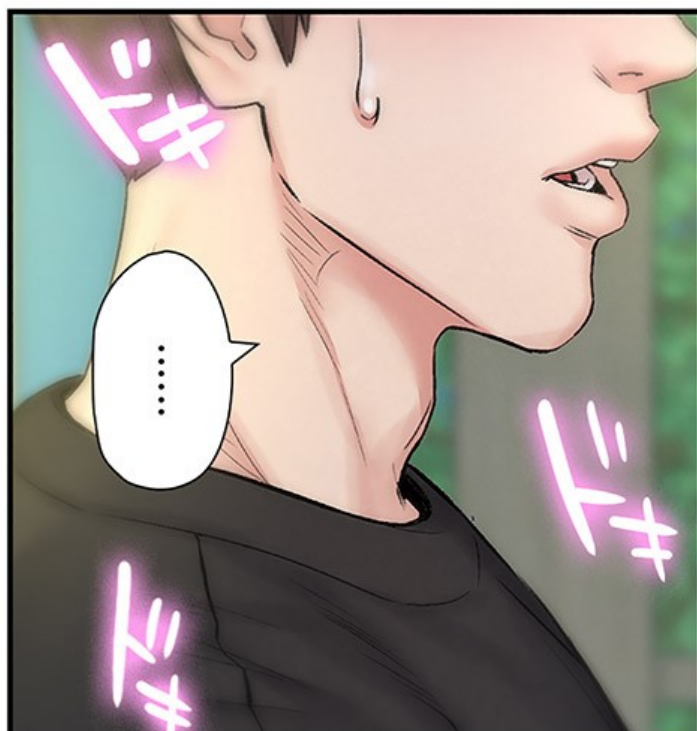
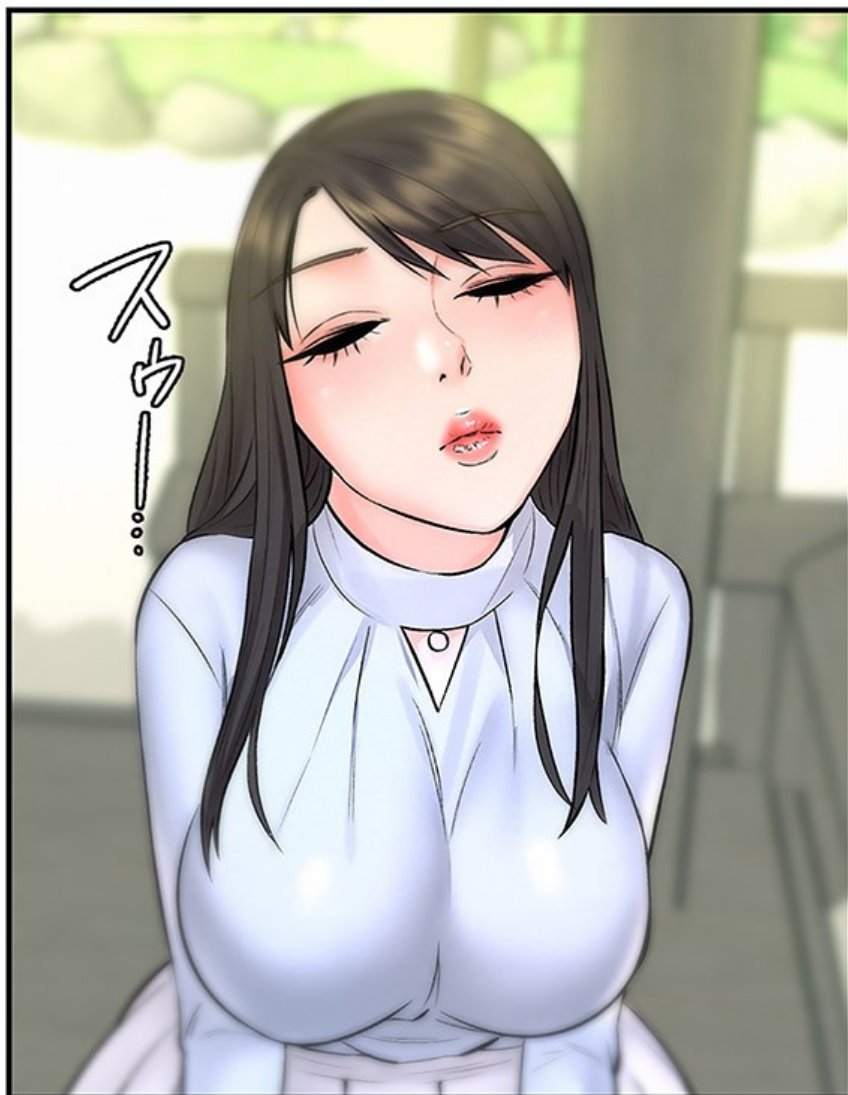
ははは



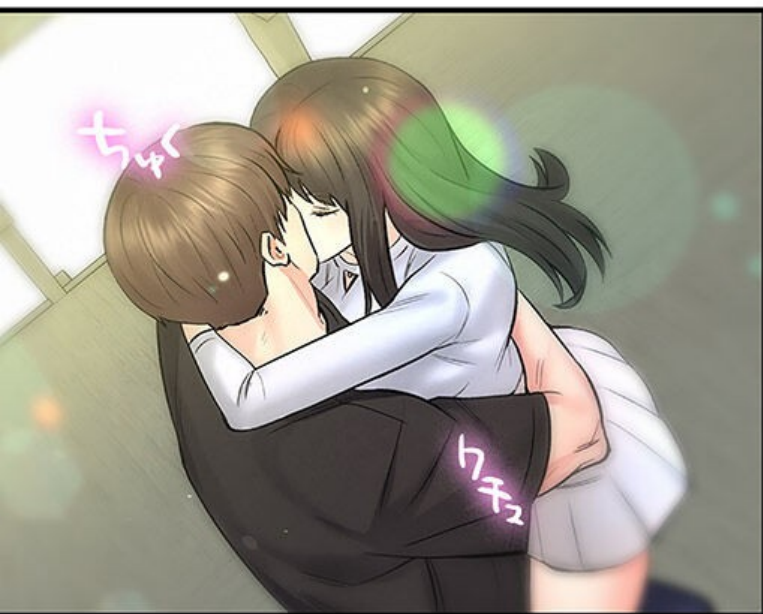














旅先インモラル【合本版】 1

著者 ぞんぷりん & アライブ

発行 Rush!

表紙デザイン CoCo.Design

この物語はフィクションです。登場する人物・団体・名称等は架空であり、実在のものとは関係ありません。
本作品の全部あるいは一部を無料で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©Zongpurin/Alive 2023